VI.　沖縄県を訪れている観光客の実態調査

１．　沖縄県を訪れている観光客の実態調査の概要

１－１．　本調査の目的

現在、沖縄を訪れる観光客のリピート率は約 80%となっており、沖縄観光はリピーター層に支えられている状況にある。リピーター層の安定的な確保のためには、リピート客の傾向やニーズ等の把握が必要である。本調査では、沖縄を訪れる観光客に対し、いつ、どこに、どの程度の人数がいるかという点に着目し、携帯電話の仕組みを利用した人口統計であるモバイル空間統計と、携帯電話や PC によるアンケート（プレミアパネル）を使った調査・分析により、その傾向を明らかにする。

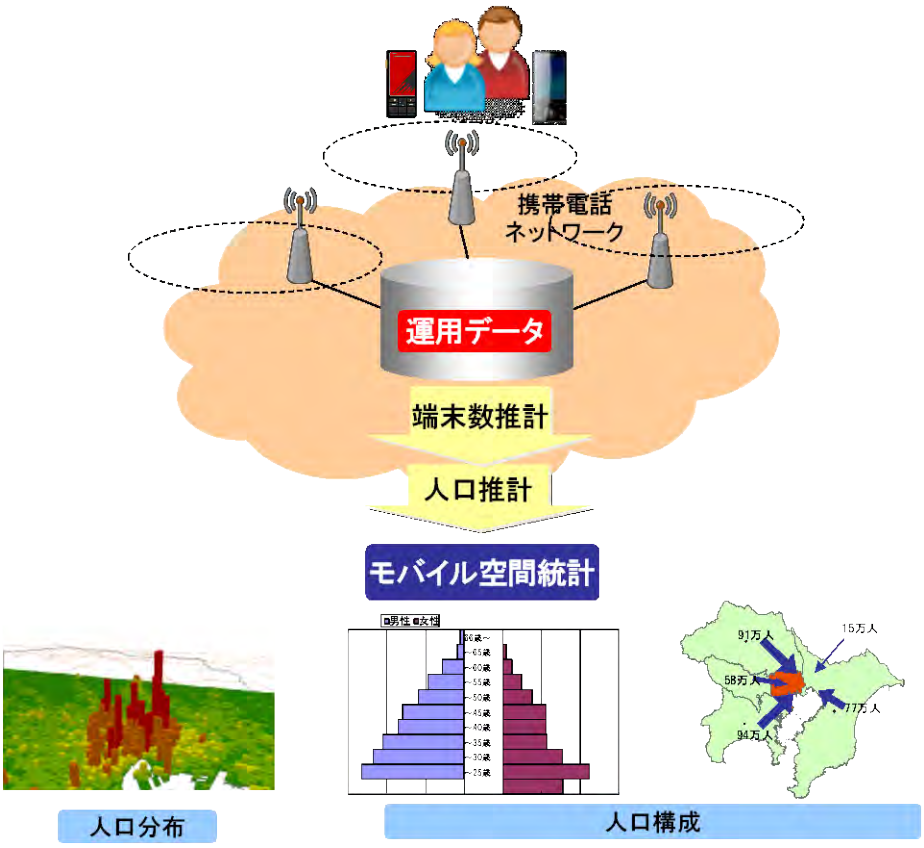
１－２．　調査方法

（１）　モバイル空間統計

本調査では、客観的かつ詳細な調査を行うため、株式会社 NTT ドコモが研究を進めている「モバイル空間統計」を用いて分析を行った。

モバイル空間統計は、携帯電話ネットワークの仕組みを利用して作成される人口の統計情報である。モバイル空間統計により、エリアごとの人口の分布、性別・年代・居住エリアごとの人口の構成などを知ることが可能である。

図表 VI－１－１ モバイル空間統計の概要



モバイル空間統計は、携帯電話ネットワークの運用データを活用し、ある時、ある場所の現在人口を推計した統計情報である。人口の時間単位の変化に加え、性別・年齢層別の人口や居住エリア別など属性毎の人口構成も把握できる。そのため、現在人口を月毎、曜日毎、時間毎、性別、年齢毎、居住エリア毎に継続して推計でき、時間や地域による推移や変化を調べられる。

本調査ではこのモバイル空間統計を用いて、沖縄を訪れている観光客数の実態について以下の4つの調査を行った。

① 沖縄県への観光客数の調査・分析

【調査の目的】

沖縄県への県外観光客がどの都道府県からどの程度来ているのか、また性別・年齢層による構成を明らかにし、その観光客数が月別、平休日別によってどのように変化するかを俯瞰的に調査する。

図表 Ⅵ－１－２　沖縄県全域観光客数調査概要

調査項目	10 月･1 月の沖縄県全域における県外観光客数
調査時期	平成 24 年 10 月および平成 25 年 1 月
調査対象	平成 24 年 10 月および平成 25 年 1 月の水曜日(平日)･土曜日(休日)に沖縄県にいた県外観光客数
調査方法	モバイル空間統計

② 広域圏観光客数の調査・分析

【調査の目的】

沖縄県を 12 の広域圏に分割し､各広域圏への県外観光客がどの居住エリアからどの程度来ているのか、また性別・年齢層による構成を明らかにし、その観光客数が月別、平休日別によってどのように変化するかを詳細に調査する。

図表 Ⅵ－１－３　広域圏観光客数調査概要

調査項目	10 月･1 月の広域圏における県外観光客数
調査時期	平成 24 年 10 月および平成 25 年 1 月
調査対象	平成 24 年 10 月および平成 25 年 1 月の水曜日(平日)･土曜日(休日)に広域圏にいた県外観光客数
調査方法	モバイル空間統計

③ 市町村圏観光客数の調査・分析

【調査の目的】

沖縄県の市町村ごとの県外観光客数の時間推移を調査することにより、観光の観点による各市

町村の特性を明らかにする。

図表 VI－１－４　沖縄県市町村観光客数調査概要

調査項目	10 月･1 月の市町村における県外観光客数
調査時期	平成 24 年 10 月および平成 25 年 1 月
調査対象	平成 24 年 10 月および平成 25 年 1 月の水曜日(平日)･土曜日(休日)に各市町村にいた県外観光客数
調査方法	モバイル空間統計

④ イベント来場者数の調査・分析

【調査の目的】

沖縄県で行われるイベントの来場者を調査し、どの地域からどの程度来ているのか、また性別・年齢層による構成を明らかにし、時間帯による来場者数の推移を分析する。

図表 VI－１－５　イベント来場者調査概要

調査項目	イベントへの来場者数等
調査時期	①平成 24 年 10 月 6～7 日 ②平成 25 年 2 月 9～11 日
調査対象	①世界エイサー大会への来場者 ②プロ野球キャンプへの来場者
調査方法	モバイル空間統計

（２） アンケート調査

携帯電話（及び PC）を使ってオンラインアンケート調査を実施した。

使用したアンケート調査サービス「プレミアパネル」（株式会社 NTT ドコモ）
「プレミアパネル」の詳細は下記 URL 参照
http://www.docomo.biz/html/service/premierepanel/

① プレミアパネル観光客調査

【調査の目的】

過去 1 年間に沖縄県を訪れた観光客に対し、来沖回数や宿泊日数、訪問先等を調査する。

図表 VI－１－６　プレミアパネル観光客調査アンケート構成

調査項目	沖縄旅行の回数、目的地等
調査時期	平成 25 年 1 月 11 日～平成 25 年 1 月 12 日
調査対象	平成 24 年に来沖した県外居住者

調査方法	プレミアパネル
有効回収数	4,249

② プレミアパネルイベント調査

【調査の目的】

平成 24 年 10 月に開催された、世界エイサー大会を訪れた、大会会場近隣居住者の人数や滞在時間、満足度等を調査する。

図表 VI－１－７　世界エイサー大会アンケート構成

調査項目	世界エイサー大会会場近隣居住者数と来場者の傾向等
調査時期	平成 24 年 11 月 2 日～平成 24 年 11 月 11 日
調査対象	那覇市居住者
調査方法	プレミアパネル
有効回収数	1,004

２．　観光客数調査

これまで沖縄県への観光客数に関して飛行機などの乗客者数やアンケート調査を利用して調査してきた。既存の調査に加え、モバイル空間統計やプレミアパネルを利用した調査を実施することにより、平日と休日の違いや、広域圏や市町村間の比較を様々な角度から行い、これまで把握できなかった観光客の実態を新たに調査する。

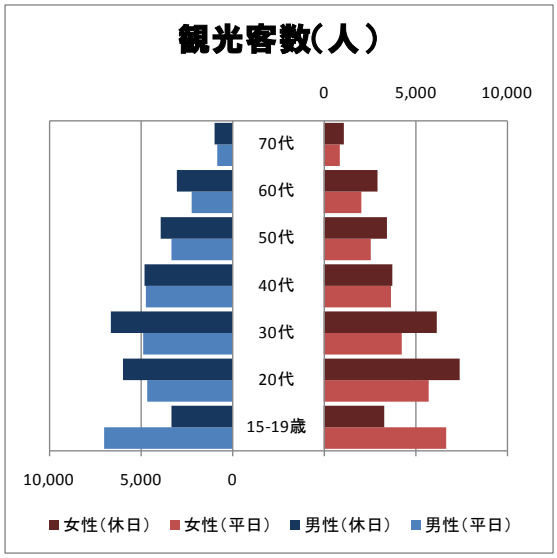
本調査では、年齢・性別、居住エリア別の観光客数やその時間による増減を調査し、月別や平休日別に比較することで、各地域の特徴を明らかにする。

２－１．　沖縄県全域

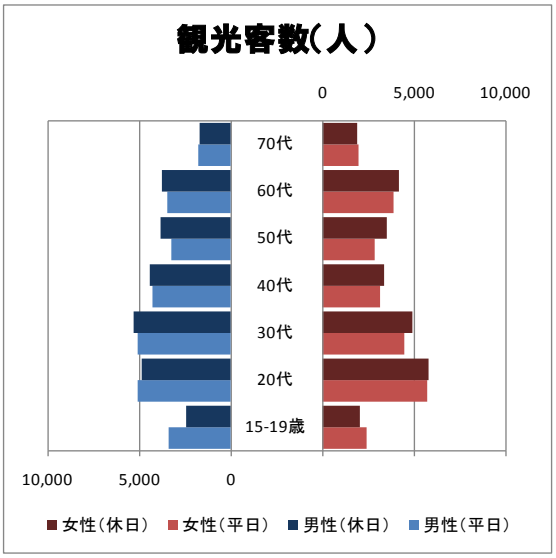
（１）　性別・年齢層別県外観光客数について

図表 VI－２－１に 10 月の、および図表 VI－２－２に１月の、沖縄県に滞在している県外観光客の性別・年齢層別分布を示す。図表の観光客数は各月の平日（水曜日）・休日（土曜日）の 13 時時点の平均人数である。

図表 VI－２－１　沖縄県全域観光客 性別・年齢層別分布（10 月）



図表 VI－２－２　沖縄県全域観光客 性別・年齢層別分布（1 月）



① 10 月調査結果

15～19 歳から 30 代の観光客が多い。15～19 歳を除いて男性は 30 代が、女性は 20 代が最も多く、休日の方が平日より多い。15～19 歳は休日に比べて平日が著しく多いが、修学旅行の影響と推測される。年齢が上がるに従って観光客は少なくなる。

② １月調査結果

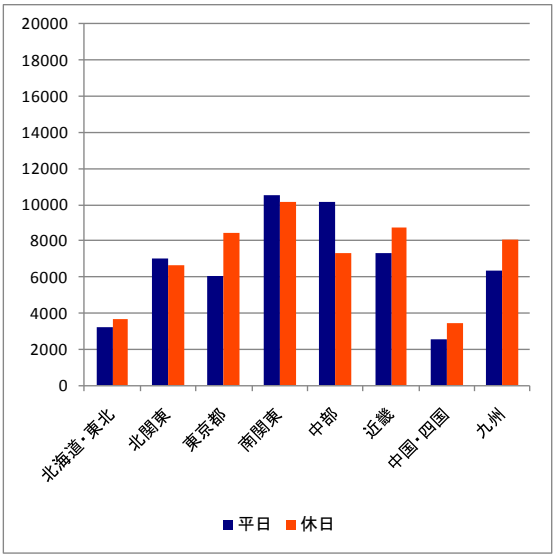
10 月に比べて 15～19 歳の観光客は大きく減少している。年齢層の中では 20 代、30 代が多いが、10 月に比べると 60 代が増加している。平休日の差が 10 月に比べて小さいのも特徴である。

（２） 居住エリア別県外観光客数について

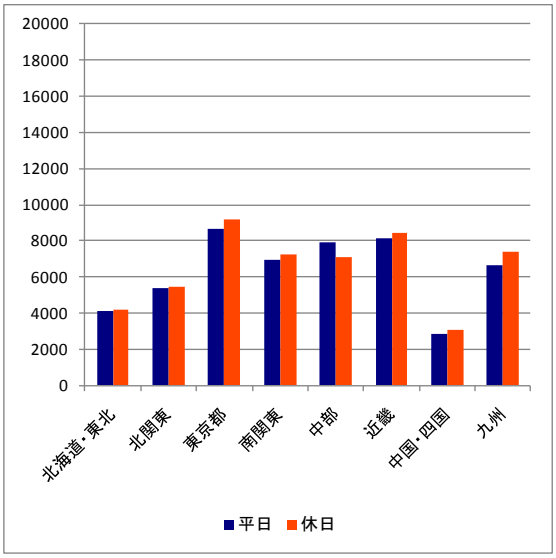
図表 VI－２－３に 10 月の、図表 VI－２－４に 1 月の、沖縄県に滞在している県外観光客の居住エリア別分布を示す。図表の観光客数は各月の平日（水曜日）・休日（土曜日）の 13 時時点の平均人数である。なお関東地方からの観光客が特に多い傾向であるため、関東地方は下記のように 3 種類に分割した。

- 北関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県
- 東京都：東京都
- 南関東：千葉県・神奈川県

図表 VI－２－３　沖縄県全域観光客 居住エリア別分布（10 月）



図表 VI－２－４　沖縄県全域観光客 居住エリア別分布（1 月）



① 10 月調査結果

平日は、南関東、中部、近畿地方の順であるのに対し、休日は南関東、近畿地方、東京都の順となり、平休日の居住エリアによる観光客数の差が大きい。修学旅行の影響が大きいものと思われる。西日本では概して休日の観光客が多い。

② 1 月調査結果

10 月は平休日の差異が顕著であるのに対し、1 月は小さくなっている。全体では 10 月に比べて観光客が減っているが、北海道・東北地方と東京都は増加している。

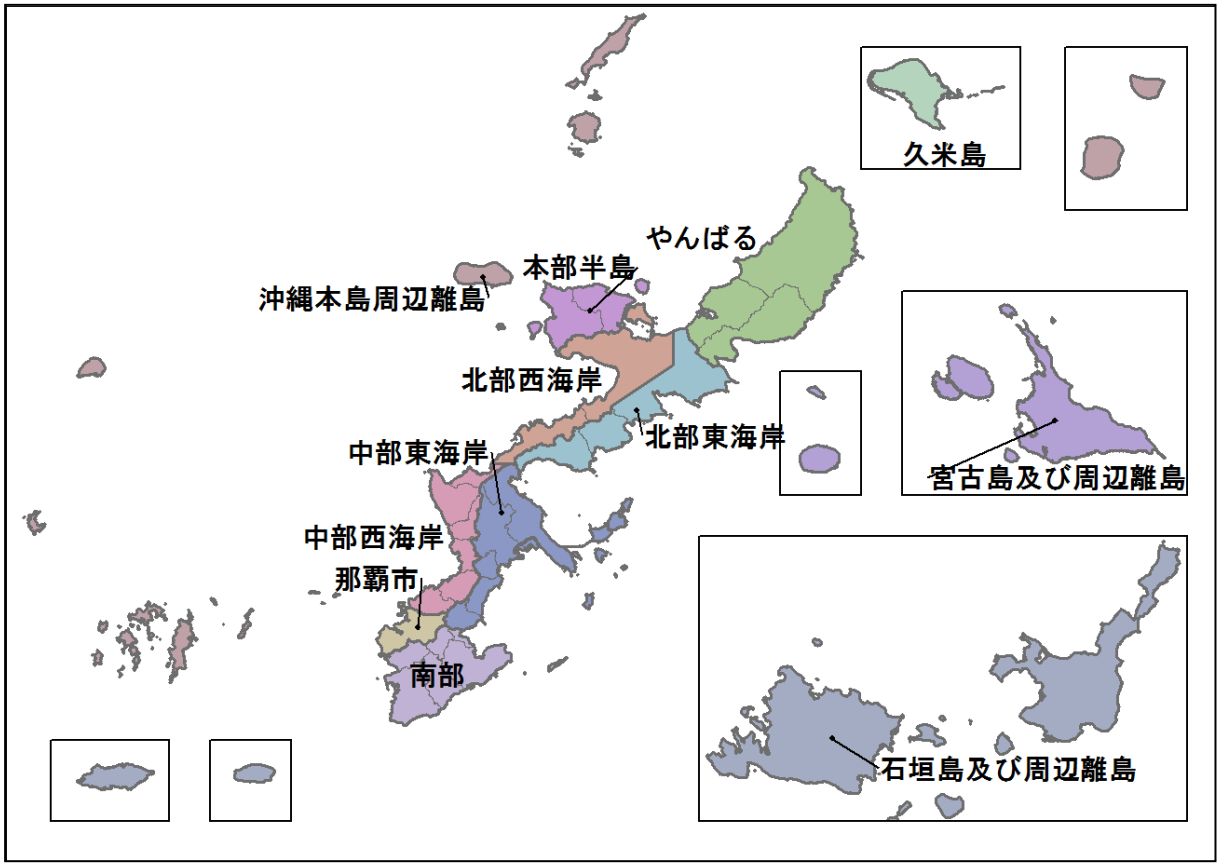
２－２．　広域圏

（１）　広域圏について

平成 23 年度沖縄県観光統計実態調査に従って、沖縄県を下記の 12 の広域圏に分割し、調査・分析を行った。

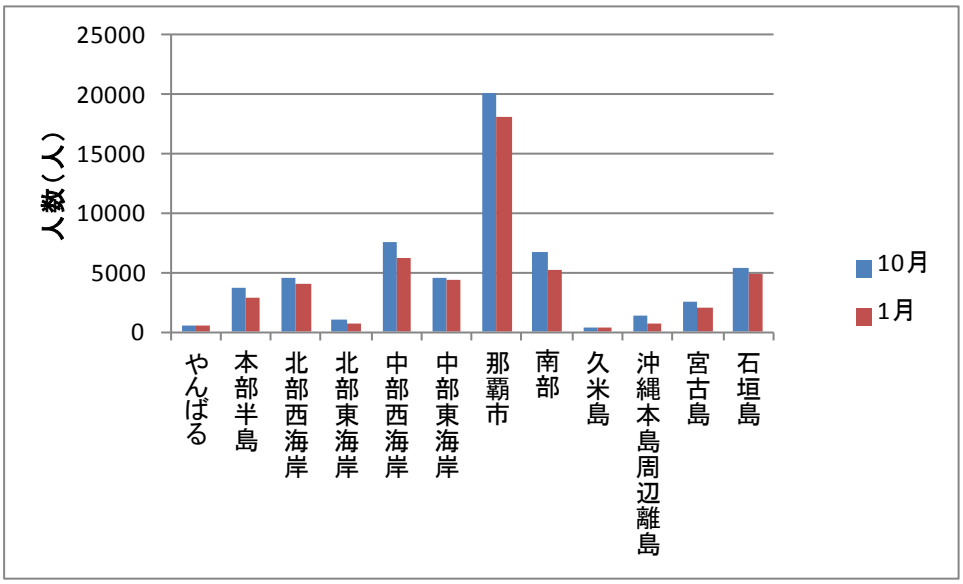
1. やんばる
2. 本部半島
3. 北部西海岸
4. 北部東海岸
5. 中部西海岸
6. 中部東海岸
7. 那覇市
8. 南部
9. 久米島
10. 久米島以外の沖縄本島の周辺離島
11. 宮古島及び周辺離島
12. 石垣島及び周辺離島

図表 VI－２－５　沖縄県 12 広域圏

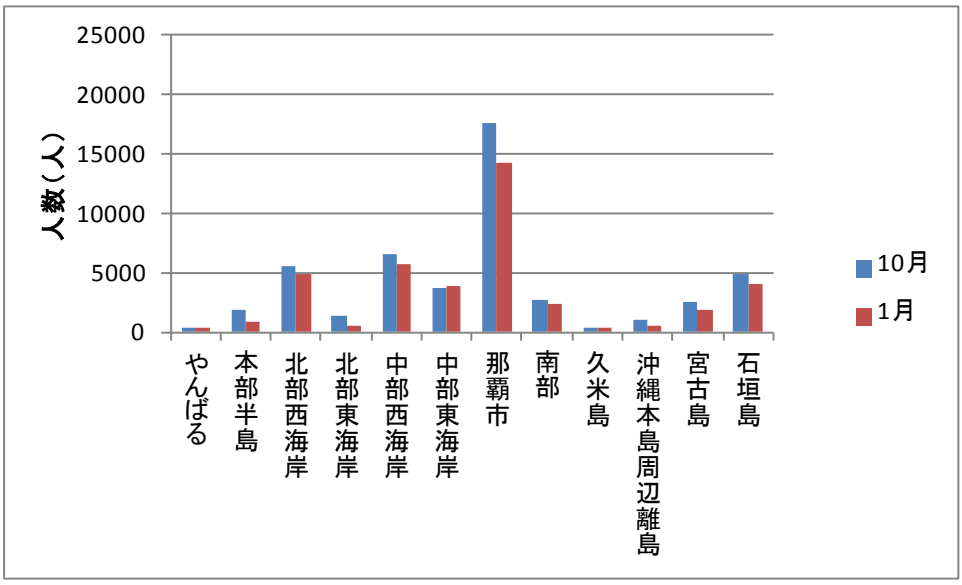


図表 VI－２－６は、モバイル空間統計で推計した広域圏各エリアの昼間（午後１時）の観光客数である。エリア別には、那覇市が最も多く、中部西海岸、南部、石垣島、北部西海岸、中部東海岸、本部半島、宮古島の順で多い。深夜・早朝帯（午前４時）の観光客数を示した結果が図表 VI－２－７である。昼間とほぼ同等の傾向を示しているが、本部半島エリアと南部エリアで深夜・早朝帯の観光客が大きく減少している。

図表 VI－２－６　モバイル空間統計(午後１時)



図表 VI－２－７　モバイル空間統計(午前４時)



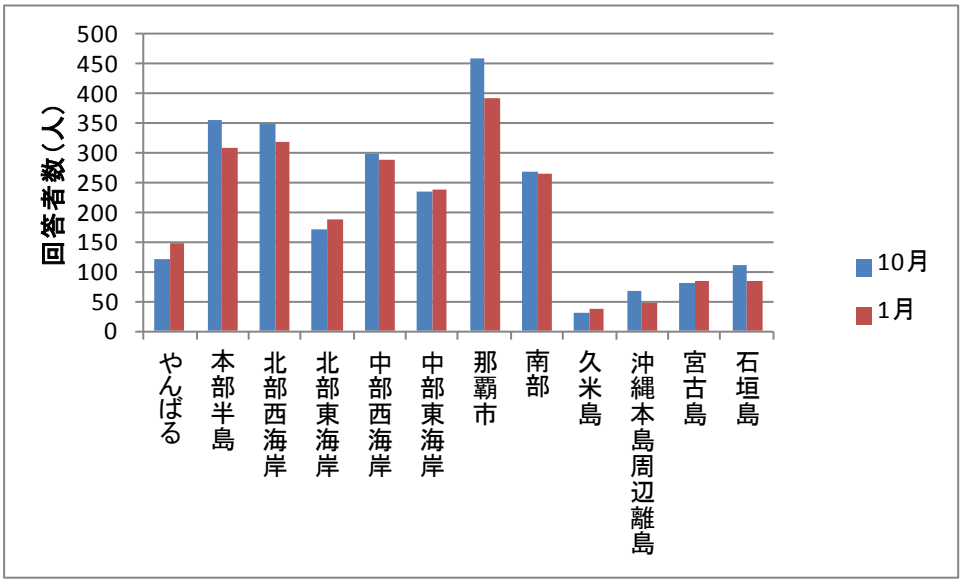
図表 VI－２－８、図表 VI－２－９は、それぞれプレミアパネルで調査した、広域圏各エリアの訪問者数と宿泊者数である。

モバイル空間統計は、ある１時間の平均人数を示しているのに対し、アンケート調査はその旅行中に１回でも訪問すれば集計される。そのため、滞在時間が短いエリアは、モバイル空間統計に比べ、アンケートの調査結果の値が大きくなる傾向がある。アンケートで那覇市とそれ以外の市町村との差が小さいのはその影響と考えられる。

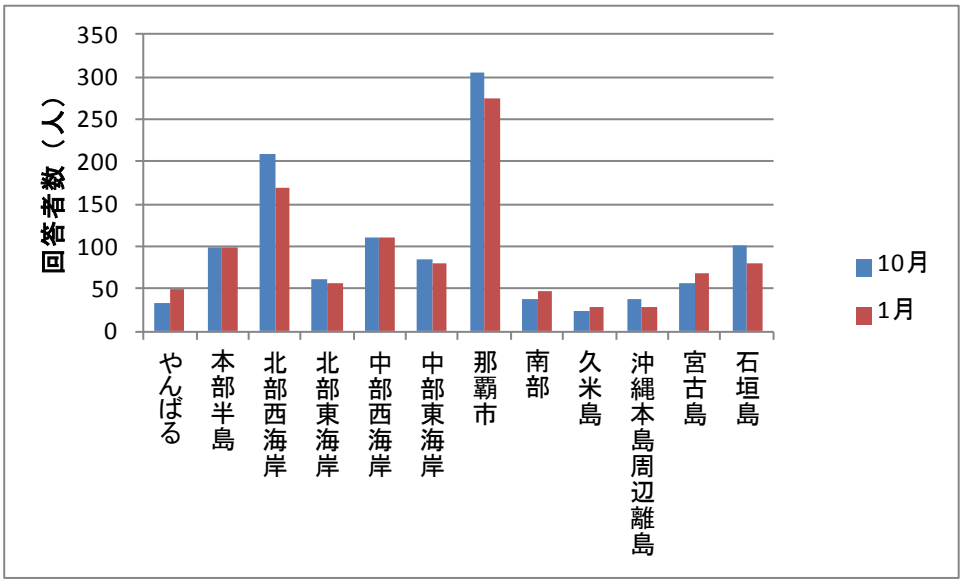
アンケート調査では、本部半島と北部西海岸エリアが、モバイル空間統計に比べて高い値となっている。これは上述の滞在時間や滞在日数、アンケート回答者の年齢層の偏り等による影響と考えられる。それ以外では、両者は似た傾向を示しており、特に滞在時間の影響が比較的小さい深夜・早朝帯の観光客数とアンケートによる宿泊者数との比較では、非常によく似た傾向を示し

ているといえる。

図表 Ⅵ－２－８　プレミアパネル(訪問者)



図表 Ⅵ－２－９　プレミアパネル(宿泊者)



以降では、モバイル空間統計の結果から、県外観光客数下位 4 エリアの「やんばる」、「北部東海岸」、「久米島」、「沖縄本島周辺離島」を除いた 8 エリアの詳細分析を行う。

（２）　性別・年齢層別県外観光客数について

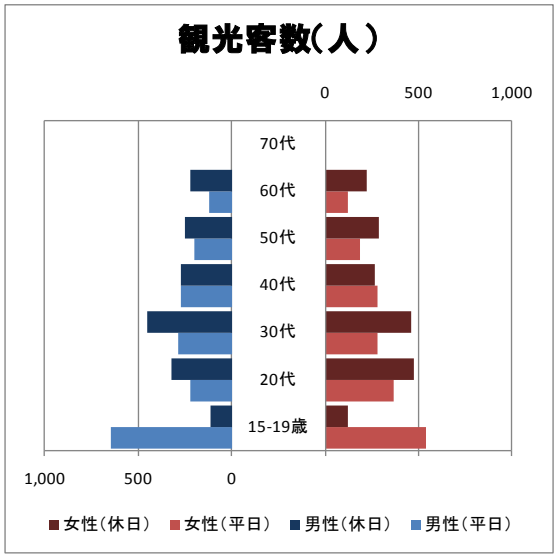
①　地域毎の調査・分析結果

(a) 本部半島

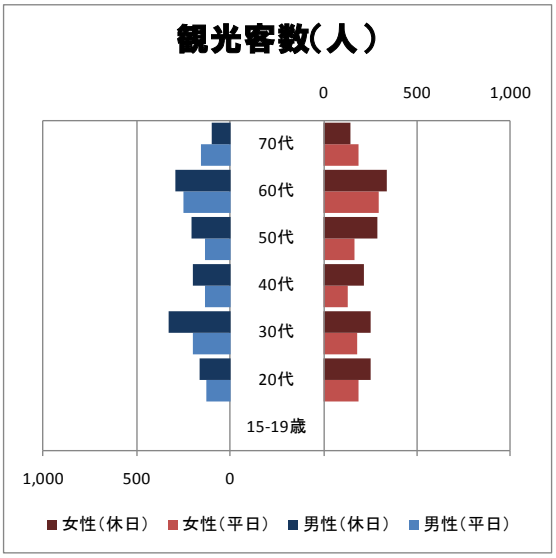
10 月は平日の 15～19 歳が圧倒的に多く、高齢になると観光客が減少する。15～19 歳を除いて平日よりも休日のほうが多い。1 月は、15～19 歳が大きく減少し推計値が出ていないのに対し、

60 代が増加している。全体的に平日よりも休日のほうが多いが、70 代は平日に多い。

図表 VI－２－１０　本部半島（10 月）



図表 VI－２－１１　本部半島（1 月）

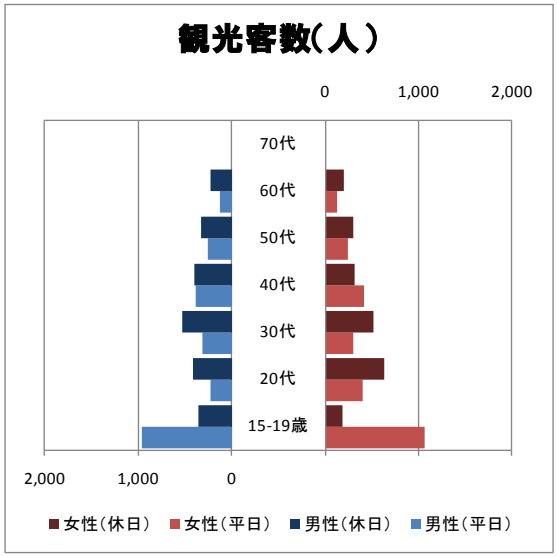


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

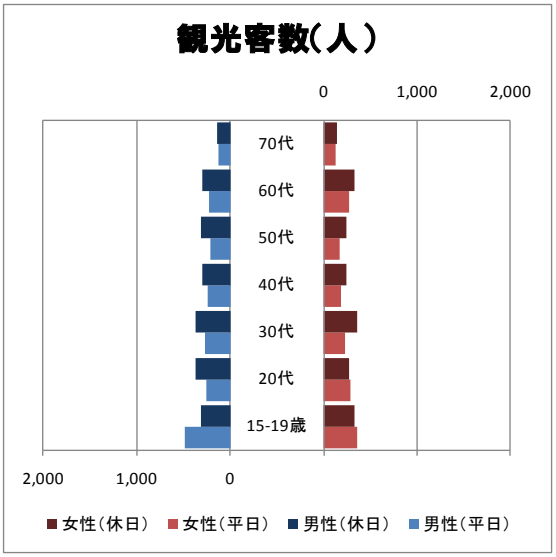
(b) 北部西海岸

10 月は本部半島エリアと同等な傾向を示す。平日の 15～19 歳は目立って多いが、休日は少ない。休日は 20 代、30 代が多い。1 月は全体的に観光客が減少する。15～19 歳から 60 代まで観光客数に大きな差がないのが特徴である。

図表 VI－２－１２　北部西海岸（10 月）



図表 VI－２－１３　北部西海岸（1 月）

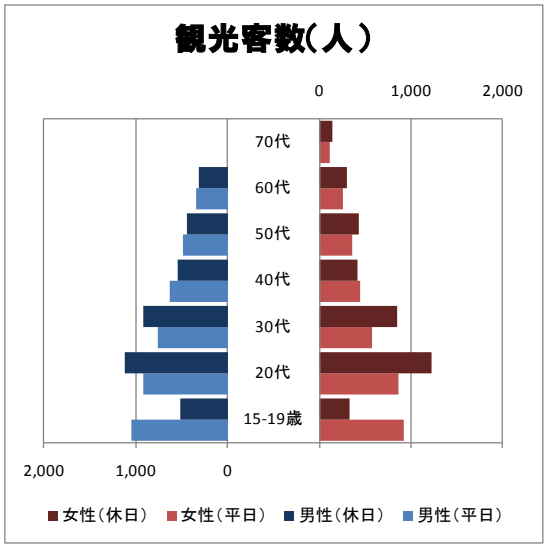


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

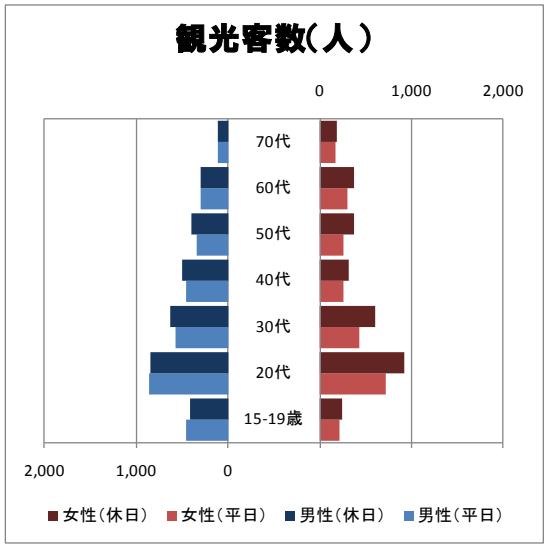
(c) 中部西海岸

10 月は平日に 15～19 歳が最も多く年齢が上がるにつれて減っているが、休日は 15～19 歳は大きく減少し、20 代が最も多い。また、20 代、30 代は平日に比べて休日のほうが多いが、40 代以上では平休日の差が小さい。1 月は 10 月の休日とほぼ同じ傾向であり、平休日の差が小さい。

図表 VI－２－１４　中部西海岸（10 月）



図表 VI－２－１５　中部西海岸（1 月）

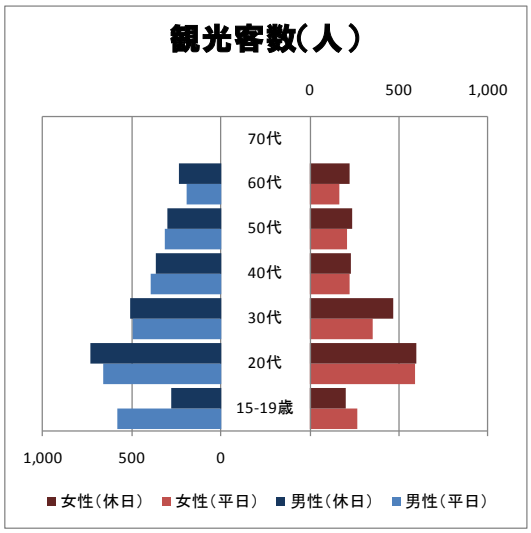


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

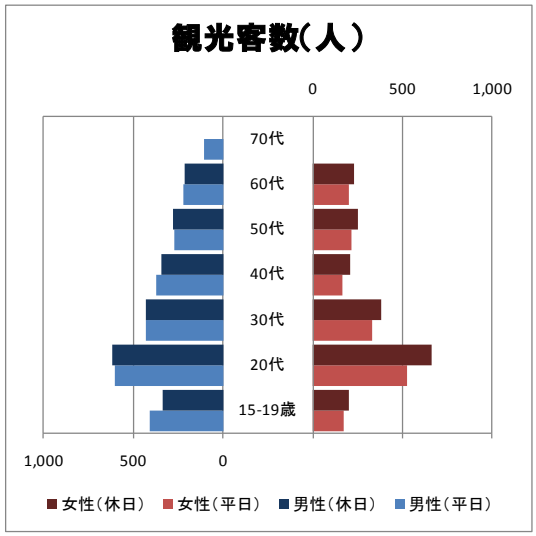
(d) 中部東海岸

10 月は平休日共に 20 代が多く、年齢が上がるにつれて減少する。15～19 歳の平日は、本部半島や北部西海岸エリアに比べて少ない。また、20 代以上の平休日の差は小さい。1 月は全体的に観光客が減少するものの、平日の 15～19 歳を除いて傾向は同等であり、平休日の差は小さい。

図表 VI－２－１６　中部東海岸（10 月）



図表 VI－２－１７　中部東海岸（1 月）

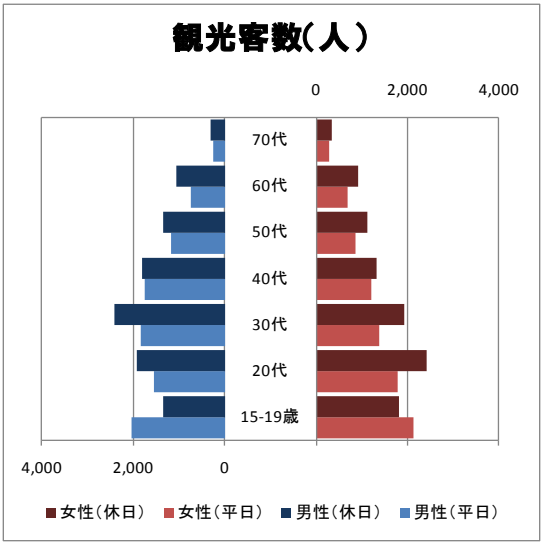


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

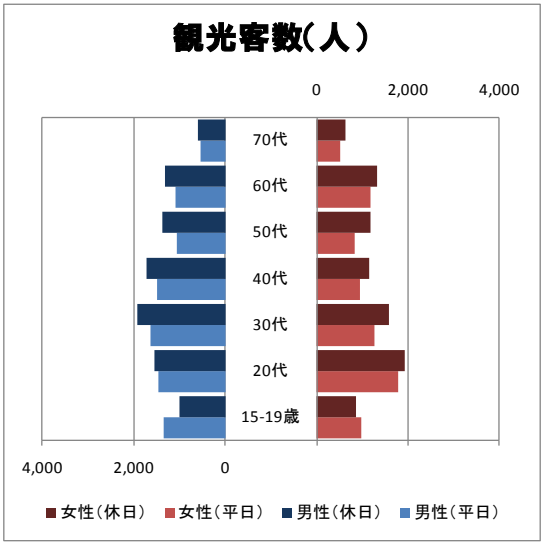
(e) 那覇市

10 月の平日は、15～19 歳から 40 代まで多くの観光客が来ている。休日は男性で 30 代、女性で 20 代が最も多くなり、その年代から離れるにしたがって減少している。また、15～19 歳を除いて平日よりも休日のほうが多い。1 月は全体的に観光客が減少するものの、60 代の観光客が増加している。その他は 10 月とほぼ同様な傾向をもつ。

図表 Ⅵ－２－１８　那覇市（10 月）



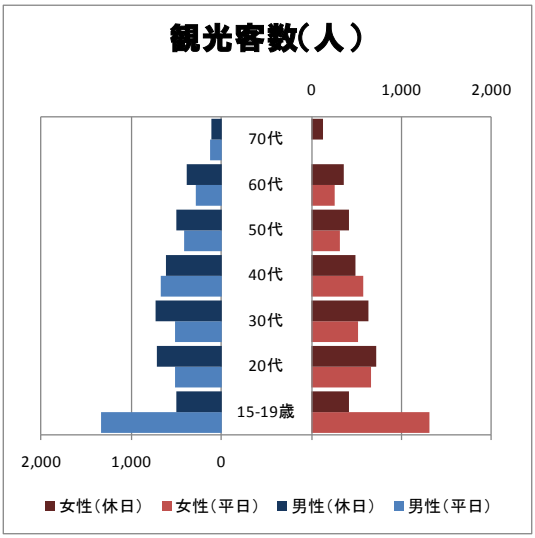
図表 Ⅵ－２－１９　那覇市（1 月）



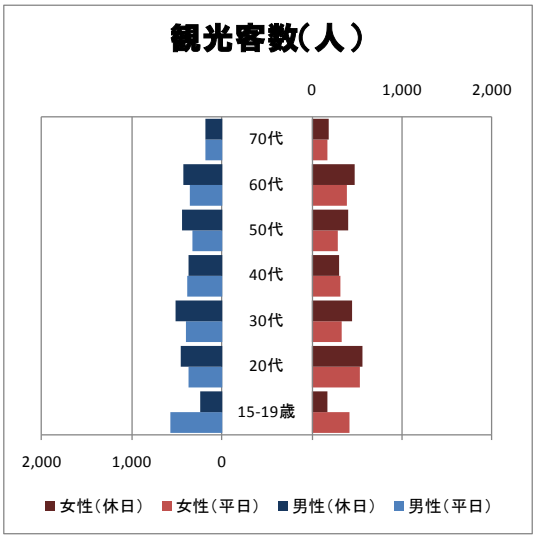
(f) 南部

10 月の平日は、修学旅行の影響と推測されるが、15～19 歳が極端に多い。休日は年代で大きな差がない。1 月は平休日ともに 60 代の増加が目立つ。

図表 Ⅵ－２－２０　南部（10 月）



図表 Ⅵ－２－２１　南部（1 月）

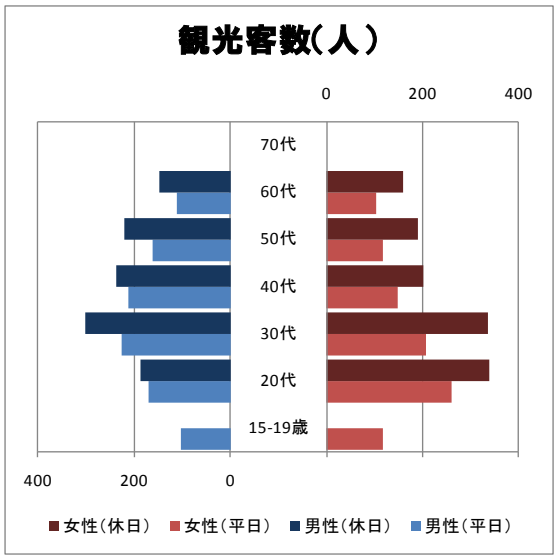


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

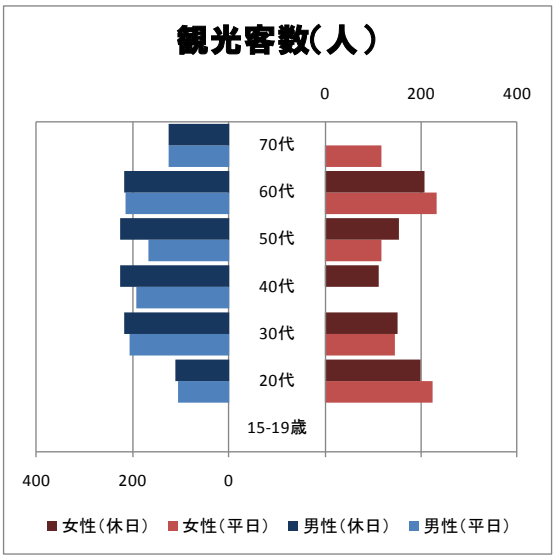
(g) 宮古島

10 月は 20 代女性が多い。休日の方が多く平日との差が大きい。1 月は 60 代が増加している。また、平日と休日の差が 10 月に比べ小さくなっている。

図表 Ⅵ－２－２２　宮古島（10 月）



図表 Ⅵ－２－２３　宮古島（1 月）

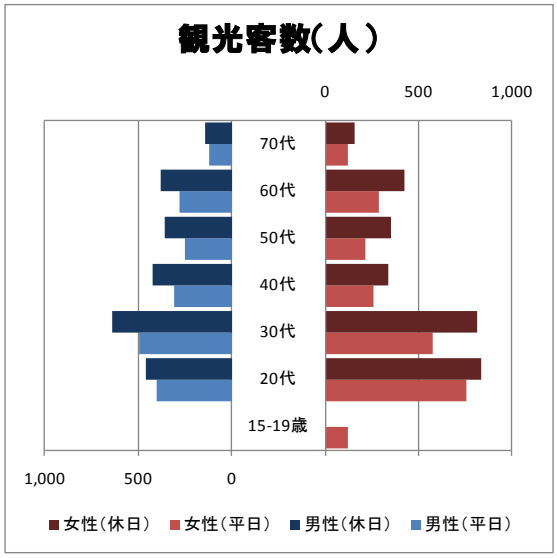


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

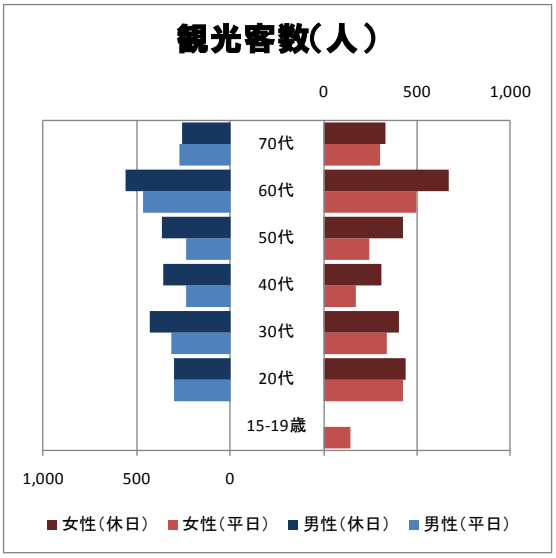
(h) 石垣島

10 月は 20 代、30 代が多く、特に女性が多くなっている。また、平日よりも休日のほうが目立って多い。1 月は 20 代、30 代が減少し、60 代、70 代が増加する。

図表 Ⅵ－２－２４　石垣島（10 月）



図表 Ⅵ－２－２５　石垣島（1 月）



※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

② エリア間の比較分析

10 月平日は修学旅行の影響が大きく、15～19 歳が目立って多いエリアがある。また、60 代以上は 10 月よりも 1 月の方が多い傾向があり、エリア別に見た特徴は以下の通りである。

- 10 月平日に 15～19 歳が多いエリア: 本部半島、北部西海岸、南部
- 1 月に 60 代以上が多いエリア: 本部半島、北部西海岸、那覇市、南部、宮古島、石垣島

（３） 居住エリア別県外観光客数について

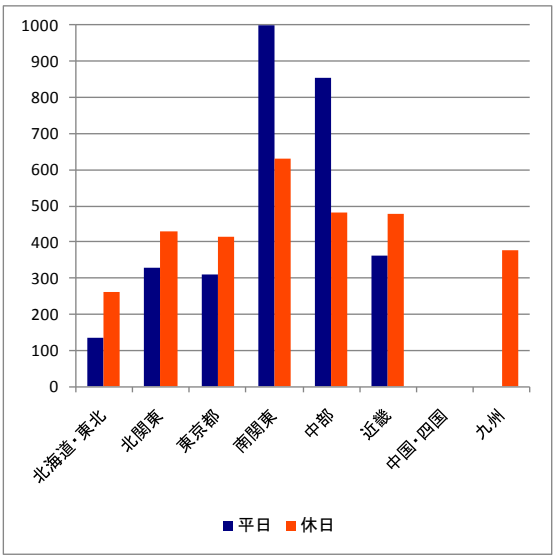
① 地域毎の調査・分析結果

(a) 本部半島

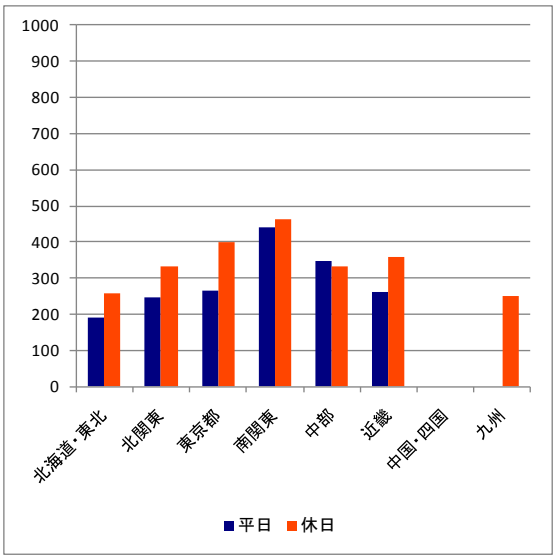
修学旅行の影響が大きい 10 月は、南関東、中部地方で平日の観光客が多い。

1 月は、10 月と同様に南関東、中部地方からの観光客が多い。特に平日の観光客が大きく減っている。北海道・東北地方の観光客は増加している。

図表 VI－２－２６　本部半島（10 月）



図表 VI－２－２７　本部半島（1 月）

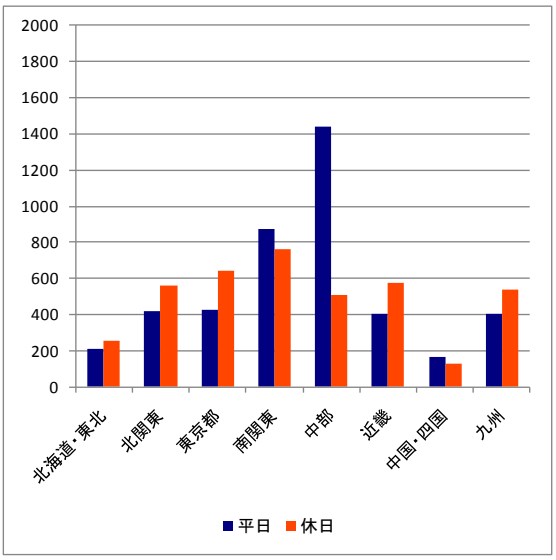


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

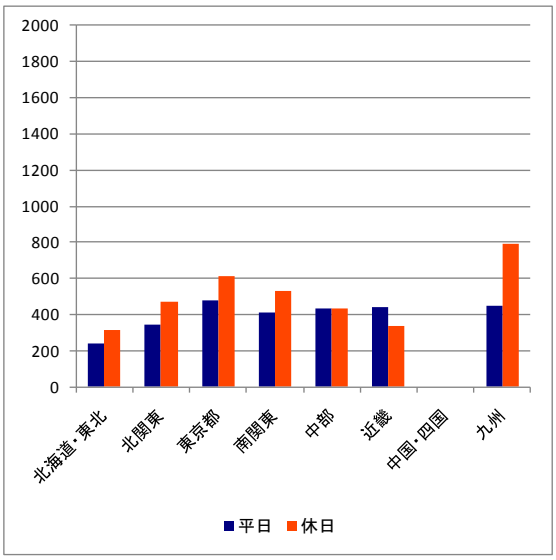
(b) 北部西海岸

本部半島エリアと似た傾向を示しており、10 月は南関東、中部地方からの平日の観光客が多い。特に中部地方の人数が突出している。これらは修学旅行の影響と考えられる。1 月は、10 月に比べ全体的に減少するが、九州地方の休日の観光客は大きく増加している。

図表 VI－２－２８　北部西海岸（10 月）



図表 VI－２－２９　北部西海岸（1 月）

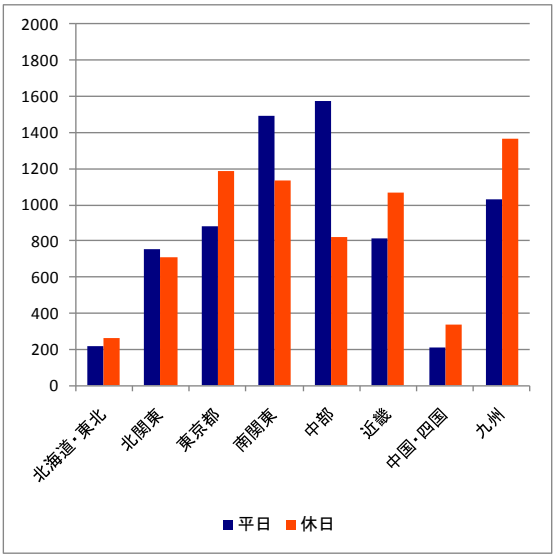


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

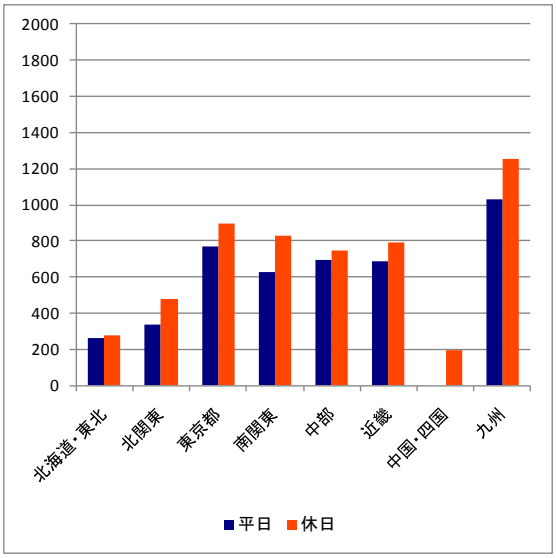
(c) 中部西海岸

10 月の南関東、中部地方の平日の観光客数を除けば、10 月、1 月とも良く似た傾向をもっている。他のエリアに比べて九州地方の観光客が多い。

図表 VI－２－３０　中部西海岸（10 月）



図表 VI－２－３１　中部西海岸（1 月）

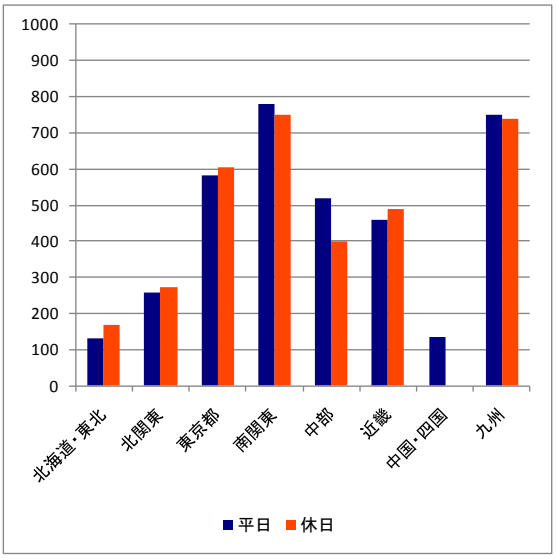


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

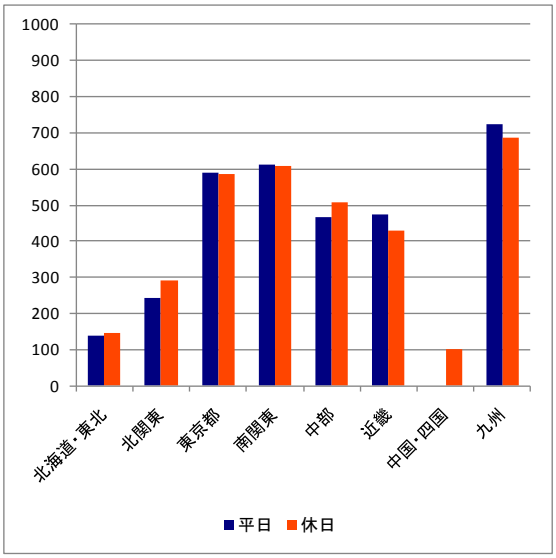
(d) 中部東海岸

南関東地方を除けば、10 月と 1 月の人数差が小さい。また、平休日の差も小さい。中部東海岸エリアと同様に九州地方からの観光客が多い。

図表 VI－２－３２　中部東海岸（10 月）



図表 VI－２－３３　中部東海岸（1 月）

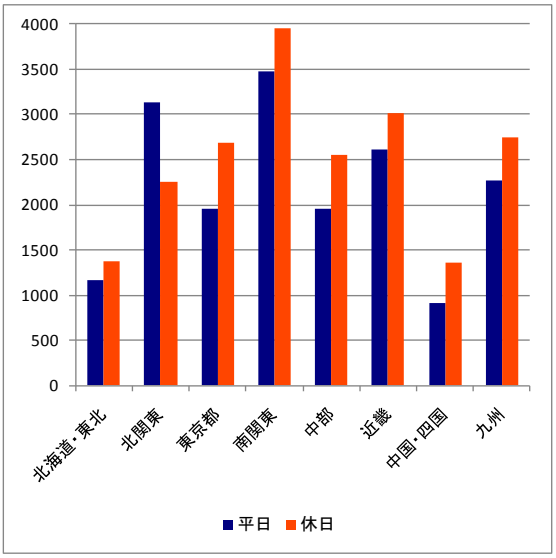


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

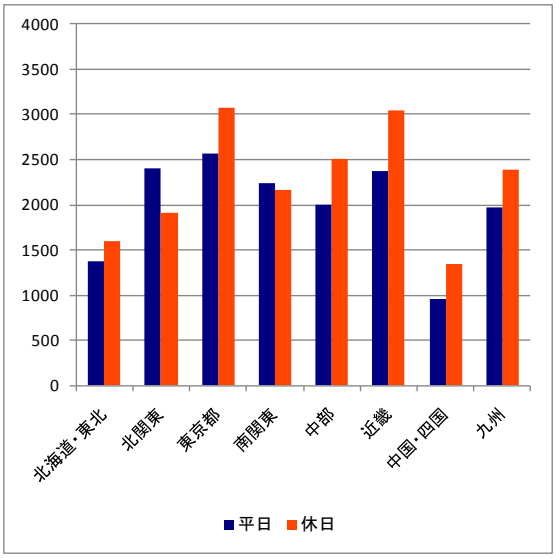
(e) 那覇市

北部エリアではそれほど目立たなかった北関東からの平日の観光客数が、那覇市では 10 月、1 月ともに多い。10 月と 1 月で差が少なく、北海道・東北地方と東京都は 1 月の方が 10 月よりも多い。

図表 VI－２－３４　那覇市（10 月）



図表 VI－２－３５　那覇市　（1 月）

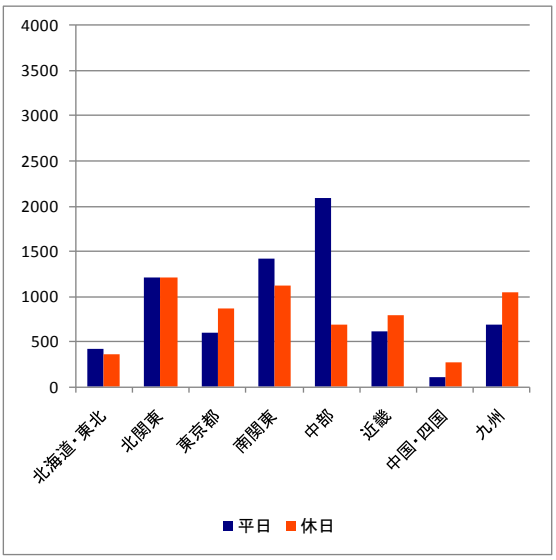


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

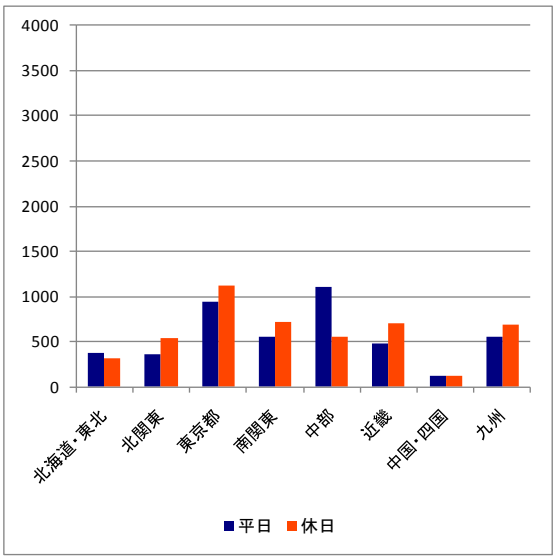
(f) 南部

10 月は南関東、中部地方からの平日の観光客が多い。北海道・東北と中部地方は、いずれの月も平日の方が多い。全体的に 1 月の観光客数は 10 月に比べて減少幅が大きいが、東京都からの観光客は 10 月よりも 1 月で大きく増加している。

図表 VI－２－３６　南部（10 月）



図表 VI－２－３７　南部（1 月）

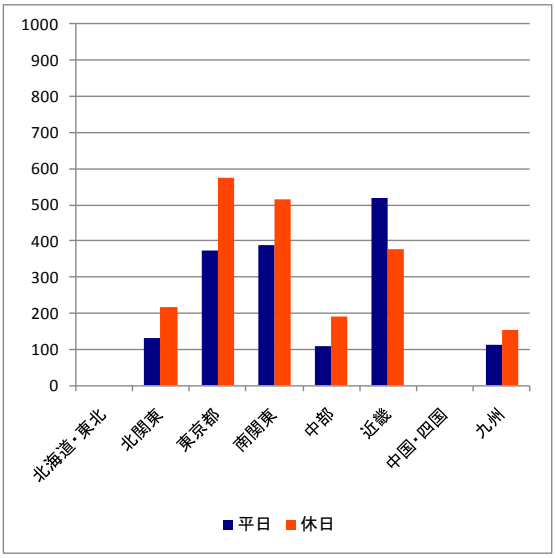


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

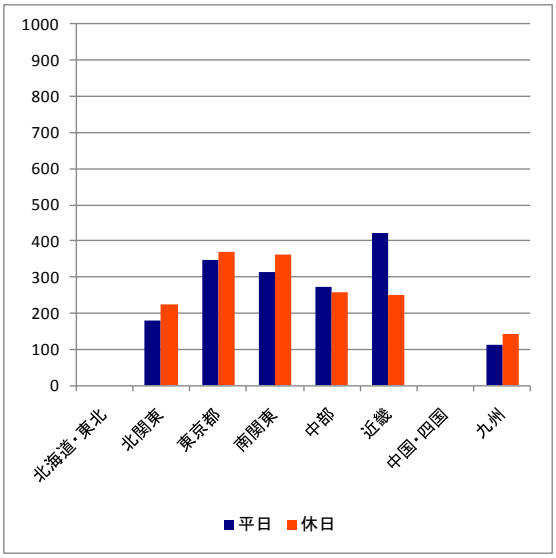
(g) 宮古島

近畿地方からの観光客は、10 月、1 月ともに平日が目立って多い。全体的にみると 10 月は平日に比べ、休日の観光客の増加幅が大きいが、1 月はその差が小さくなっている。

図表 VI－２－３８　宮古島（10 月）



図表 VI－２－３９　宮古島（1 月）

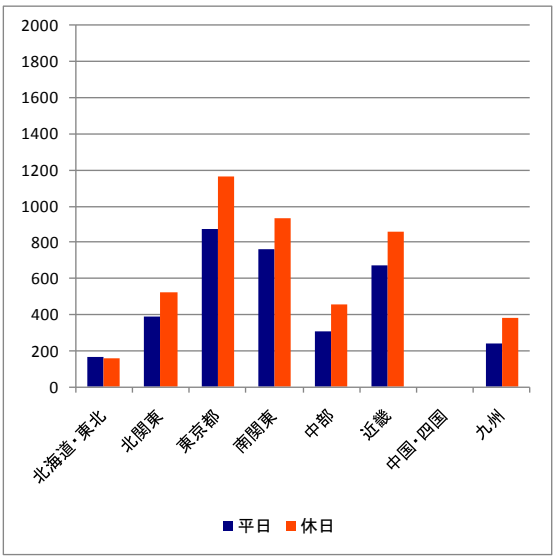


※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は 0 となっている。

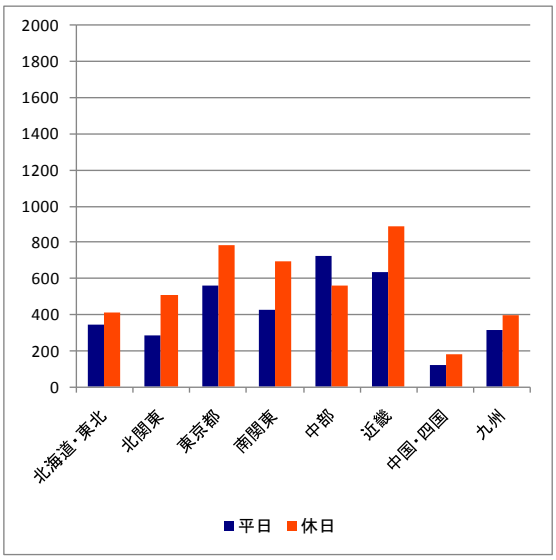
(h) 石垣島

10 月はどの地方でも平日より休日のほうが多い。また東京都からの観光客数の割合が他のエリアに比べて多い。1 月は、北海道・東北、近畿地方からの観光客が増加している。

図表 VI－２－４０　石垣島（10 月）



図表 VI－２－４１　石垣島（1 月）



※プライバシー保護処理により、データが取得できなかった項目の数値は０となっている。

② 各地方の比較分析

全体的には 1 月よりも 10 月の観光客が多いが、北海道・東北地方と東京都は 1 月の方が多い。北海道・東北地方は、主に那覇市や石垣島エリアでその傾向が高く、東京都は那覇市と南部エリアで多い。

10 月は修学旅行の影響により休日よりも平日の観光客が多い地方がある。その傾向が目立ったのは、南関東と中部地方であった。これらの地方は、本部半島、北部西海岸、中部西海岸、南部エリアで平日の観光客数が休日を大きく上回った。他に那覇市では、北関東地方の平日の観光客が多く、宮古島エリアでは近畿地方の平日の観光客が多い。

九州地方の観光客は、他の地方と比べて特徴的な傾向をもつエリアがあり、北部西海岸、中部西海岸、中部東海岸での多さが目立った。

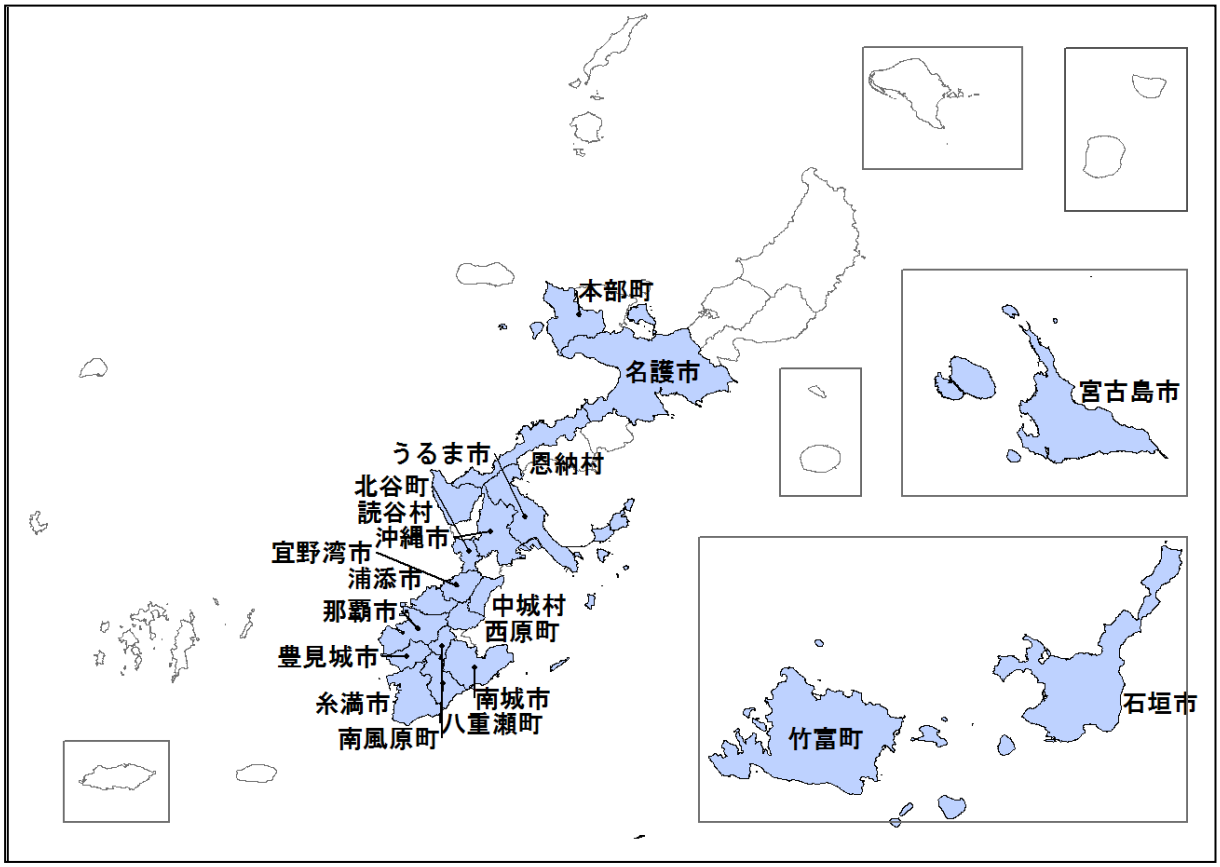
２－３．　市町村

（１）　調査内容と対象市町村

各市町村の観光客の傾向を把握するため、10 月･1 月の平休日の時間毎の観光客数を調査した。平日は各水曜日の、休日は各土曜日の観光客数の平均値である。

モバイル空間統計のプライバシー保護のため(「付録」参照)、データ取得ができなかった町・村を除き、20 市町村を調査対象とした。図表 VI－２－４２に本調査の対象とした市町村(那覇市、宜野湾市、石垣市、浦添市、名護市、糸満市、沖縄市、豊見城市、うるま市、宮古島市、南城市、本部町、恩納村、読谷村、北谷町、中城村、西原町、南風原町、八重瀬町、竹富町)を示す。

図表 VI－２－４２　調査対象市町村



（２） 県外観光客数の時間推移について

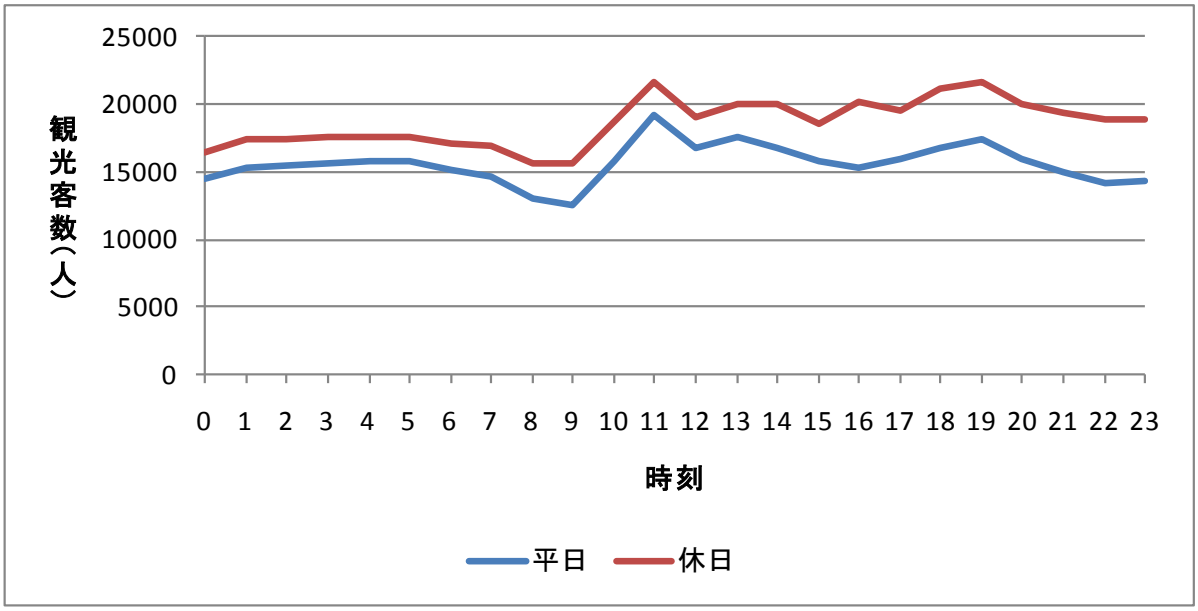
① 地域毎の調査・分析結果

(a) 那覇市

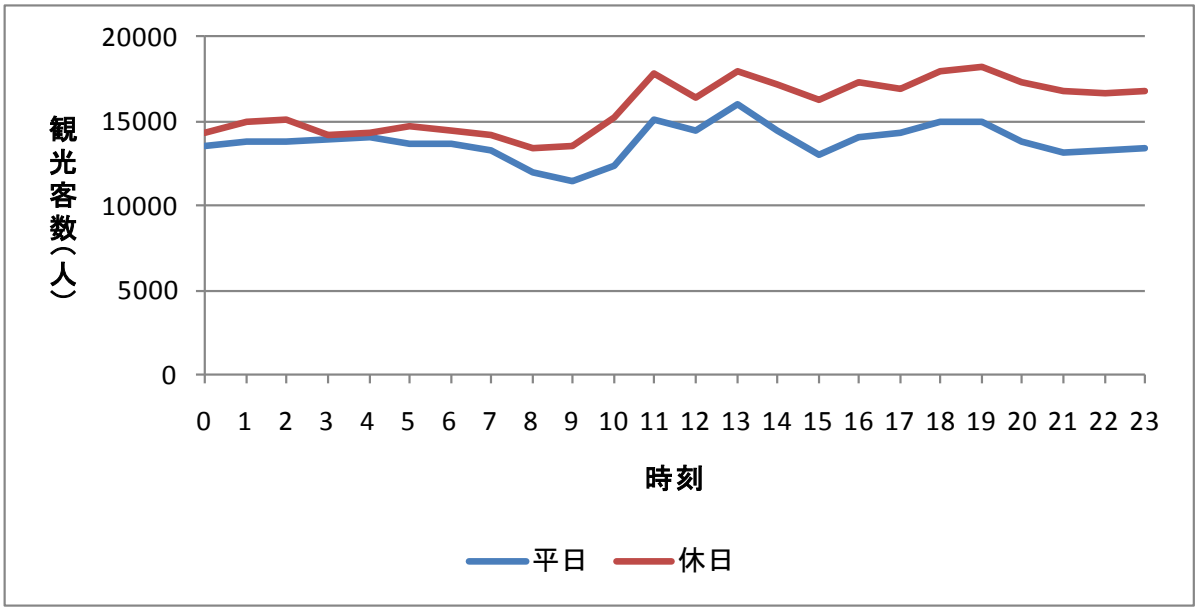
10 月は平日よりも休日が多いものの、時間による観光客の増減はほぼ同じ傾向である。7 時から一度減少し 10 時から上昇してその後は若干の増減がありながらもほぼ同じ値で推移する。1 月は 10 月同様、平日よりも休日が多く、時間による観光客の増減もほぼ同じ傾向である。7 時からの減少、10 時からの上昇もほぼ同じだが、その増減は緩やかである。

このような増減をする原因の 1 つとして、那覇空港を利用する県外観光客が影響を与えていることが考えられる。

図表 Ⅵ－２－４３ 那覇市(10 月)



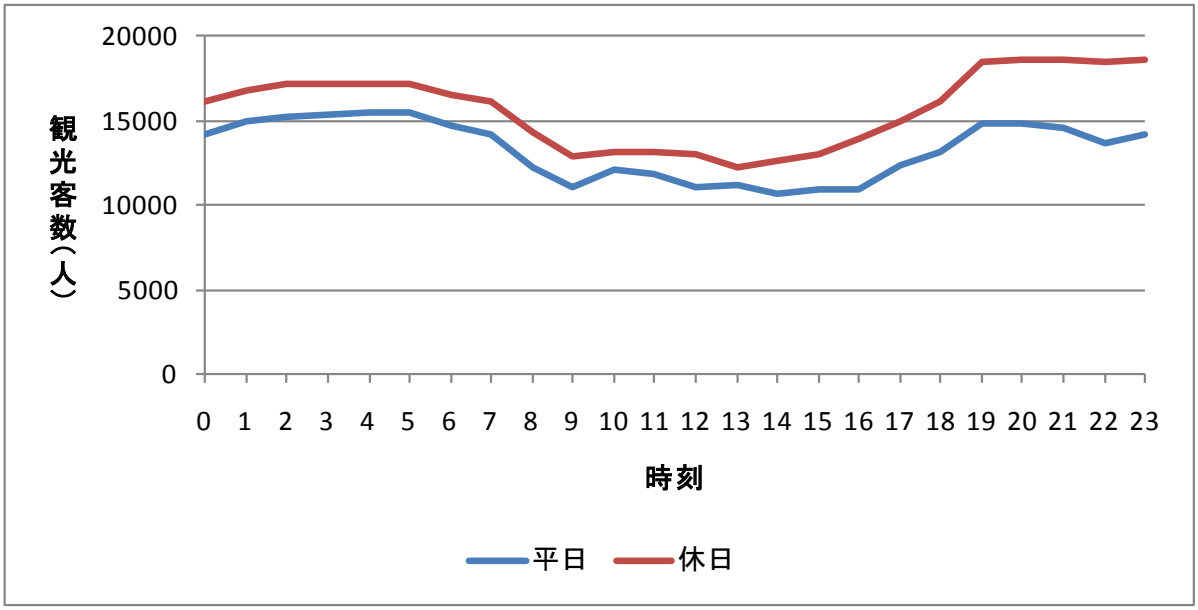
図表 Ⅵ－２－４４ 那覇市(1 月)



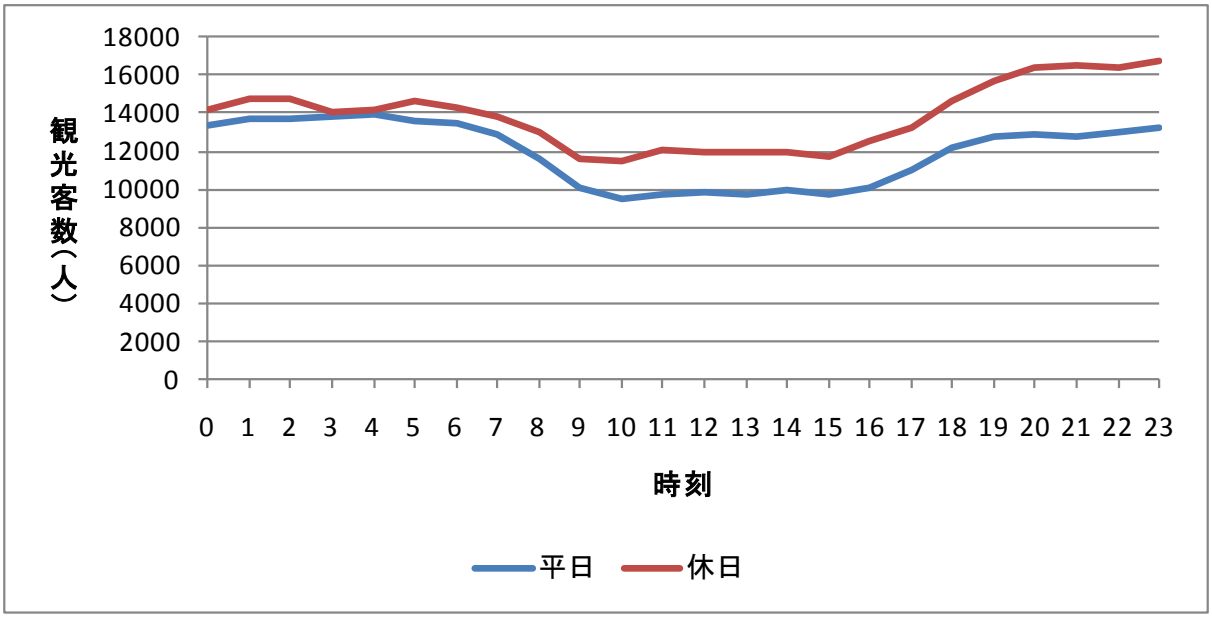
(b) 那覇市(那覇空港除く)

那覇市内の観光を目的とした観光客数の調査を行うために、那覇市から那覇空港周辺エリアを除外した。10 月、1 月ともに夜間に比べ、昼間の観光客が減少している。那覇市は宿泊施設が多いため、宿泊客が午前中に那覇市外の他のエリアを訪問し、夕方以降戻って来るケースが多いものと想定される。

図表 Ⅵ－２－４５　那覇市(那覇空港除く)(10 月)



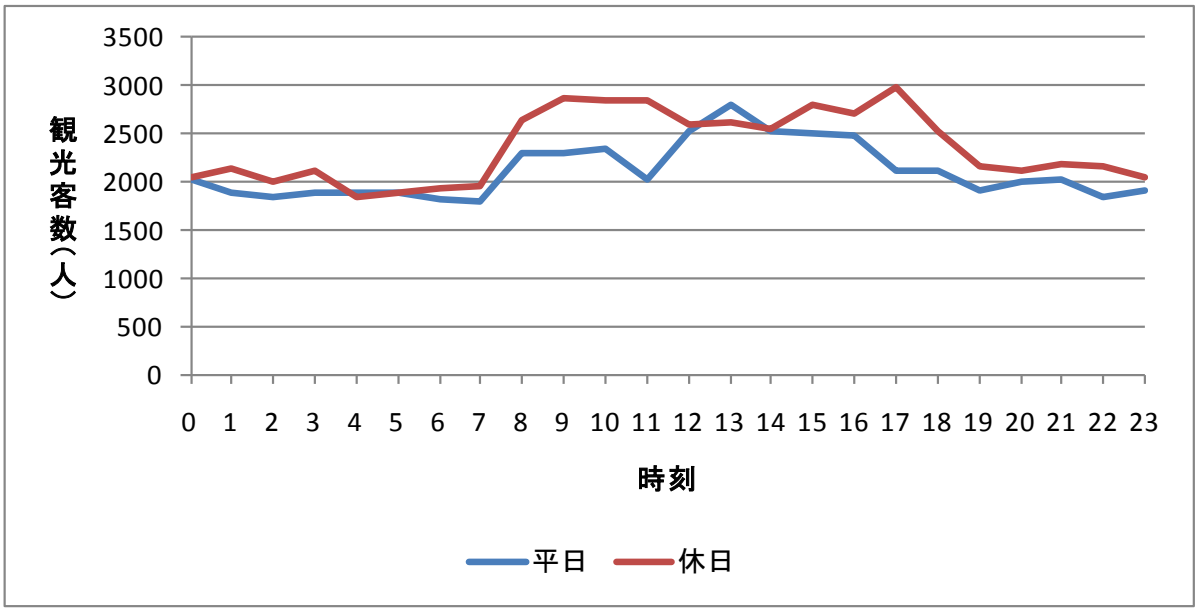
図表 Ⅵ－２－４６　那覇市(那覇空港除く)(1 月)



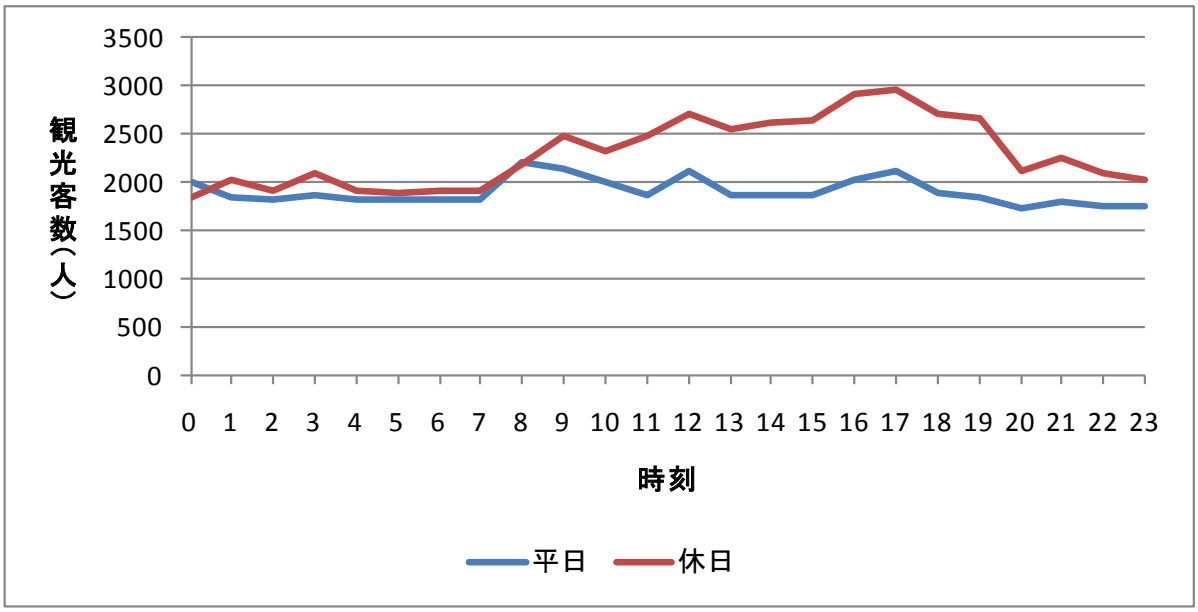
(c) 宜野湾市

10 月は平日と休日であまり差がなく、時間による観光客の増減も小さいが、昼間に若干増加する傾向をもつ。休日は、平日に比べ 8 時からの増加が大きく、夕方も平日より遅い 18 時台から減少が始まる。1 月は、平日よりも休日が多く、休日は朝に上昇し夕方に減少するが、平日は昼・夜の増減がほとんどない。また休日の朝の増加が緩やかであり、夜は 10 月より遅い時間帯から減少し始める。

図表 Ⅵ－２－４７　宜野湾市(10 月)



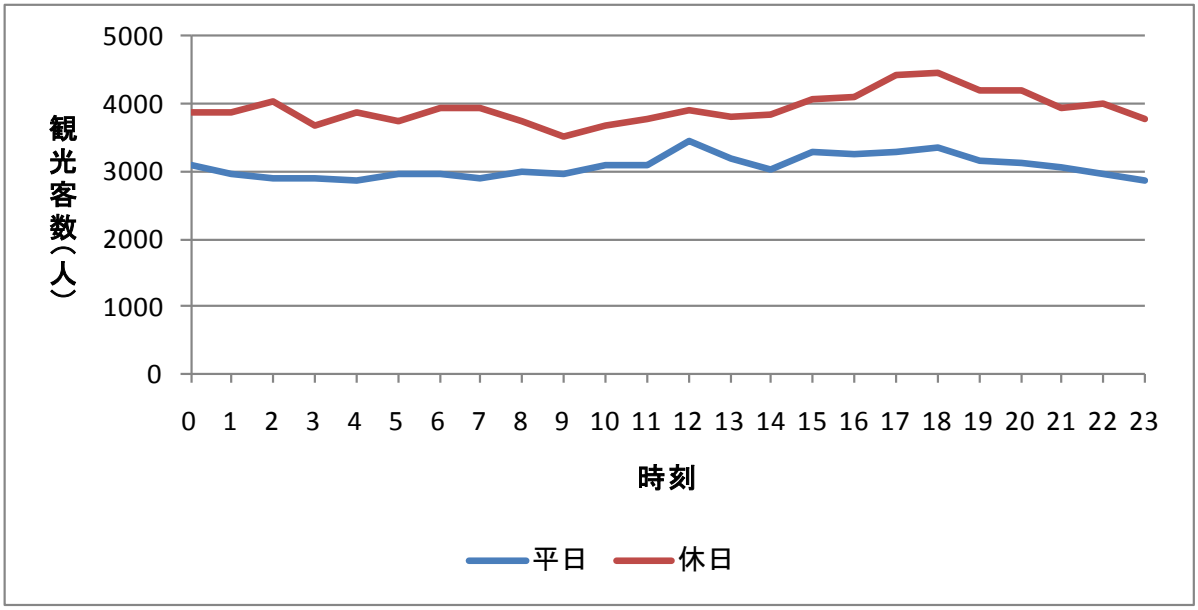
図表 Ⅵ－２－４８　宜野湾市(1 月)



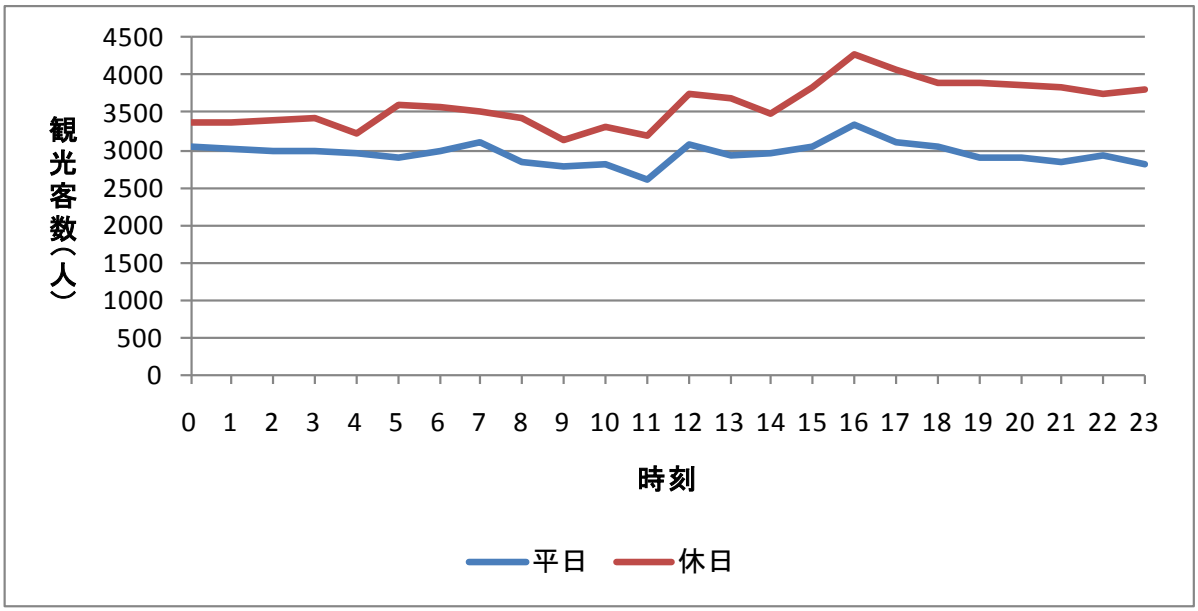
(d) 石垣市

一日を通して観光客の増減が小さい。1 月は夕方に若干の増加傾向がみられる。県外客数は常時 3,000 人から 4,000 人いるので、日中・夜間を通して石垣島で過ごす観光客が多いものと推測される。

図表 Ⅵ－２－４９　石垣市(10 月)



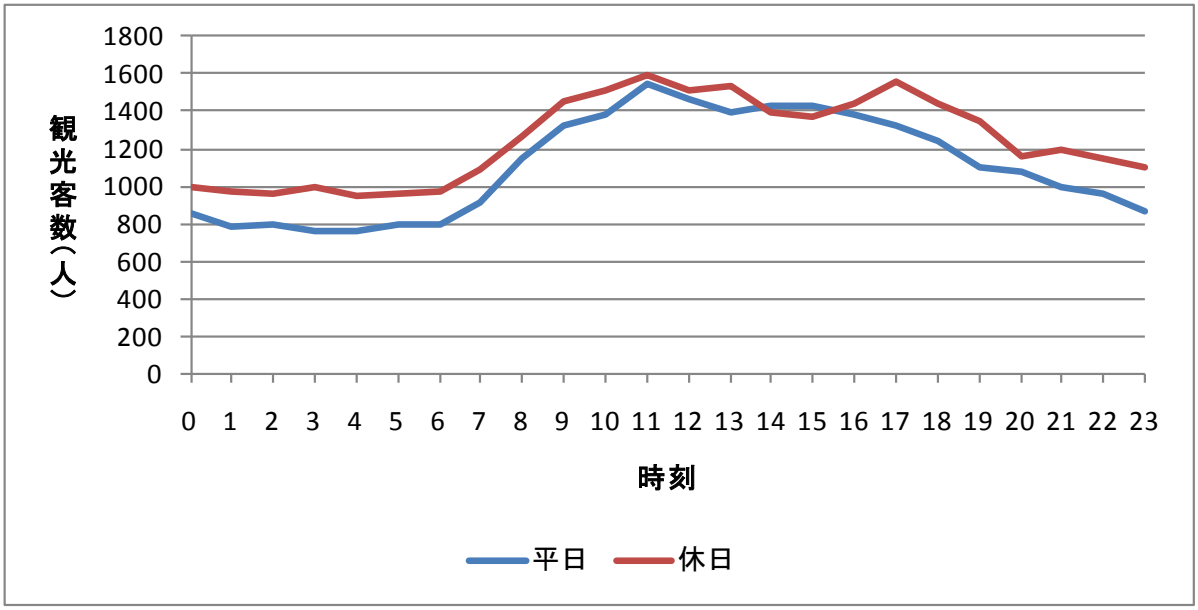
図表 Ⅵ－２－５０　石垣市(1 月)



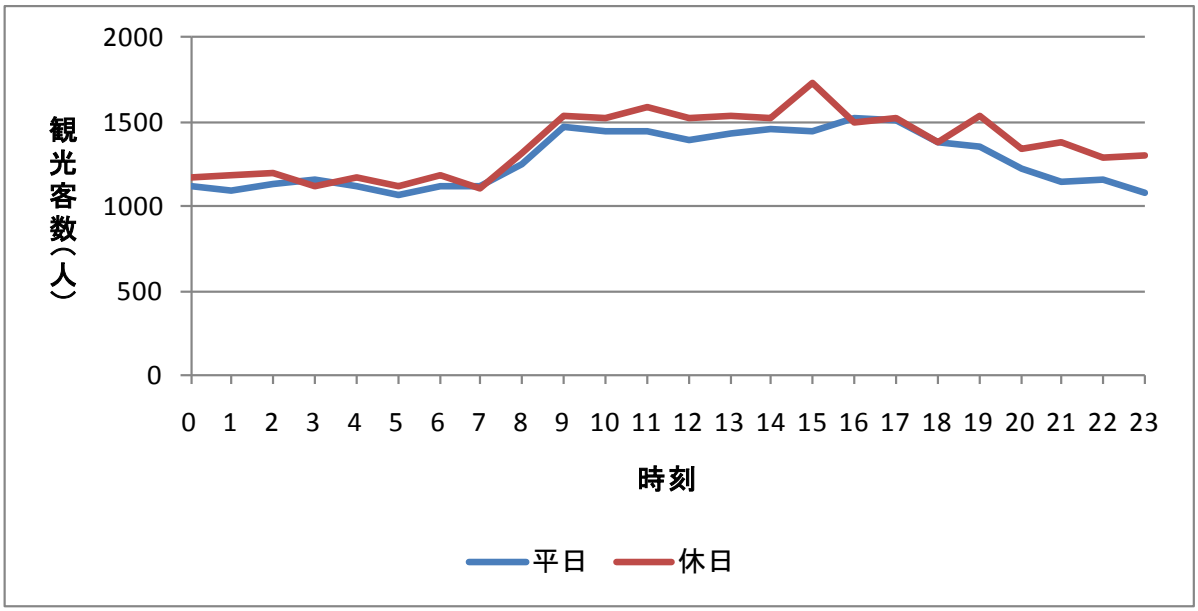
(e) 浦添市

夜間に比べ、昼間の観光客が増加する。その傾向は 1 月に比べ 10 月の方が大きい。10 月では夜間の観光客は休日の方が多いが、昼間はあまり変わらない傾向をもつ。1 月の平日と休日の差は小さい。

図表 Ⅵ－２－５１　浦添市(10 月)



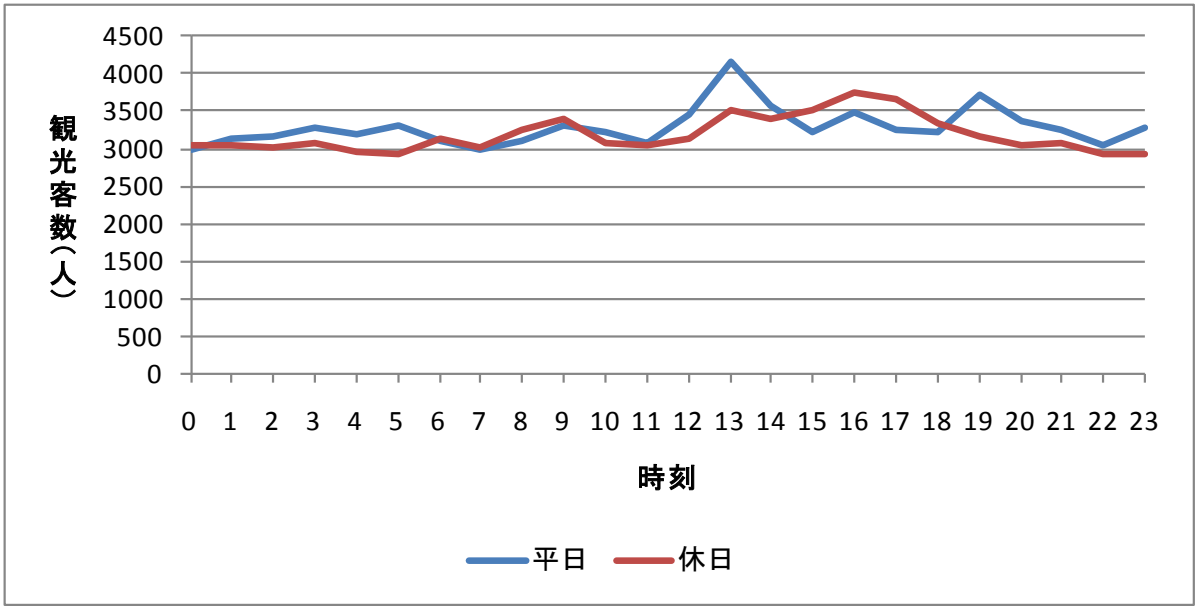
図表 Ⅵ－２－５２　浦添市(1 月)



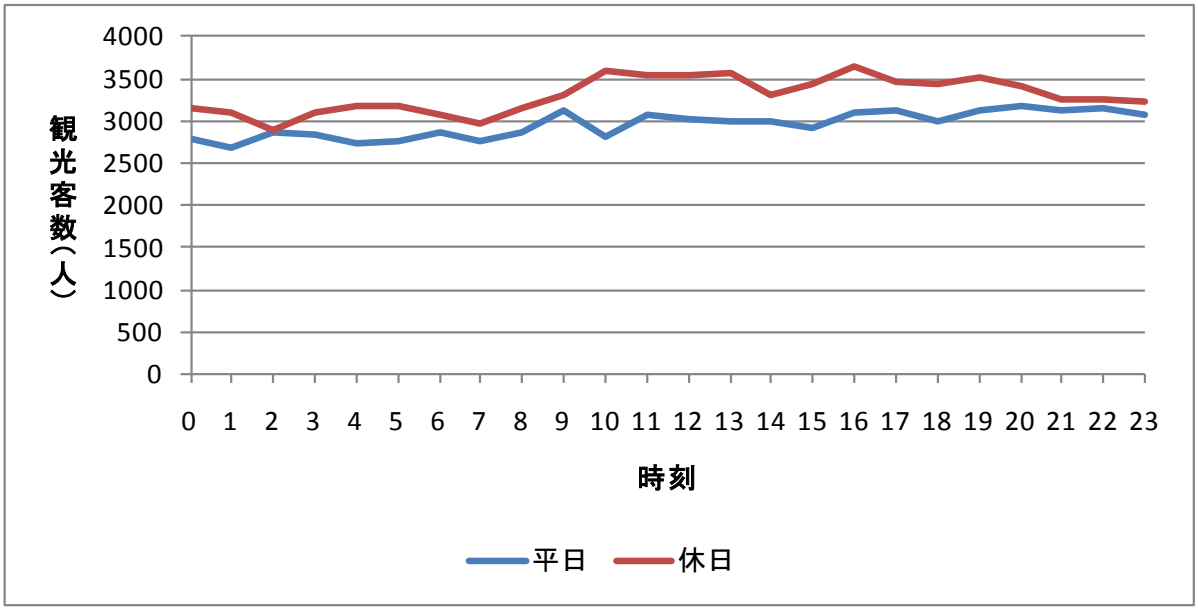
(f) 名護市

昼夜間の観光客数差は小さい。10 月で 3,000 人から 4,000 人の観光客数であり、昼間の観光客、宿泊者がともに多い。平日と休日であまり差はないが、1 月は平日よりも休日が若干多い。

図表 Ⅵ－２－５３　名護市(10 月)



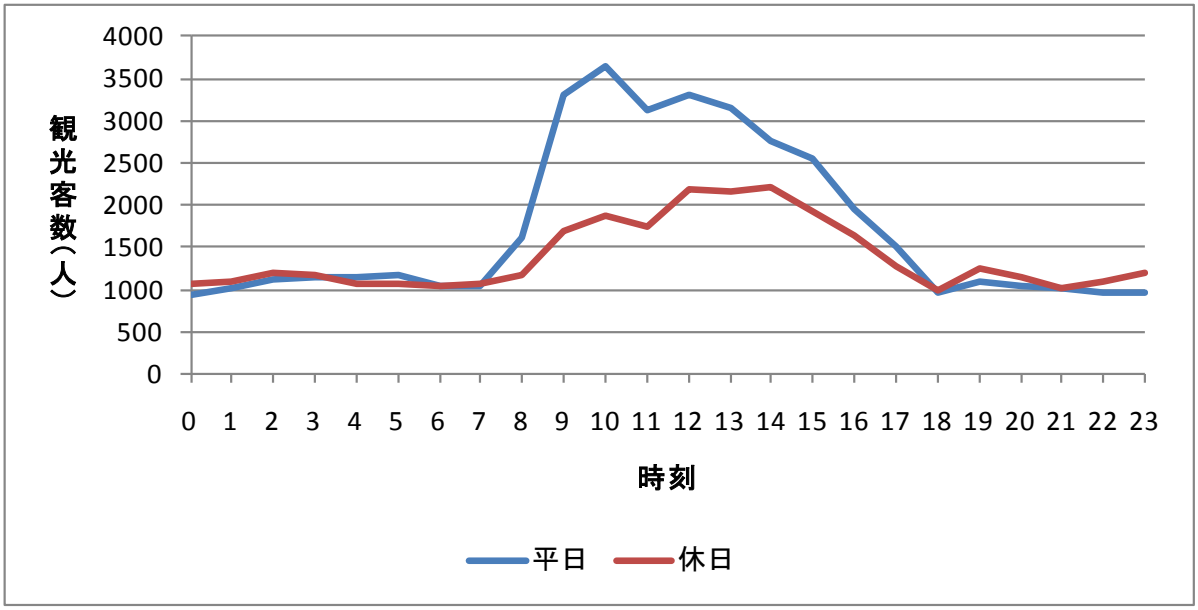
図表 Ⅵ－２－５４　名護市(1 月)



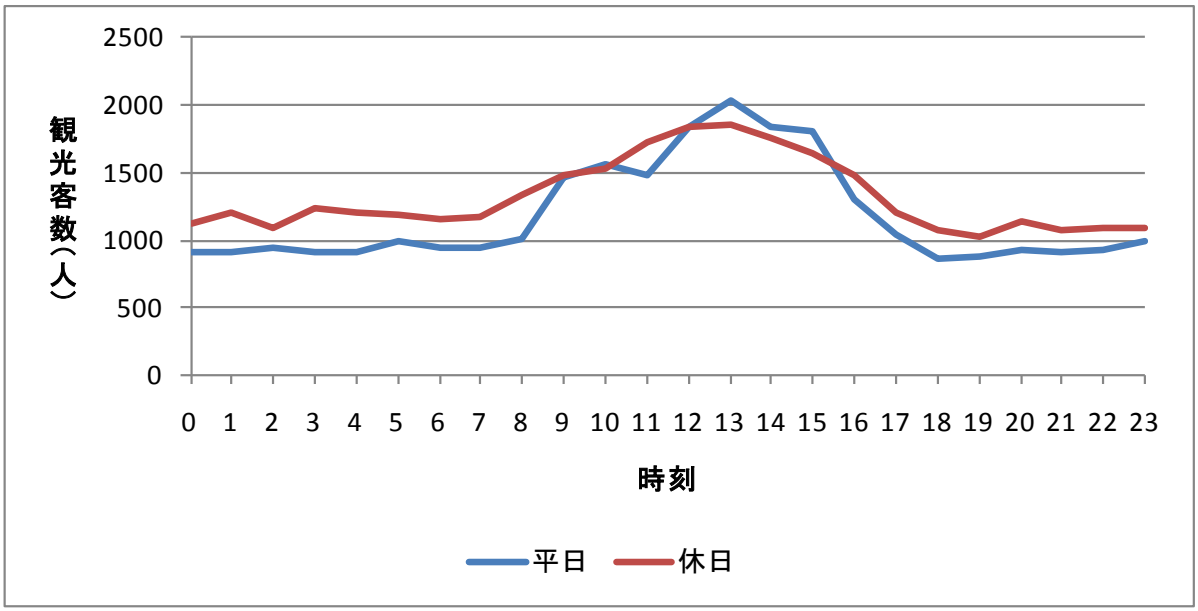
(g) 糸満市

夜間に比べ、昼間の観光客が大きく増加する。特に 10 月の平日は極めて高く、修学旅行の影響が強く出ているものと推測される。10 月平日は午前中にピークを迎えるのも特徴的である。1 月は平休日であまり差はなく、ピークも正午過ぎとなる。

図表 Ⅵ－２－５５　糸満市(10 月)



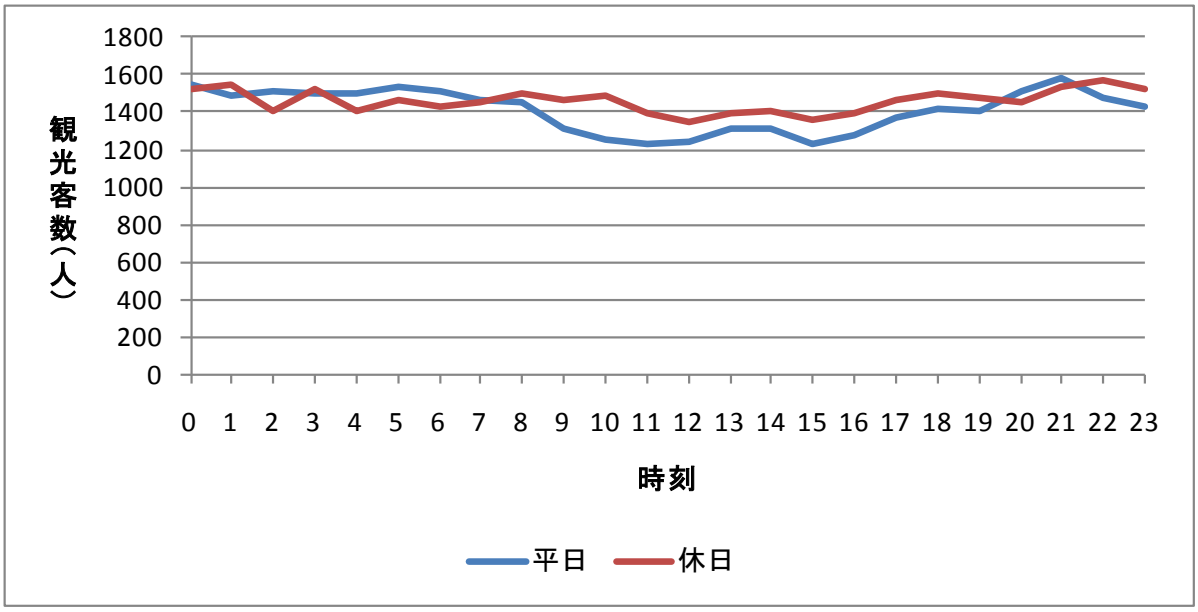
図表 Ⅵ－２－５６　糸満市(1 月)



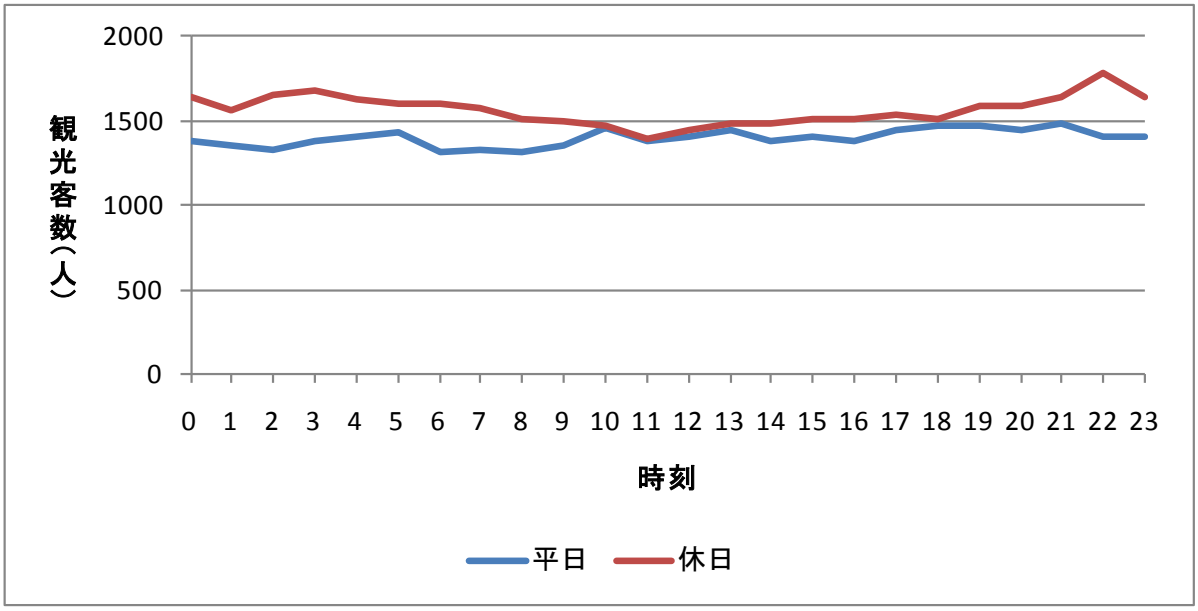
(h) 沖縄市

昼夜間の観光客数差が小さい。10 月と 1 月、平日と休日ともにあまり差がないのが特徴である。

図表 Ⅵ－２－５７　沖縄市(10 月)



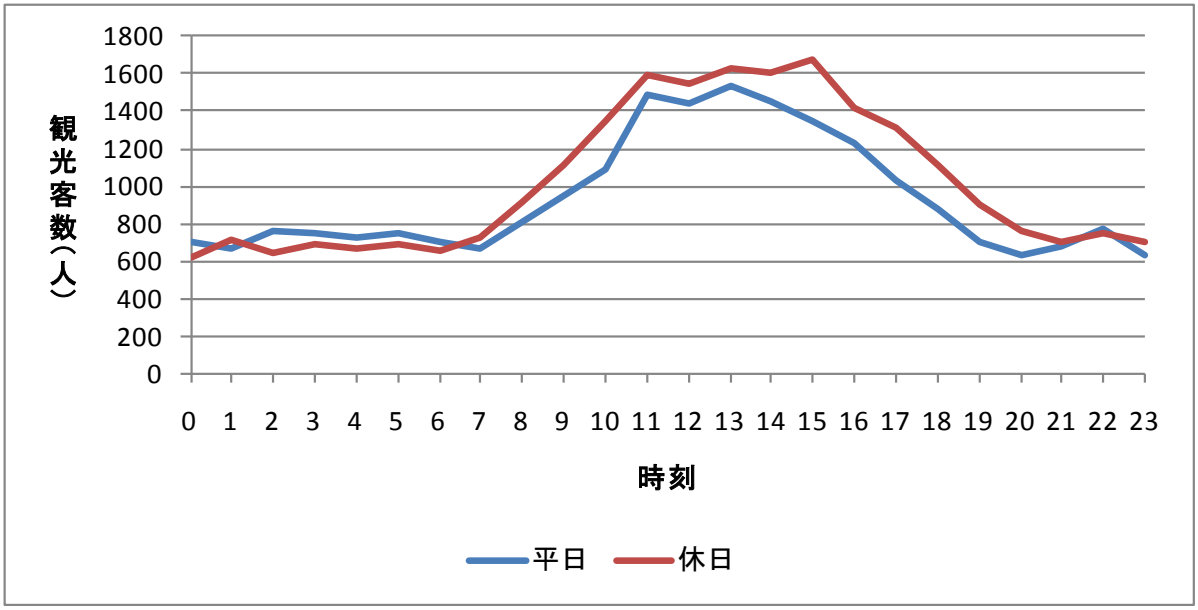
図表 Ⅵ－２－５８　沖縄市(1 月)



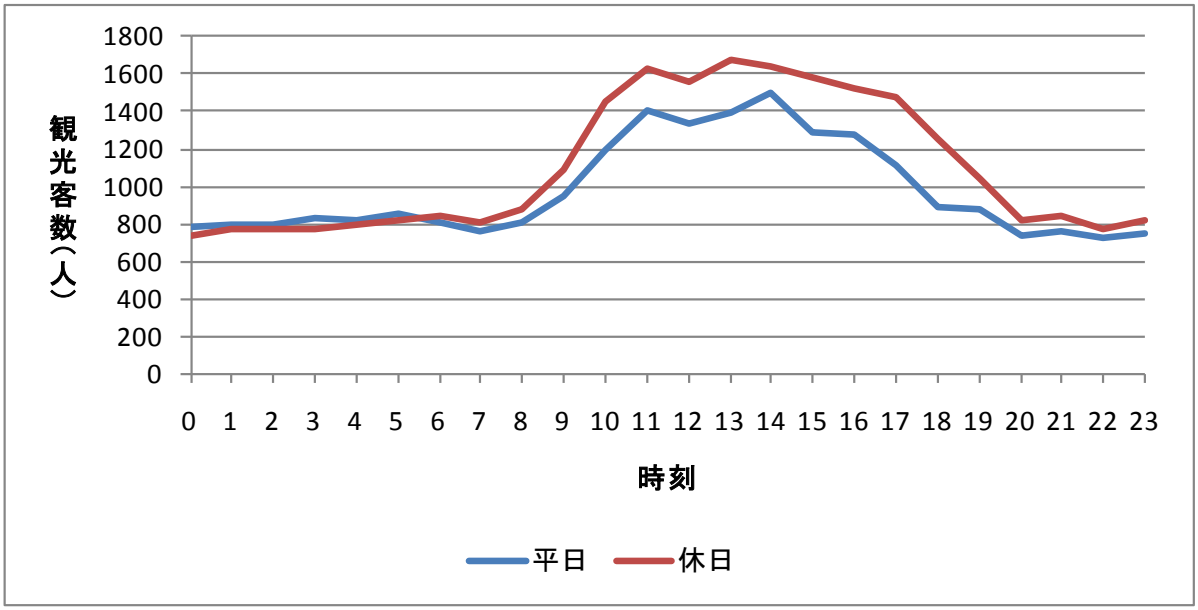
(i) 豊見城市

昼間の観光客が大きく増加する。隣接する糸満市に比べ、増加が始まる時刻は遅い傾向がある。また 10 月、1 月ともに平日に比べて休日の観光客が多い。

図表 Ⅵ－２－５９　豊見城市(10 月)



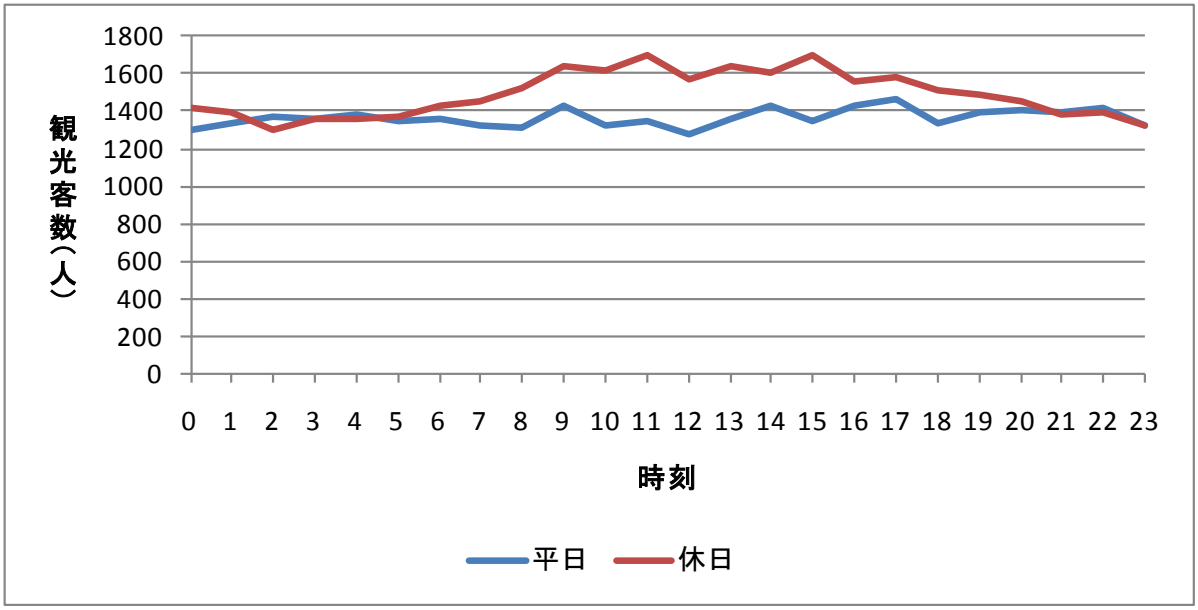
図表 Ⅵ－２－６０　豊見城市(1 月)



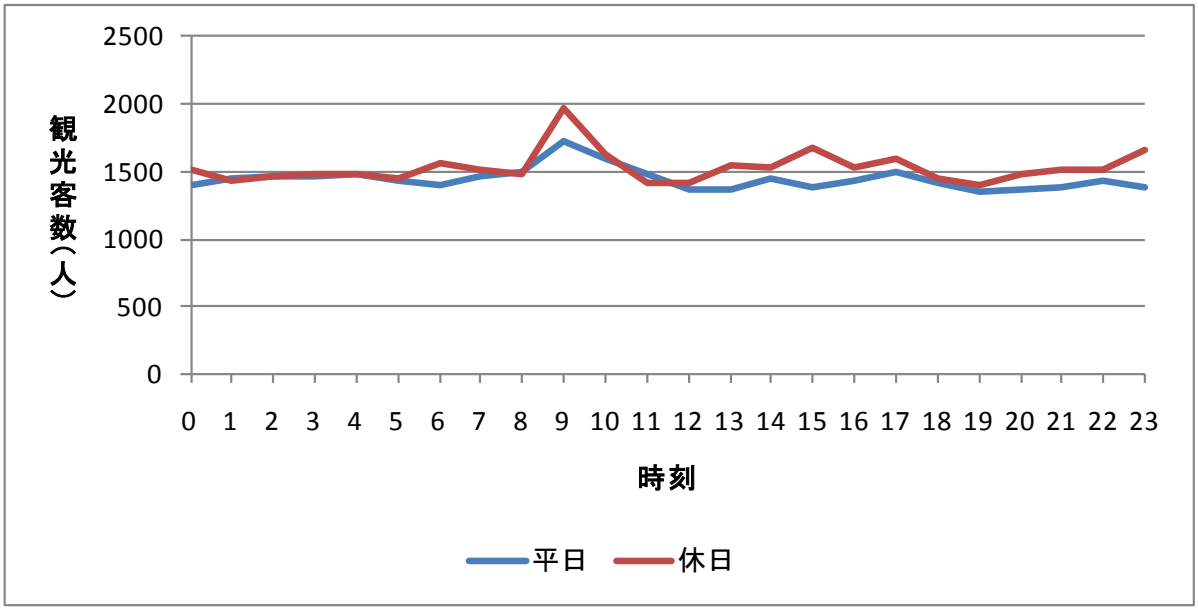
(j) うるま市

昼夜間の増減は小さい。10 月の休日昼間は若干の増加傾向をもつ。10 月、1 月で観光客数はほぼ同等である。

図表 Ⅵ－２－６１　うるま市(10 月)



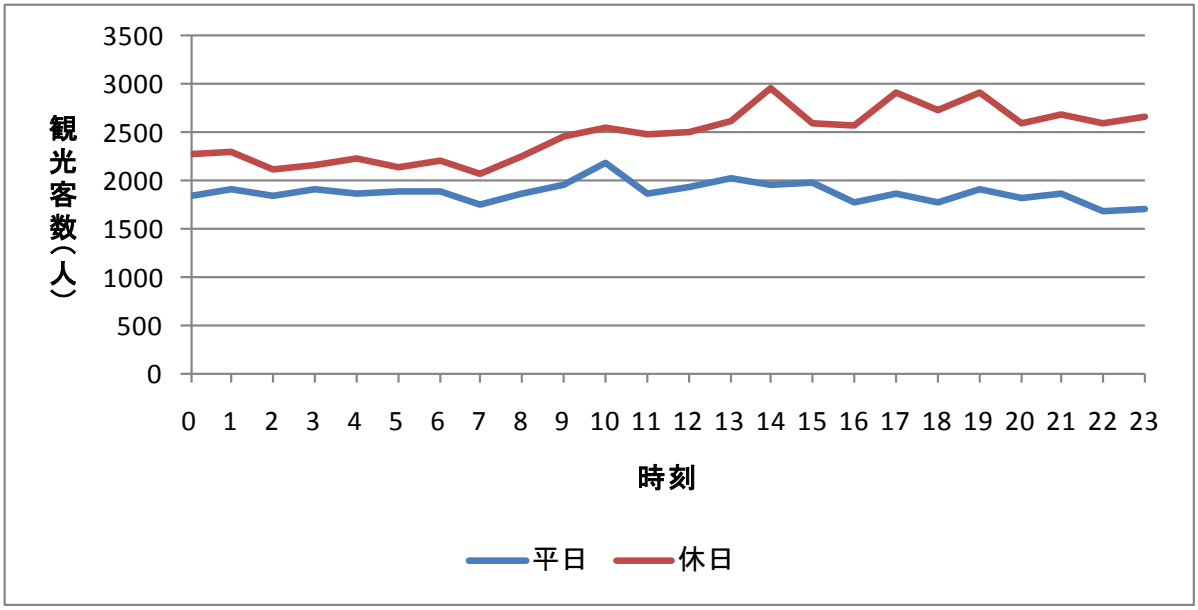
図表 Ⅵ－２－６２　うるま市(1 月)



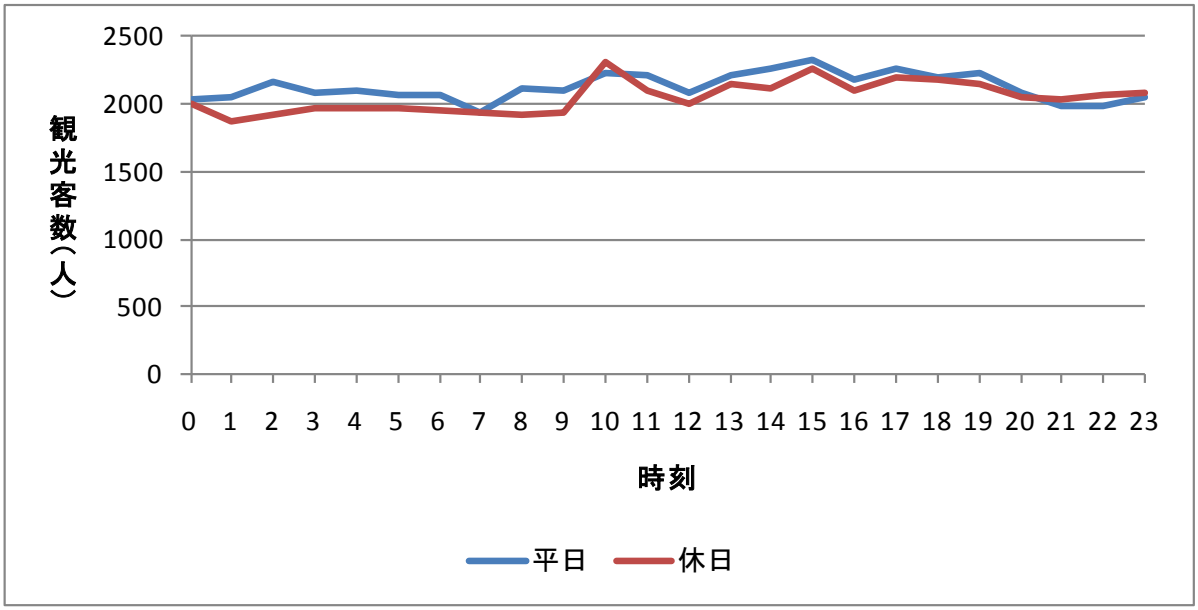
(k) 宮古島市

10 月の休日の観光客は多く、それ以外はあまり差がない。また、昼夜間の増減は小さい。離島のため、宿泊と観光が一体化しているものと考えられる。

図表 Ⅵ－２－６３　宮古島市(10 月)



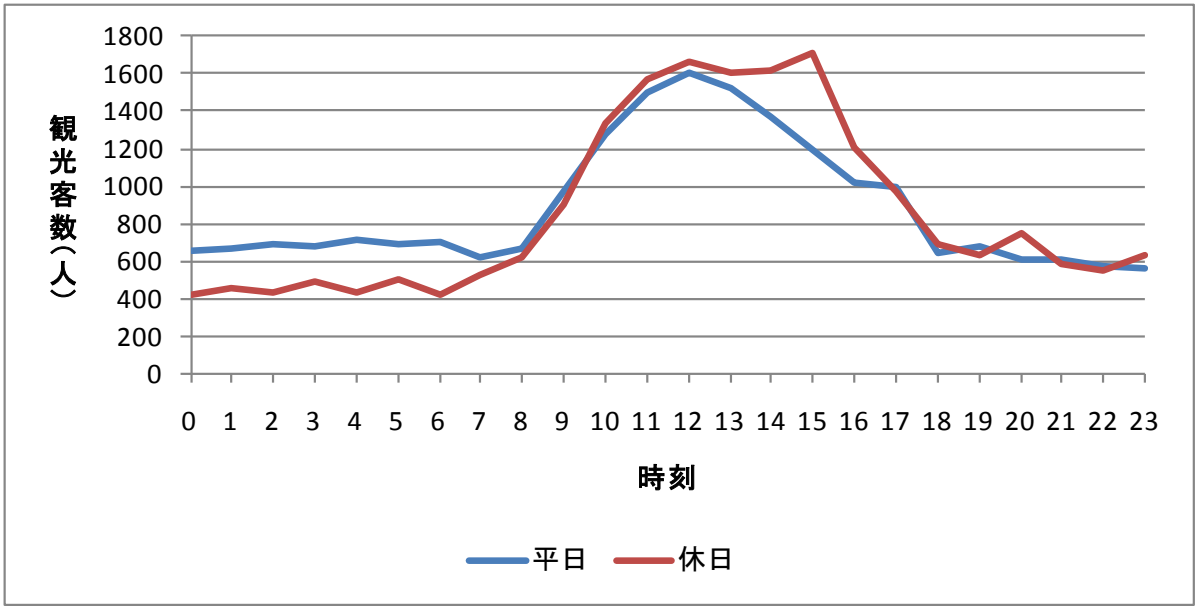
図表 Ⅵ－２－６４　宮古島市(1 月)



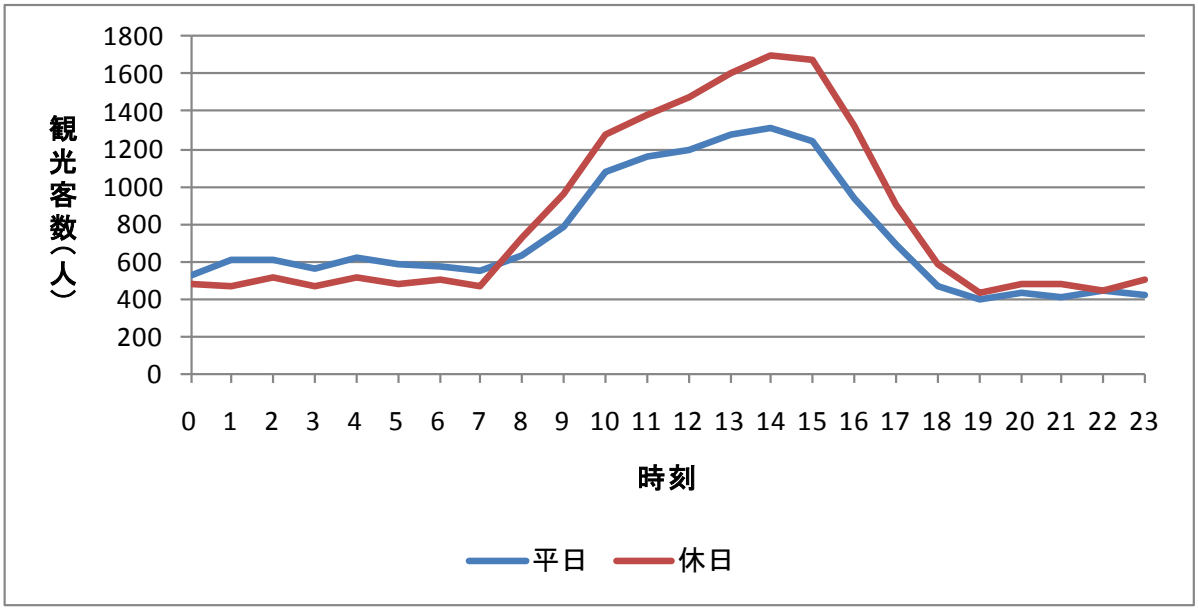
(l) 南城市

夜間に比べ、昼間に大きく増加する。昼間の観光客は休日の方が多く、10 月平日に突出する傾向は見られない。15 時近辺にピークを迎える傾向がある。

図表 Ⅵ－２－６５　南城市(10 月)



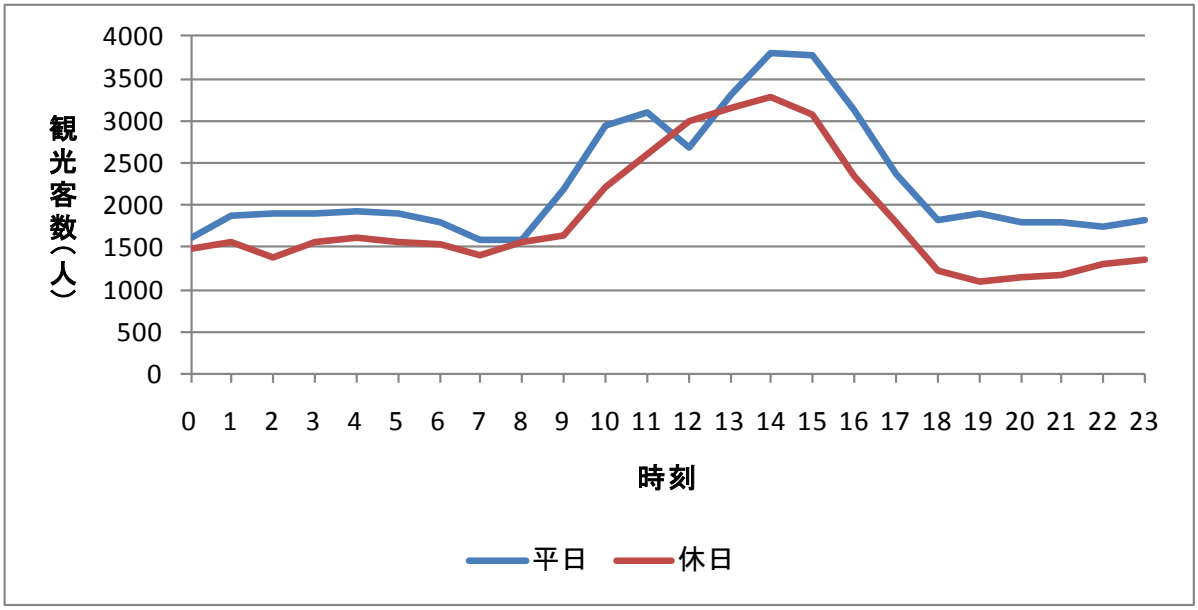
図表 Ⅵ－２－６６　南城市(1 月)



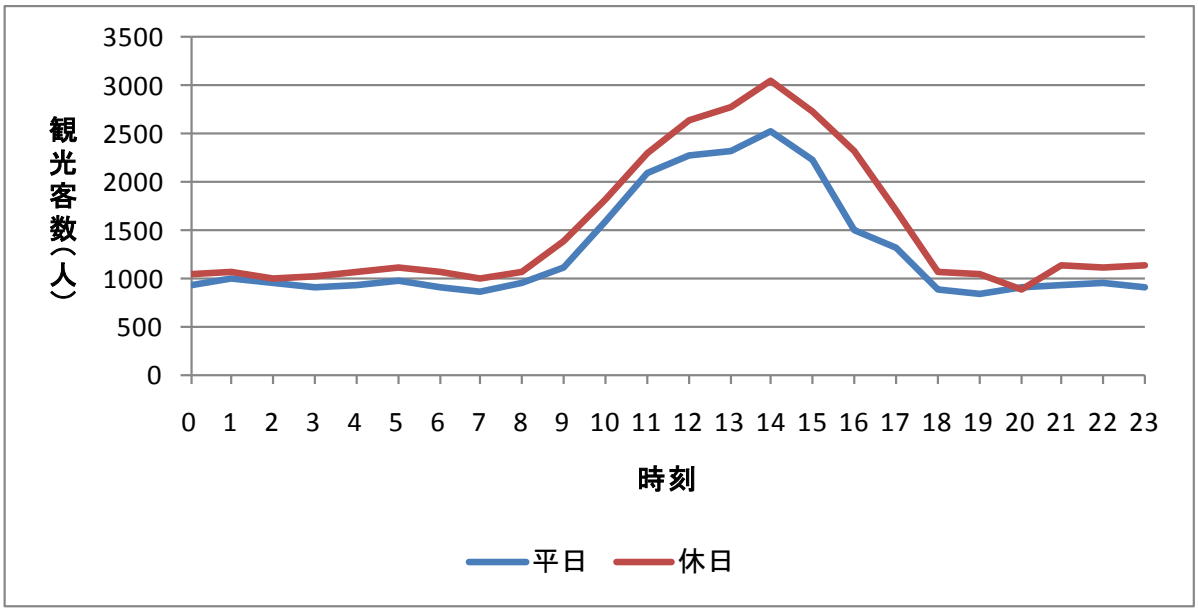
（m）本部町

夜間に比べ、昼間観光客が 2,000 人程度増加しており、14 時から 15 時にピークを迎える。10 月の平日は、他に比べて高い傾向がある。休日の昼間の観光客は 1 月でも減少せず、観光施設の影響が大きいものと考えられる。

図表 Ⅵ－２－６７　本部町(10 月)



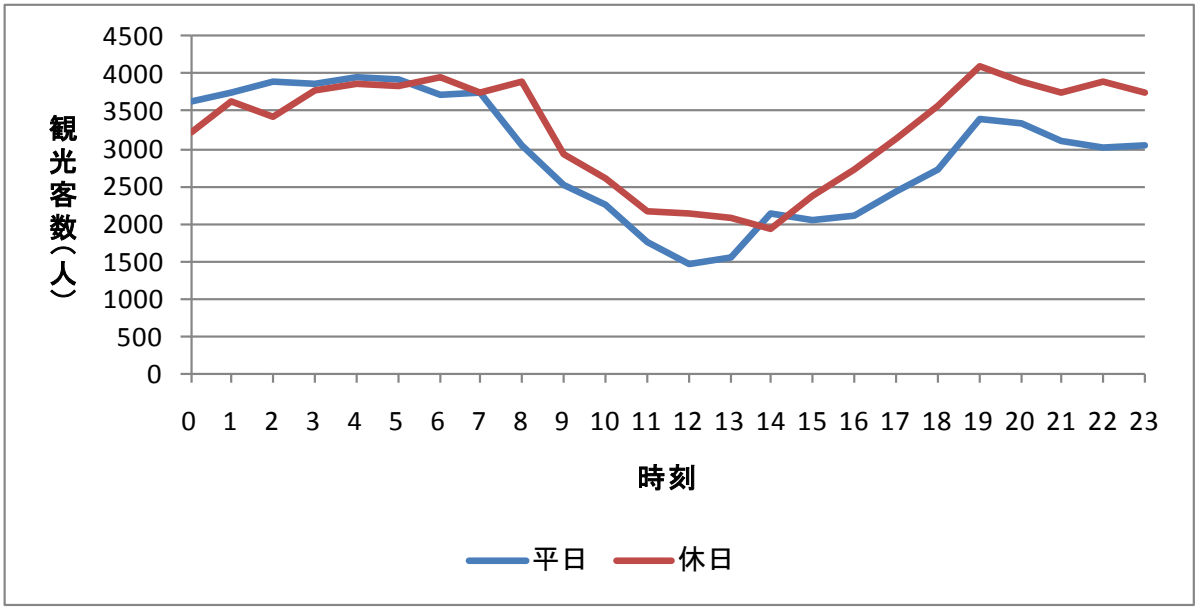
図表 Ⅵ－２－６８　本部町(1 月)



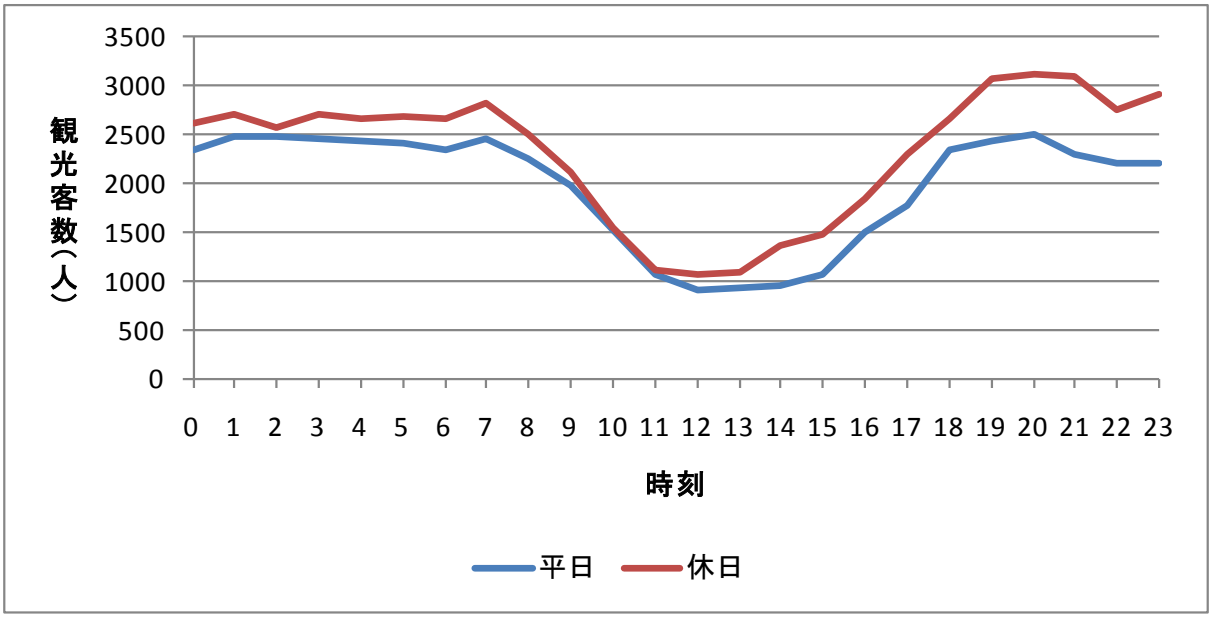
(n) 恩納村

夜間に比べ昼間の観光客が大きく減少する。10 月夜間の県外客数は 3,000 人を超え、宿泊客が多いことがうかがえる。1 月も観光客の増減は同様の傾向を示すが、観光客は 1,000 人程度減少する。

図表 Ⅵ－２－６９　恩納村(10 月)



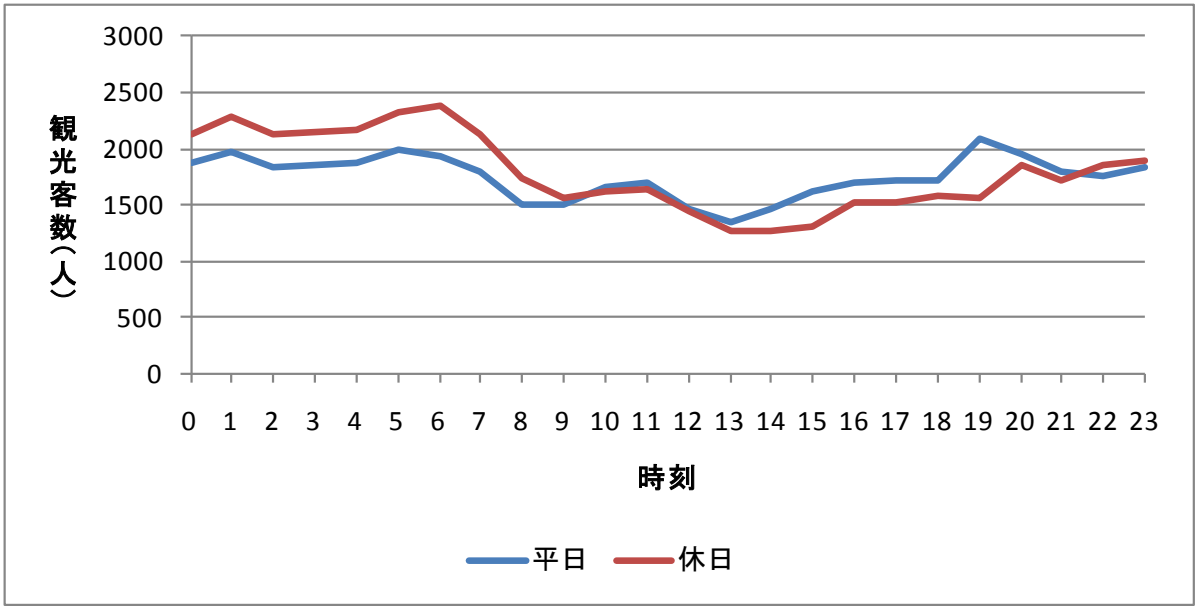
図表 Ⅵ－２－７０　恩納村(1 月)



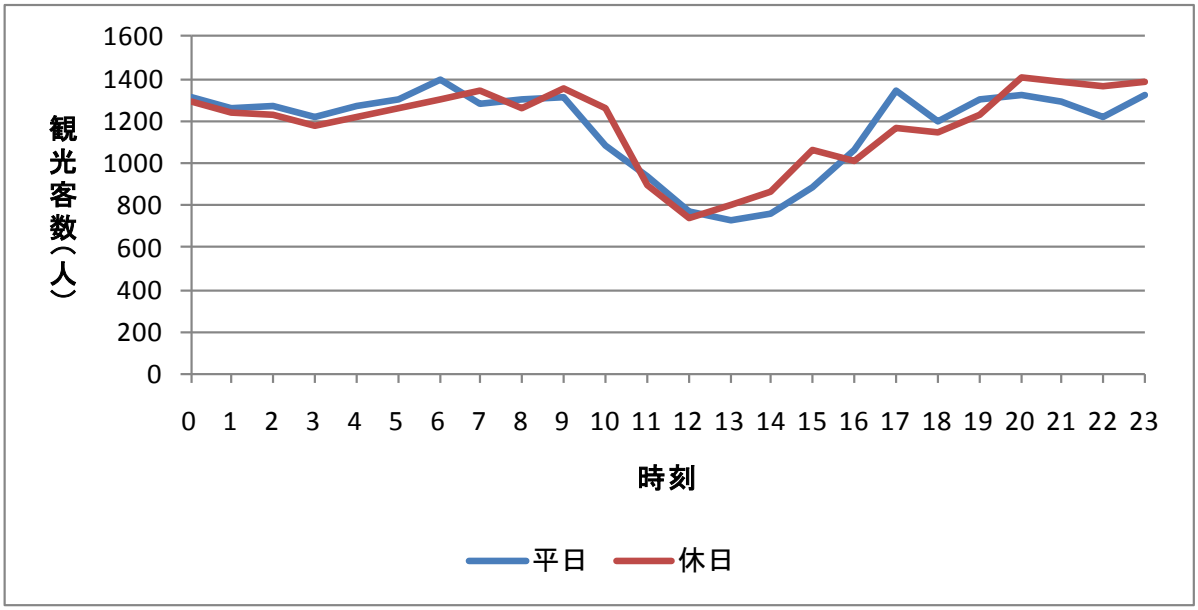
(o) 読谷村

恩納村と同じく、昼間の観光客が減少する。10 月に比べ、1 月は昼間も夜間も観光客が減少する。

図表 Ⅵ－２－７１　読谷村(10 月)



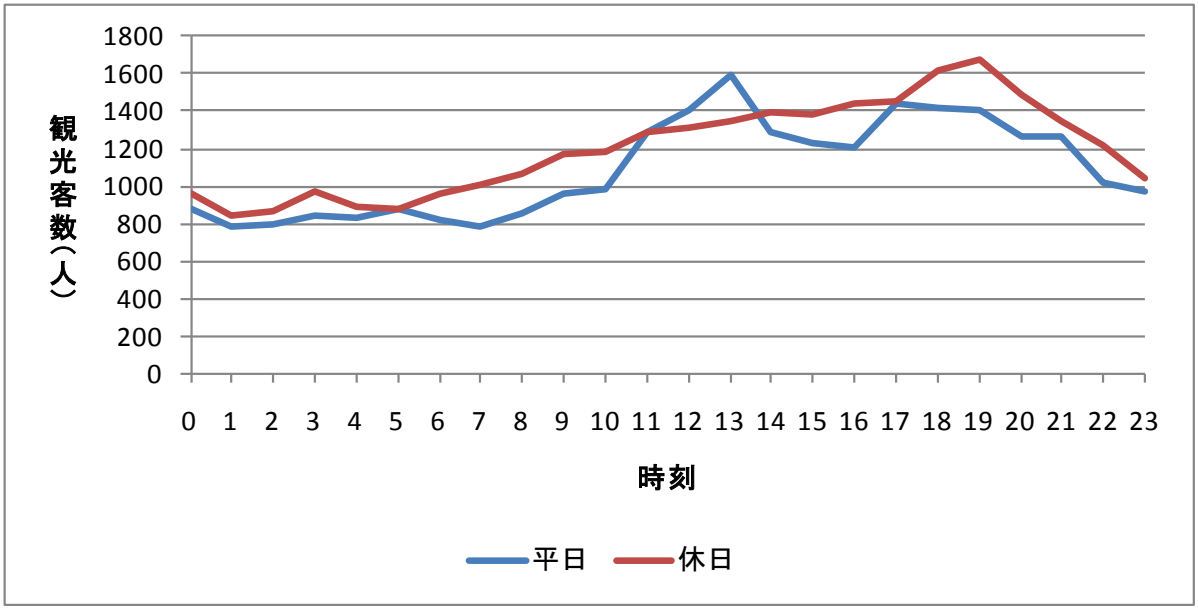
図表 Ⅵ－２－７２　読谷村(1 月)



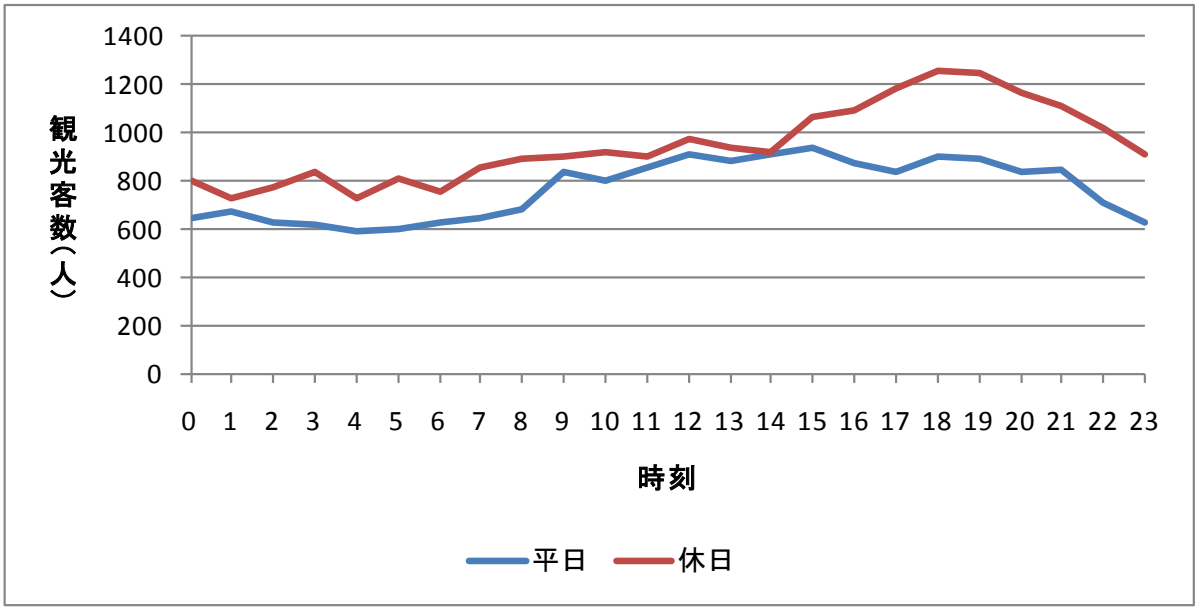
(p) 北谷町

朝方から少しずつ増加し、夕方以降ピークを迎える。平日に比べて休日のピークは遅くなる傾向がある。

図表 Ⅵ－２－７３　北谷町(10 月)



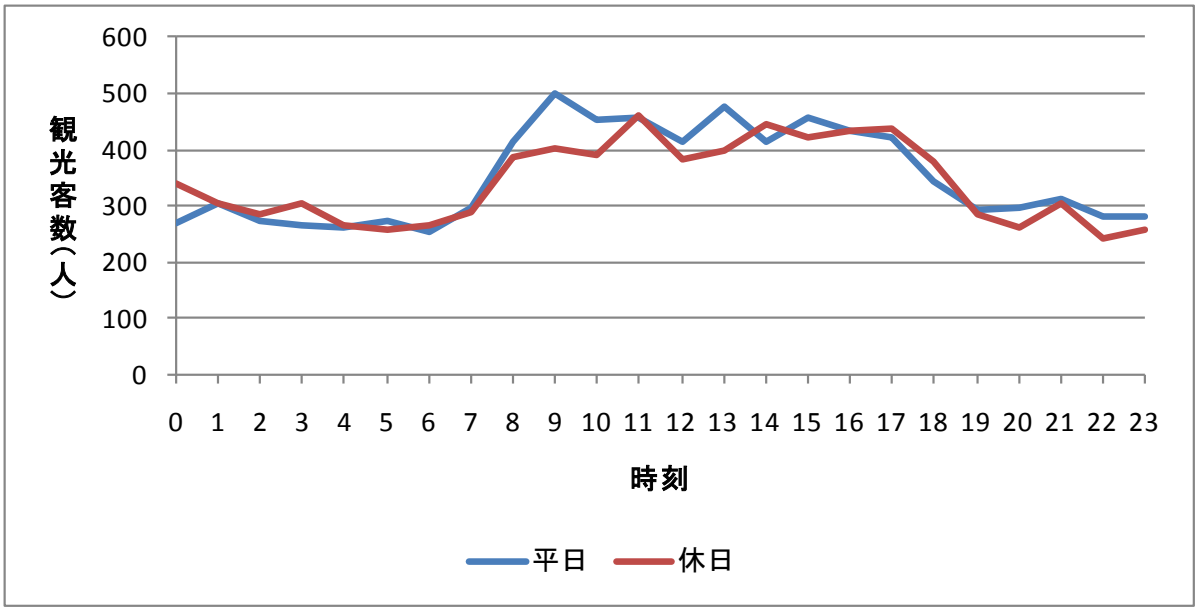
図表 Ⅵ－２－７４　北谷町(1 月)



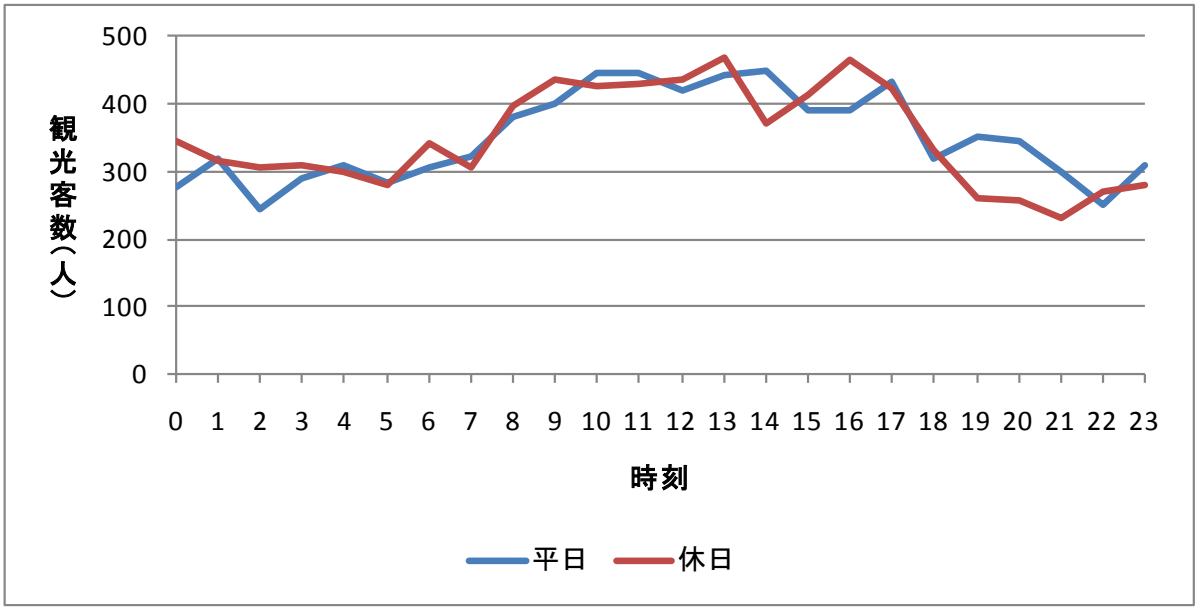
(q) 中城村

昼間に観光客が増加する。平日と休日、10 月と 1 月ともに大きな違いはない。

図表 Ⅵ－２－７５　中城村(10 月)



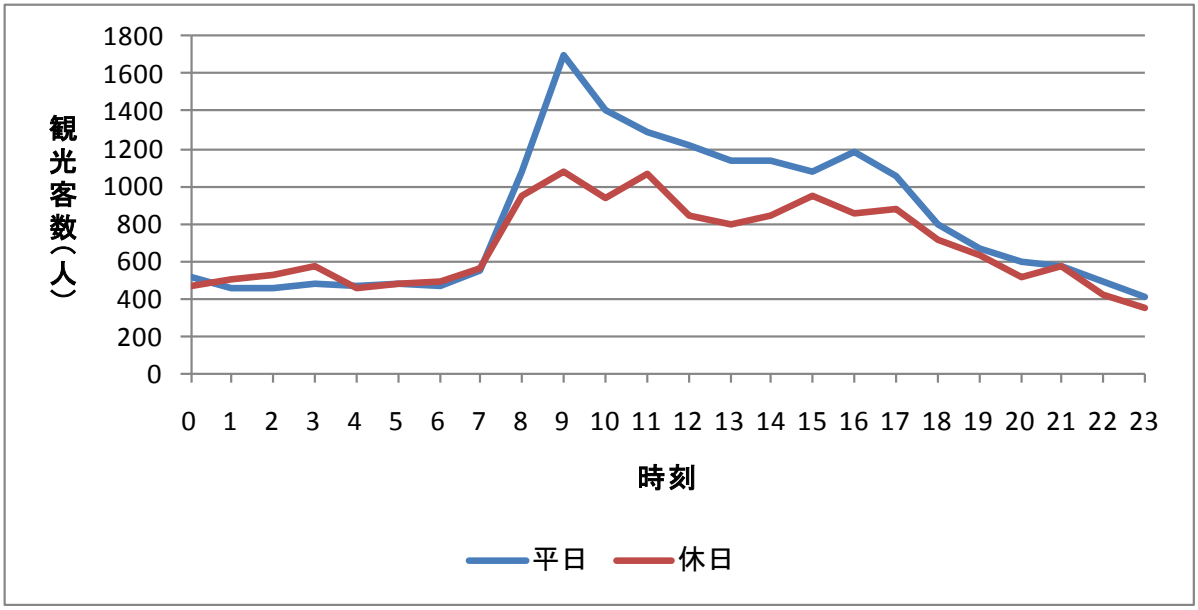
図表 Ⅵ－２－７６　中城村(1 月)



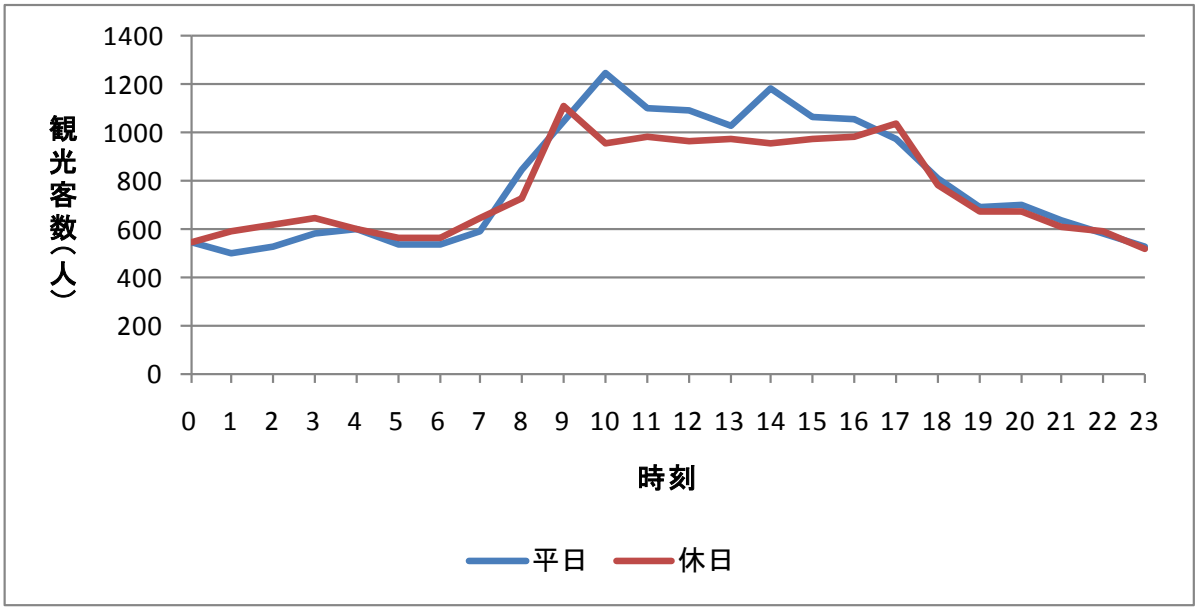
(r) 西原町

夜間に比べ昼間の観光客が多い。特に朝方急激に増加する傾向がある。昼間は、休日よりも平日観光客の方が多い。休日観光客数は、10 月と 1 月で大きな差がない。

図表 Ⅵ－２－７７　西原町(10 月)



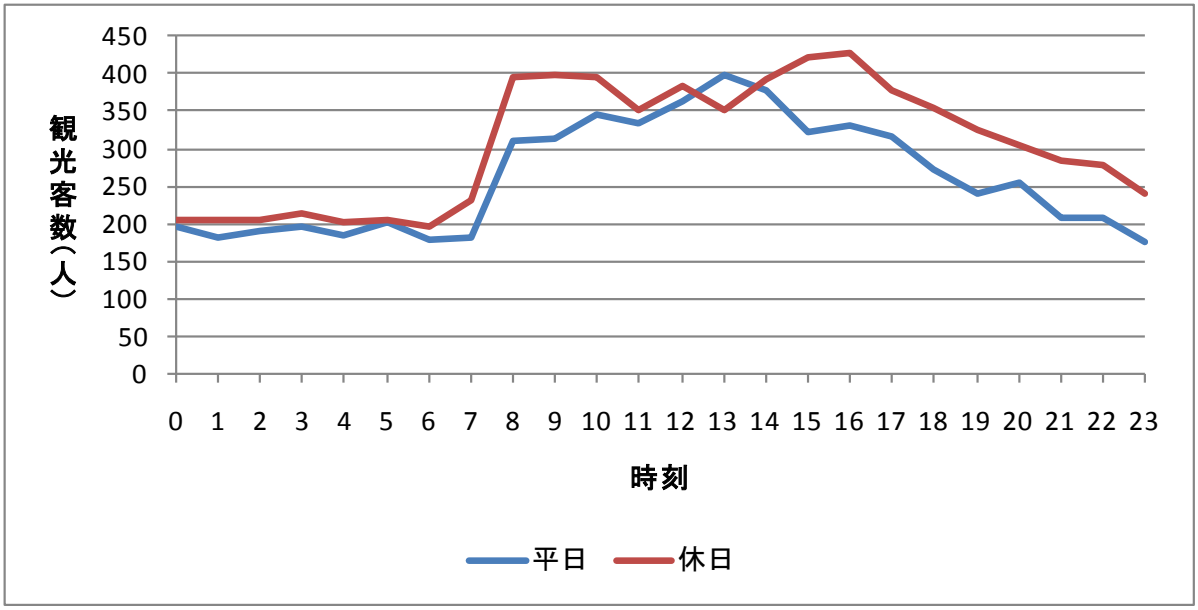
図表 Ⅵ－２－７８　西原町(1 月)



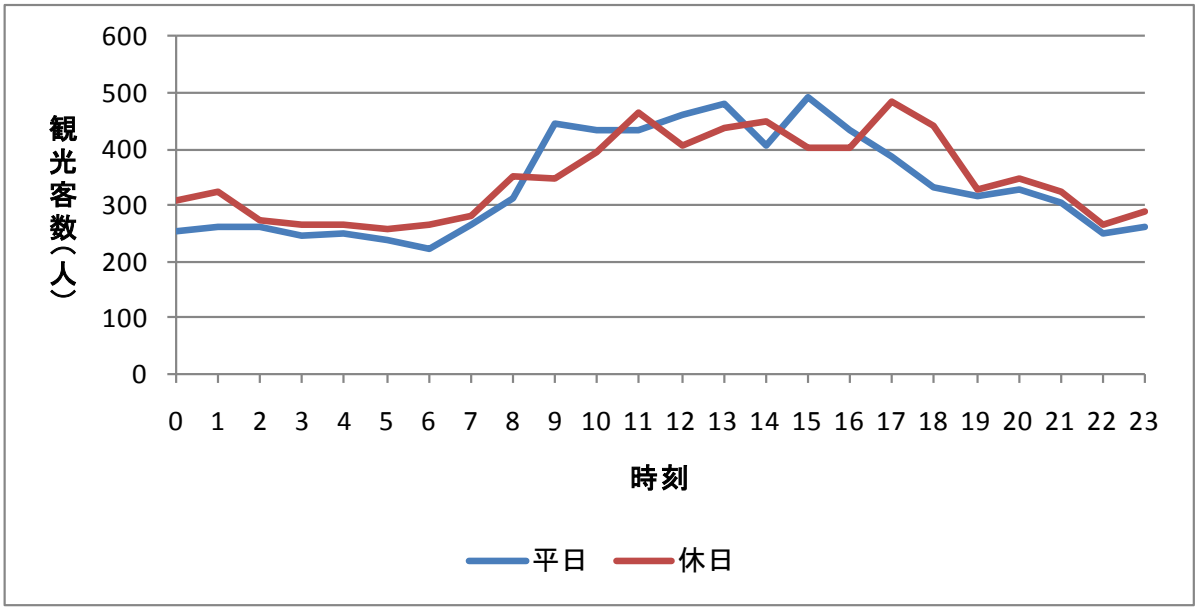
(s) 南風原町

昼間に観光客が増加する。平日と休日で大きな差はないが、10 月休日は、平日よりもやや遅い時間帯から減少が始まる。10 月よりも若干 1 月の方が観光客は多い。

図表 Ⅵ－２－７９　南風原町(10 月)



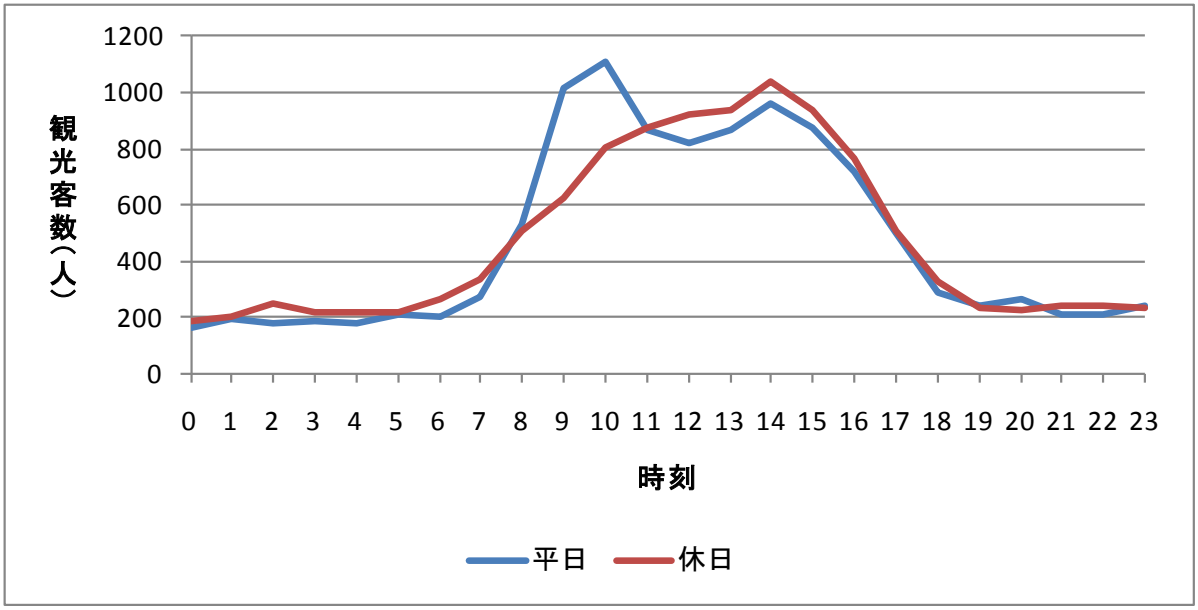
図表 Ⅵ－２－８０　南風原町(1 月)



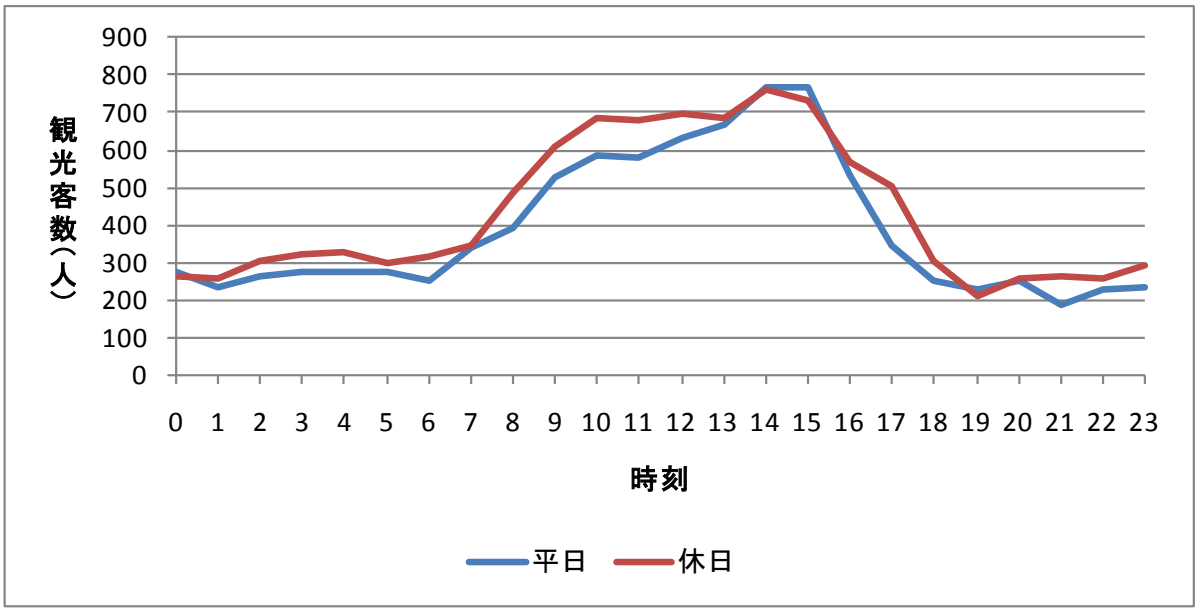
(t) 八重瀬町

夜間に比べ昼間の観光客が大きく増加する。朝方急激に増加し、夕方減少する。平日と休日の差は小さく、1 月は 10 月に比べて減少する。

図表 Ⅵ－２－８１　八重瀬町(10 月)



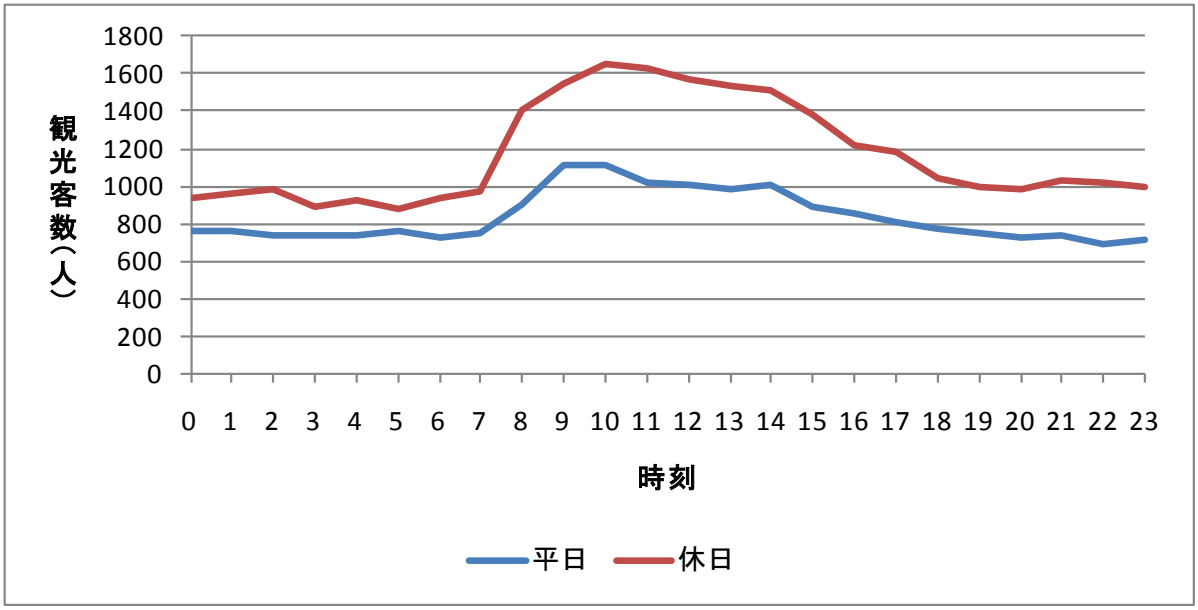
図表 Ⅵ－２－８２　八重瀬町(1 月)



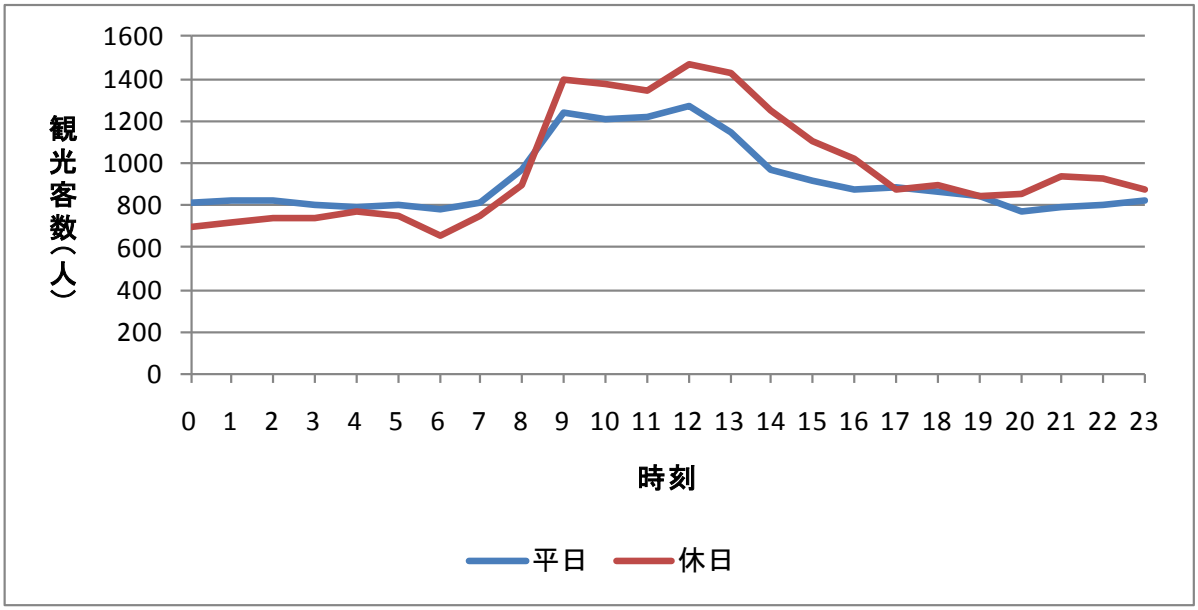
(u) 竹富町

朝方から観光客が増加し、午前中にピークを迎え、午後はなだらかに減少する。10 月は休日の観光客が平日に比べ多い。平日の観光客数は 10 月と 1 月であまり差がない。

図表 Ⅵ－２－８３　竹富町(10 月)



図表 Ⅵ－２－８４　竹富町(1 月)



② 地域間の比較分析

観光客が滞在する観光施設や宿泊施設などが、昼夜間の人口増減の傾向が異なる要因になると考えられる。観光客数の時間変化から、以下のように昼増加して夜減少する地域、昼減少して夜増加する地域、昼・夜の増減が少ない地域に分類できる。

【昼増加して夜減少する地域】

宜野湾市、浦添市、糸満市、豊見城市、南城市、本部町、北谷町、中城村、西原町、南風原町、八重瀬町、竹富町

【昼減少して夜増加する地域】

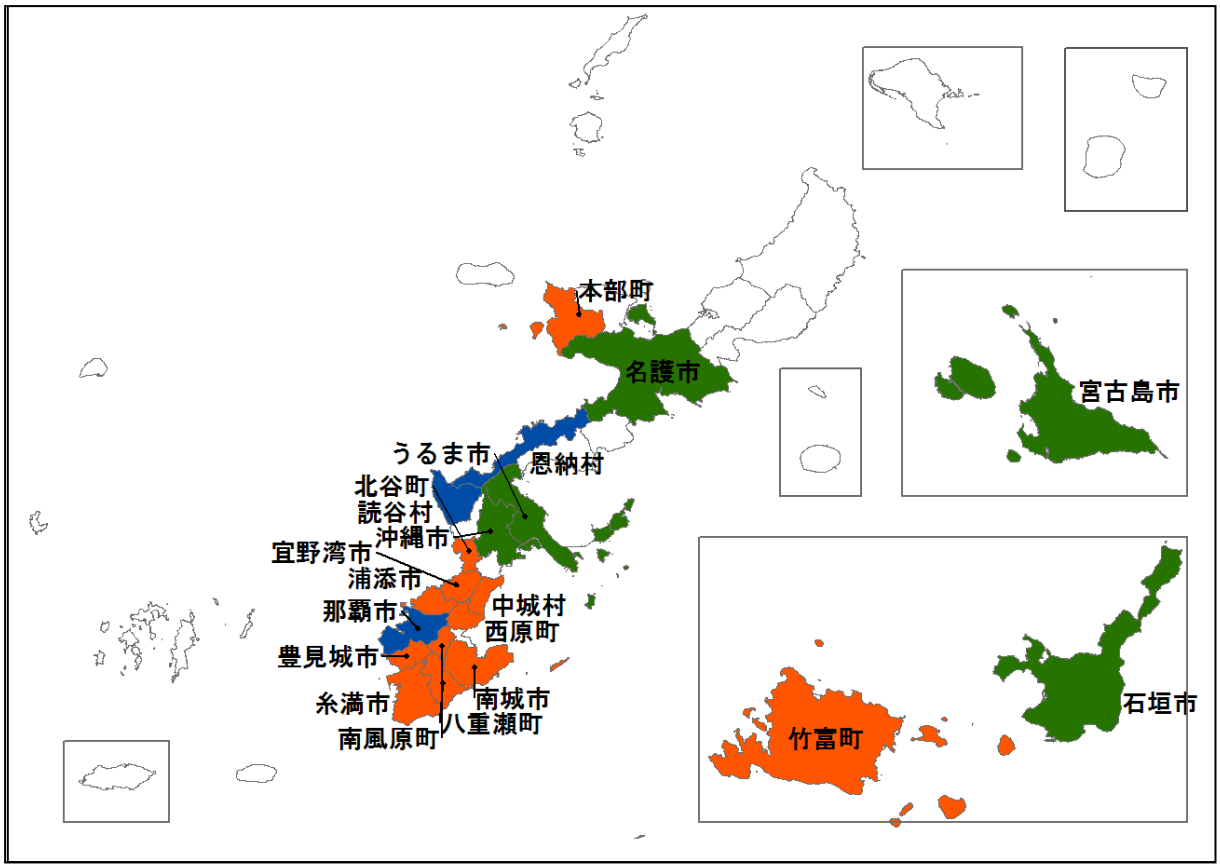
那覇市(那覇空港除く)、恩納村、読谷村

【昼・夜の増減が少ない地域】

石垣市、名護市、沖縄市、うるま市、宮古島市

以上の結果をまとめると、図表 VI－２－８５のようになる。

図表 VI－２－８５　各市町村の観光客推移の傾向



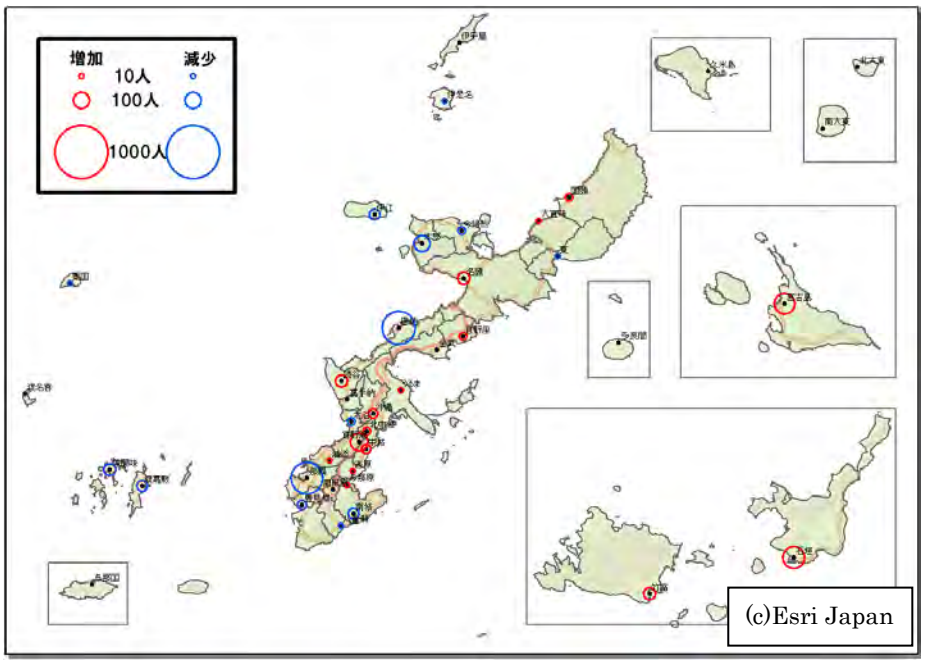
（３） 県外観光客の増減と地理的関係

これまで市町村別にまとめた県外観光客数を３時間ごとに平均化し、その変化を１枚の沖縄県地図にまとめ、県外観光客の増減が地理的にどう関係するのかを明らかにする。各市町村の午前3～5時における県外客数を基準とし、それより増加している場合を赤い円で、逆に減少している場合を青い円で示している。円の大きさはその増減の大小を示す。なお那覇市は那覇空港エリアを除いた観光客数である。

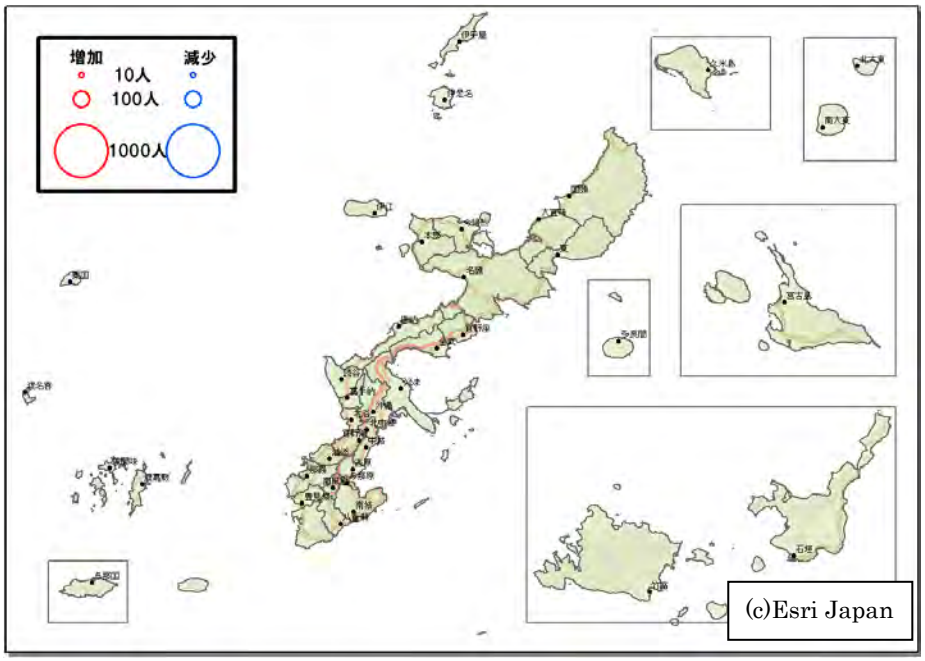
① 10 月の県外観光客の増減

午前 0～2 時は全体的に増減が小さく、午前 3～5 時との差が小さいことが分かる。3～5 時は基準となる時間帯であるため、全市町村において増減がない。

図表 Ⅵ－２－８６　10 月の時間別の観光客の増減(0～2 時)



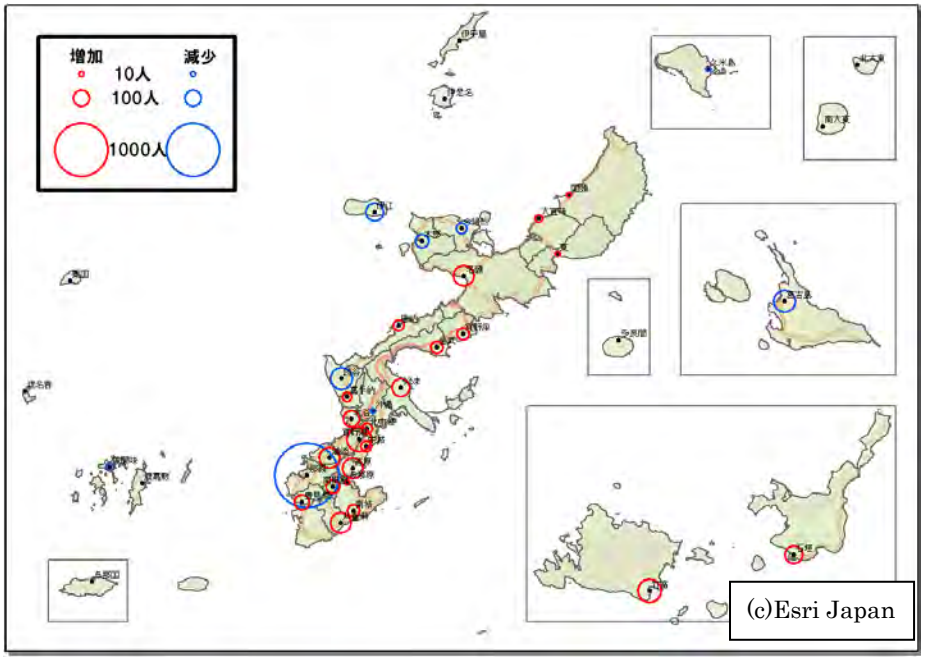
図表 Ⅵ－２－８７　10 月の時間別の観光客の増減(3～5 時)



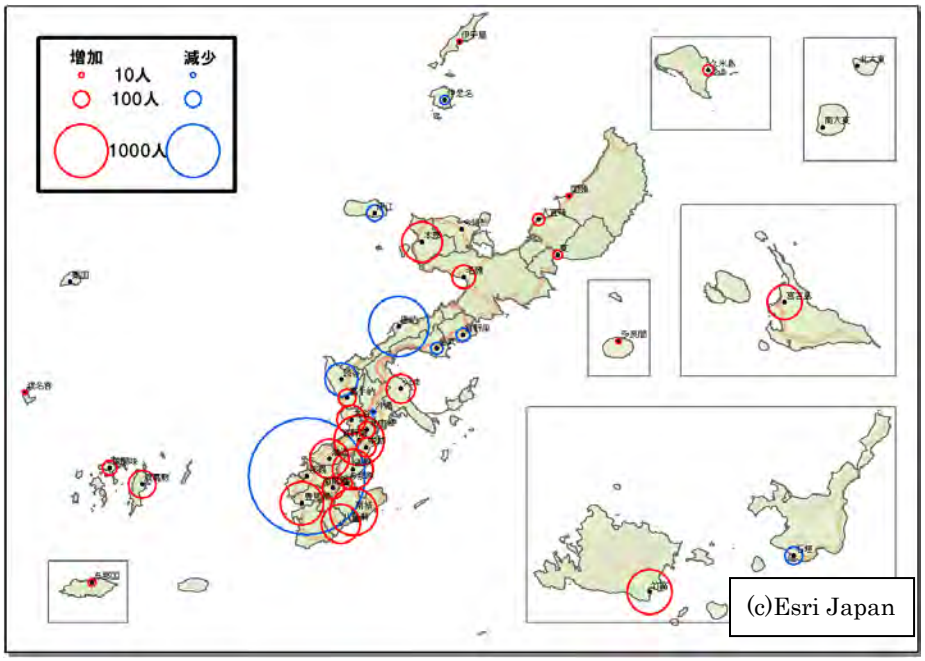
6~8 時になると那覇市で観光客が急減し、北部・中部もやや減少するものの、周辺の多くの自治体は微増している。

9～11 時は那覇市・恩納村でさらに減少するが、周辺の自治体は逆に直前の時間帯よりもさらに増加した。石垣島・宮古島もさらに増加した。

図表 VI－２－８８　10 月の時間別の観光客の増減(6～8 時)

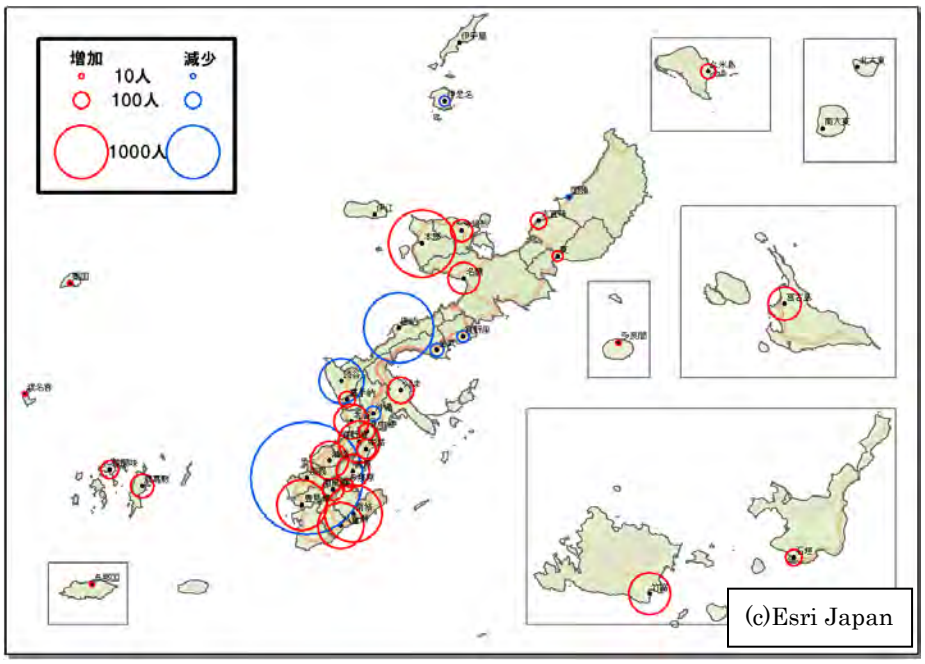


図表 VI－２－８９　10 月の時間別の観光客の増減(9～11 時)

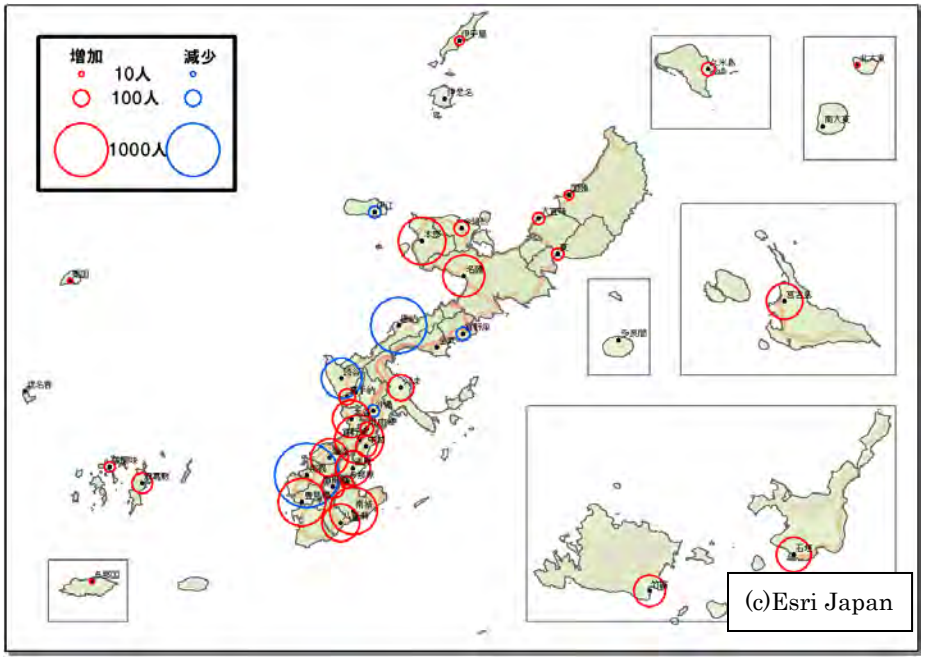


12～14 時になると本部町で観光客がさらに増加した。中部・南部はさほど変化はない。15～17 時では，全体的に増減が小さくなる。那覇市の減少傾向は急激に小さくなった。

図表 Ⅵ－２－９０　10 月の時間別の観光客の増減(12～14 時)



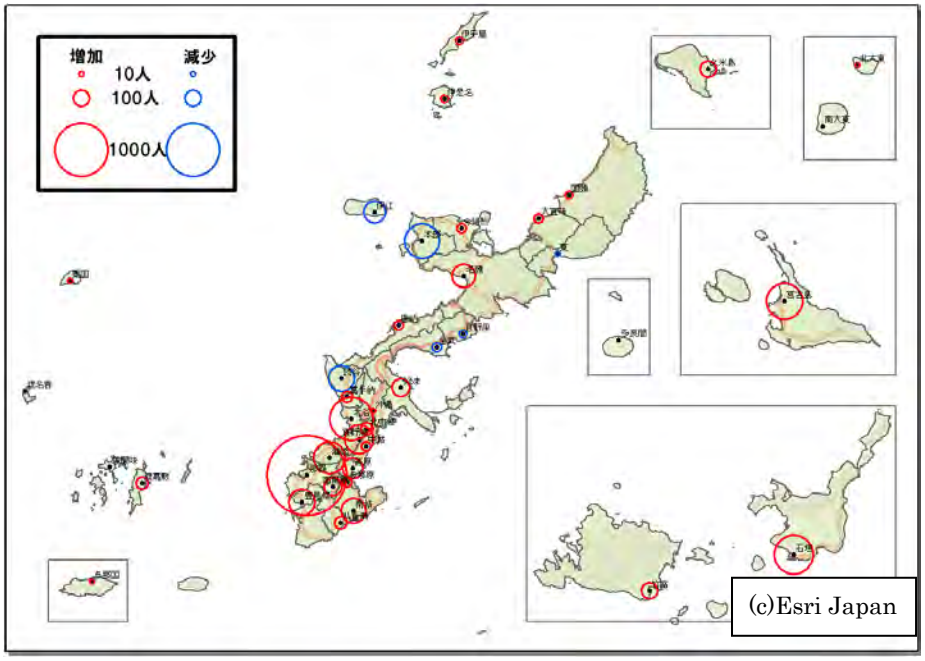
図表 Ⅵ－２－９１　10 月の時間別の観光客の増減(15～17 時)



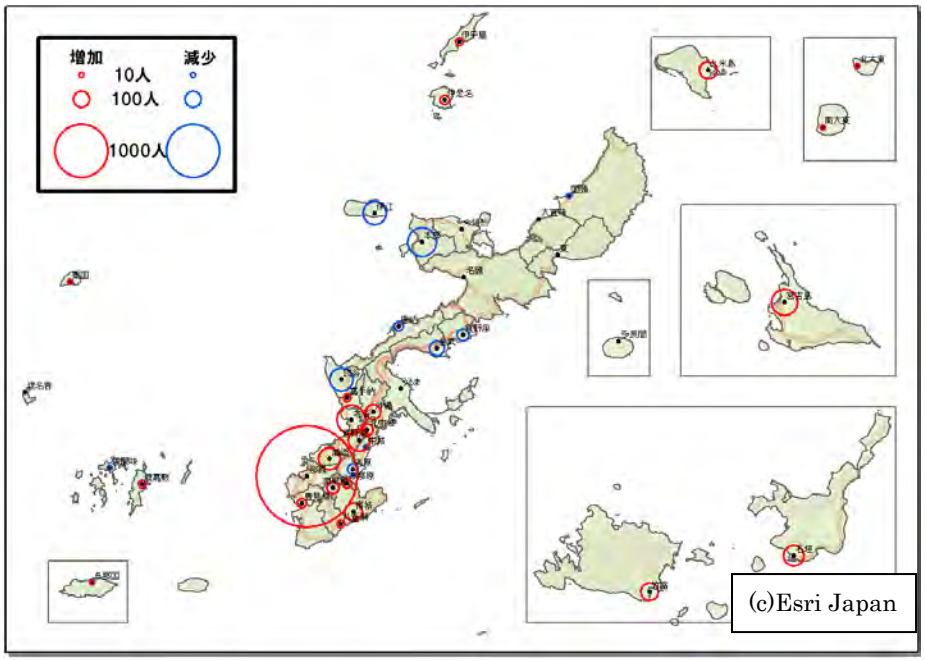
18～20 時になると那覇市は一転して増加になった。本部町は減少に転じ、南部の市町村の増加が小さくなった。

21～23 時になると多くの自治体で増減は小さくなったものの、那覇市は増加を大きく保っている。

図表 VI－２－９２　10 月の時間別の観光客の増減(18～20 時)



図表 VI－２－９３　10 月の時間別の観光客の増減(21～23 時)

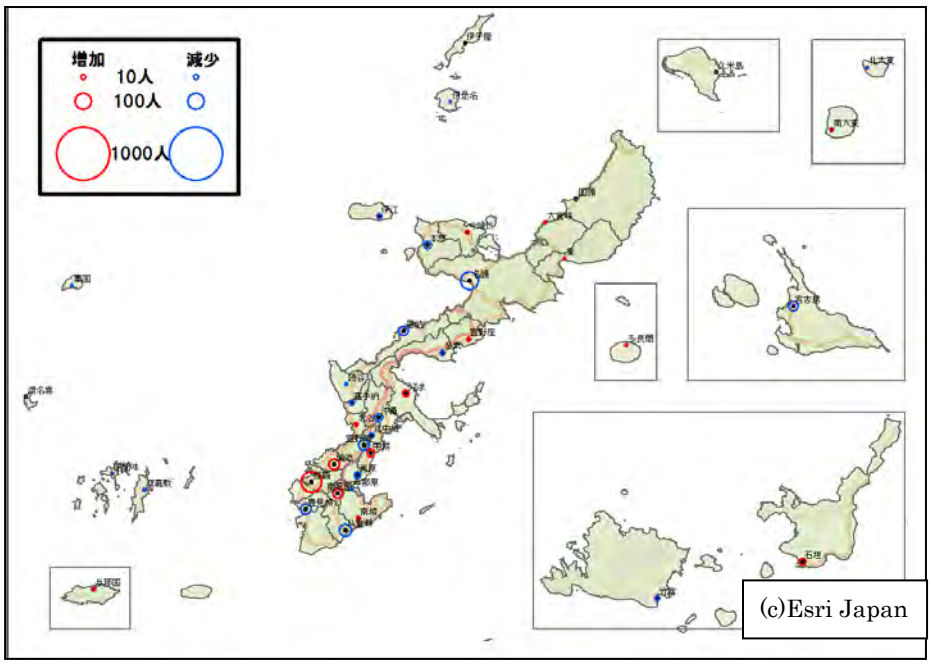


② １月の県外観光客の増減

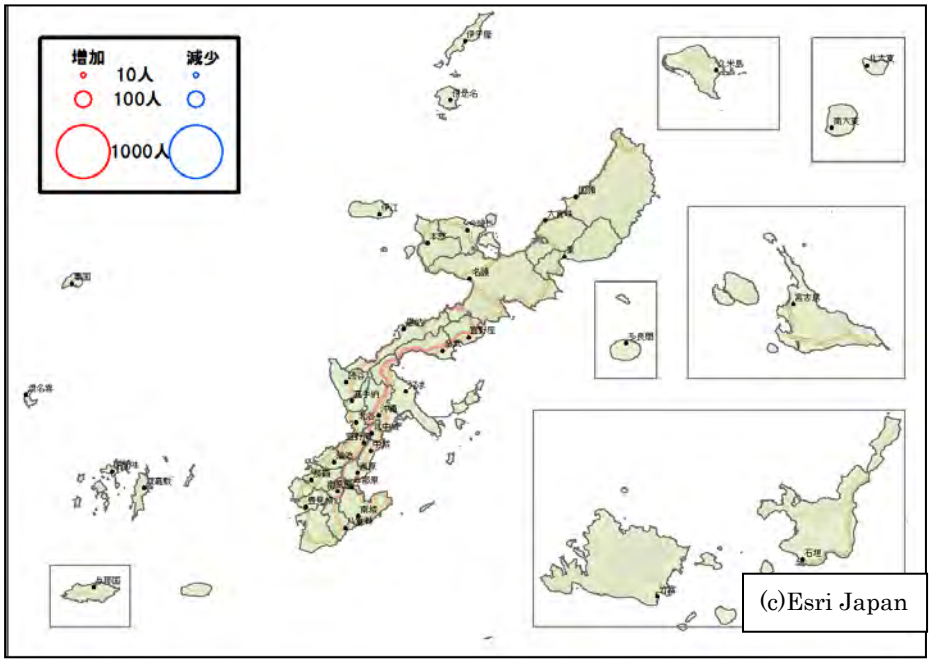
午前 0～2 時は全体的に増減が小さいという傾向は変わらない。

3～5 時は基準となる時間帯であるため、全市町村において増減がない。

図表 Ⅵ－２－９４　１月の時間別の観光客の増減(0～2 時)



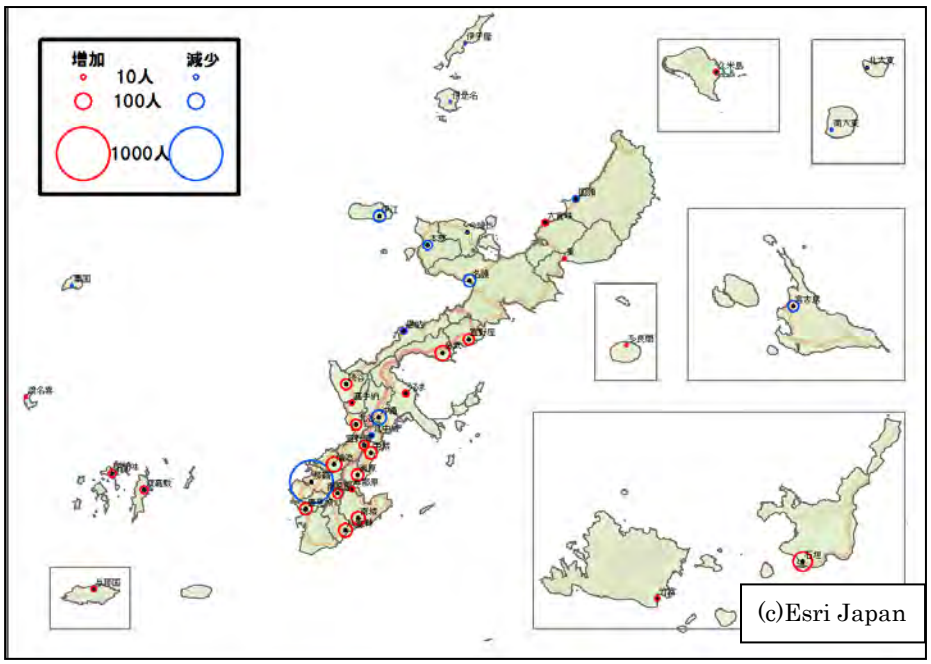
図表 Ⅵ－２－９５ １月の時間別の観光客の増減(3～5 時)



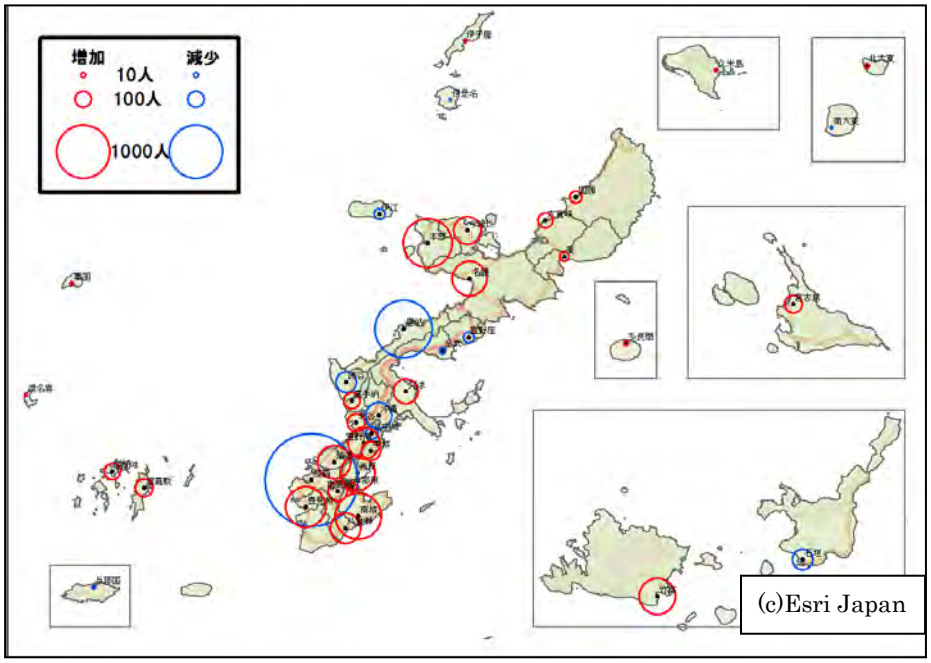
6~8 時になると那覇市で観光客が急減するが、減少の幅は 10 月に比べて小さい。

9～11 時は那覇市・恩納村でさらに減少し、周辺の自治体は逆に増加の幅が拡大するが、やはり減少・増加の幅ともに 10 月よりも小さくなっている。竹富町が大きく増加し始めた。

図表 Ⅵ－２－９６ １月の時間別の観光客の増減(6～8 時)

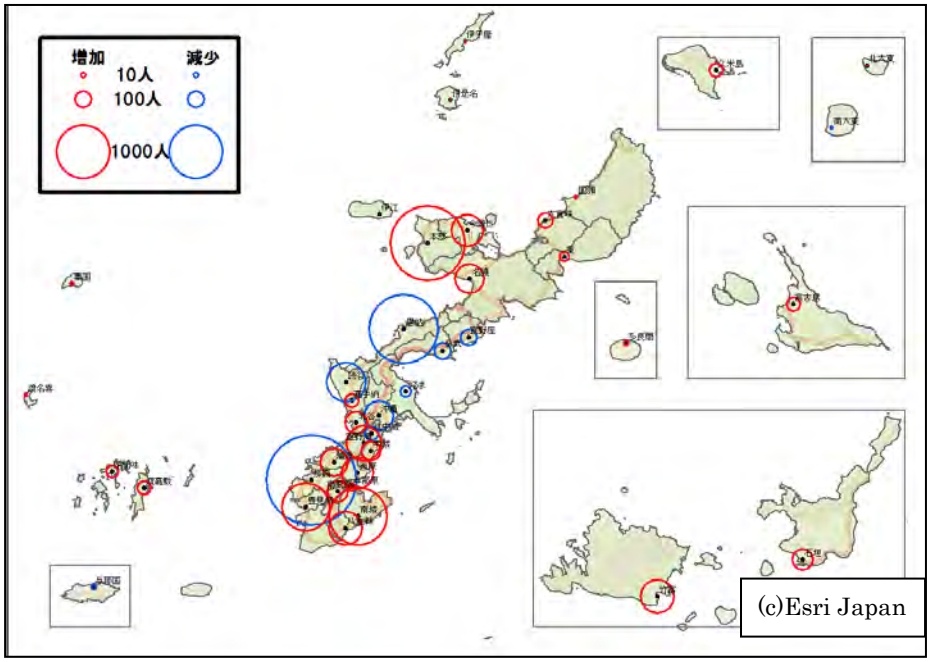


図表 Ⅵ－２－９７ １月の時間別の観光客の増減(9～11 時)

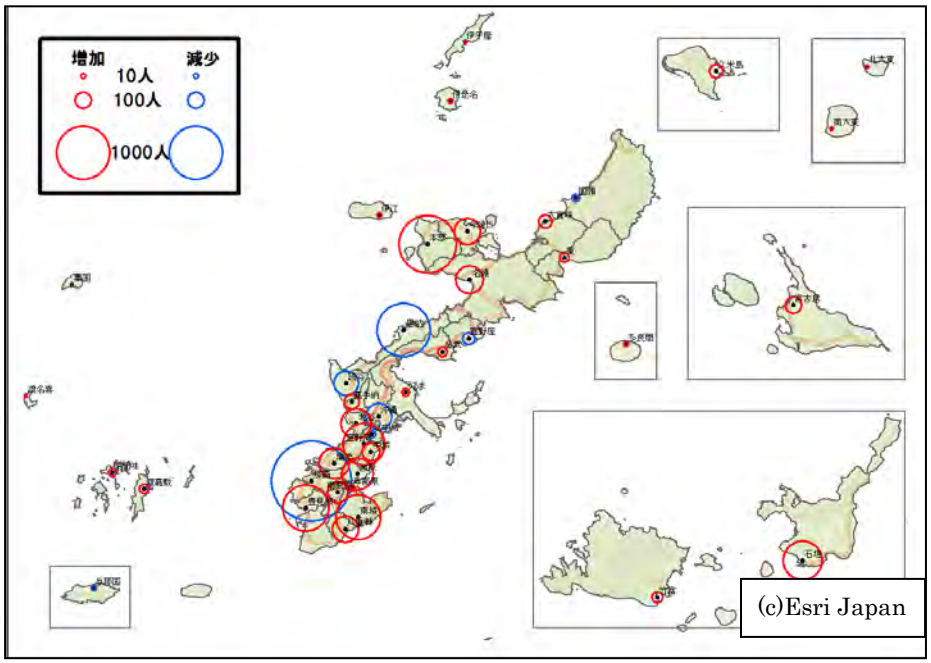


12～14 時になると本部町の観光客が大きく増加し、増加人数は 10 月と比べてやや大きい。15～17 時では全体的に増減が小さくなるというのは、10 月と同様の傾向である。

図表 Ⅵ－２－９８ １月の時間別の観光客の増減(12～14 時)



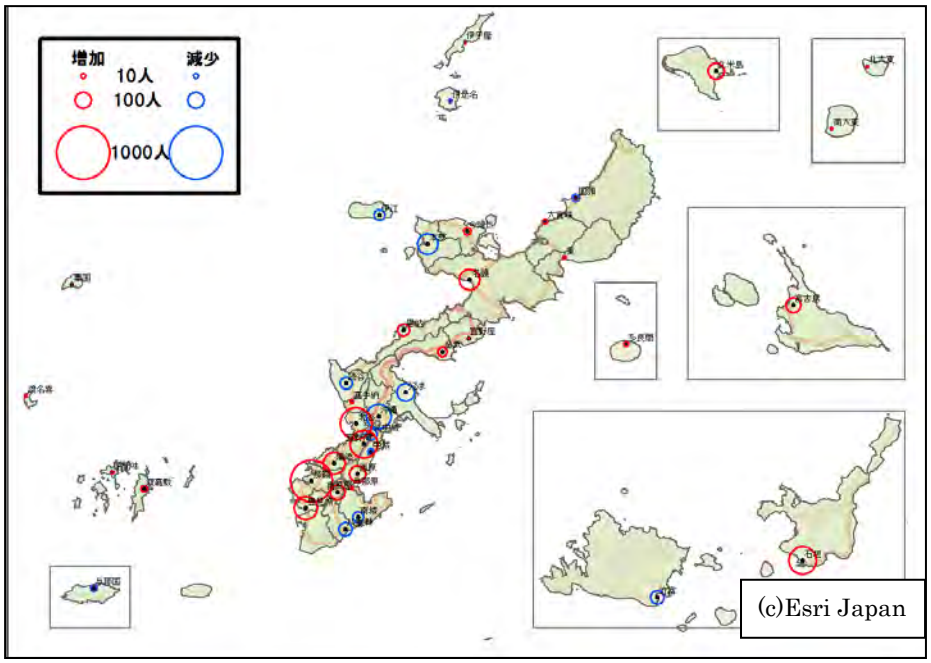
図表 Ⅵ－２－９９ １月の時間別の観光客の増減(15～18 時)



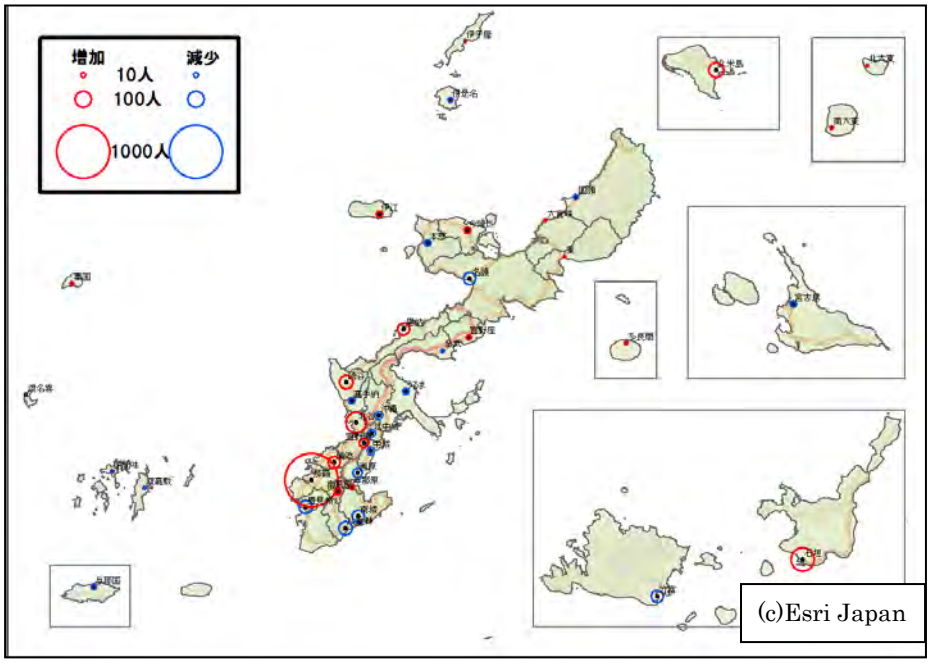
18～20 時になると那覇市は一転して増加し、本部町は減少に転じた。増加・減少は 10 月に比べて一様に小さい。

21～23 時になると多くの自治体で増減が小さくなり、那覇市は増加した観光客数が 18～20 時と比べてさほど変わっていない。

図表 Ⅵ－２－１００ １月の時間別の観光客の増減(18～20 時)



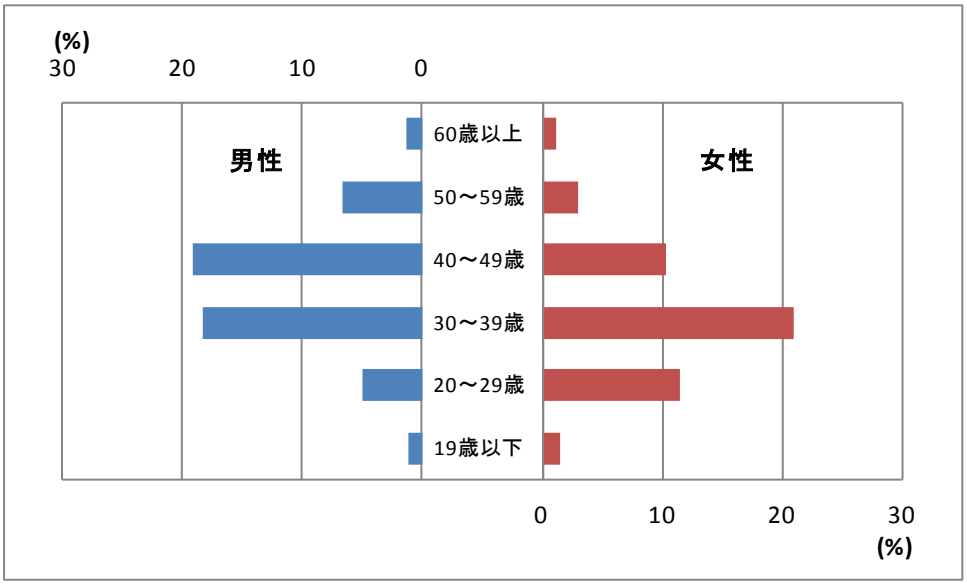
図表 Ⅵ－２－１０１ １月の時間別の観光客の増減(21～23 時)



２－４．　プレミアパネル観光客調査

プレミアパネルを用いて行ったアンケートの構成は、図表 VI－１－５に示した通りである。回答者の年齢層、性別を図表 VI－２－１０２に示す。男性は 30 代と 40 代、女性は 20 代～40 代の回答者が多い。

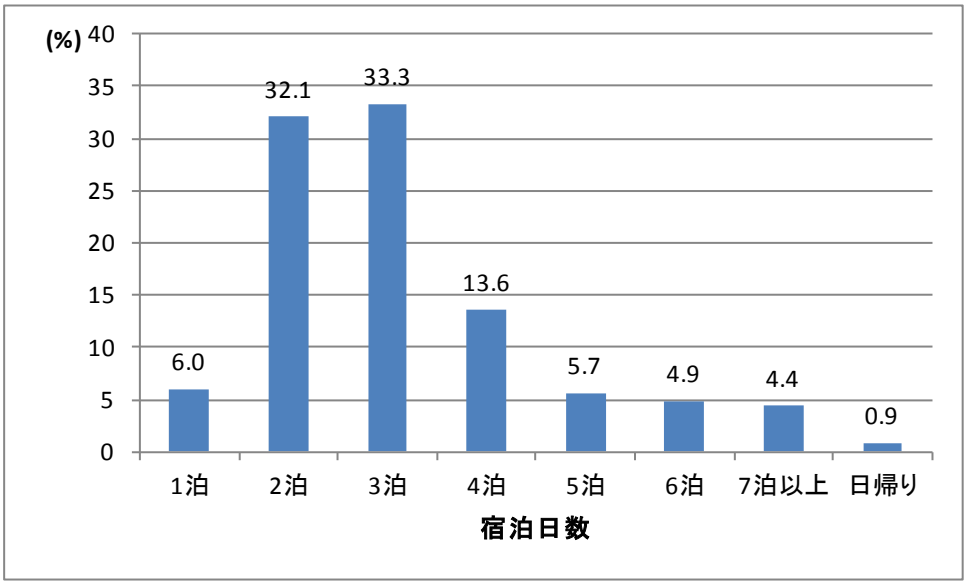
図表 VI－２－１０２　回答者の性別・年齢層



（１）　宿泊日数

宿泊数で最も多いのは 3 泊で、3 分の 1 を占める。2 泊が同程度で続き、観光客の 3 分の 2 は 2 泊 3 日あるいは 3 泊 4 日の沖縄旅行を行っている。

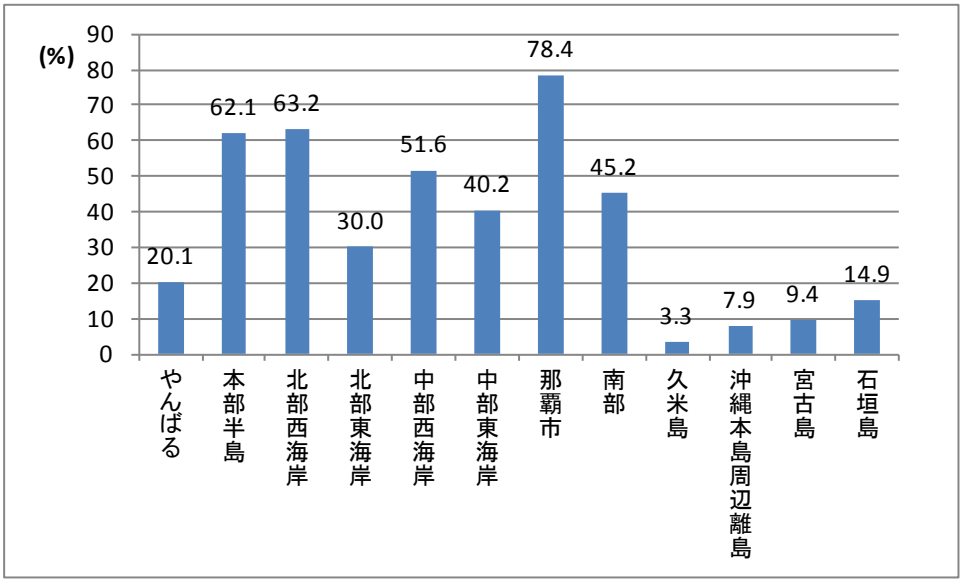
図表 VI－２－１０３　宿泊日数



（２） 訪問エリアと宿泊率

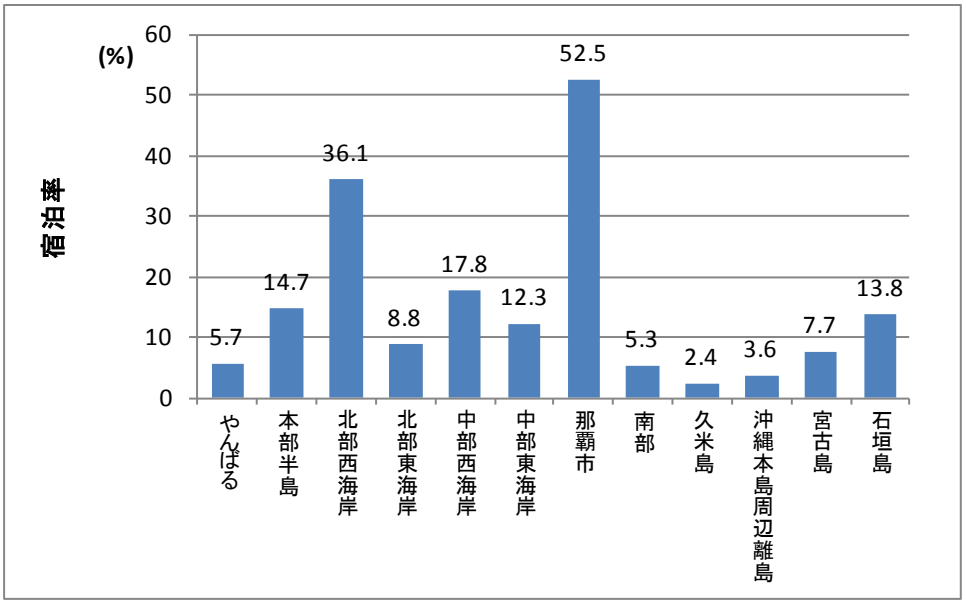
観光客の 4 分の 3 以上は那覇市を訪れる（那覇空港の利用だけの観光客は除いている）。北部西海岸エリア、本部半島エリアが続き、離島の中で最も観光客が多いのは石垣島及びその周辺離島である。

図表 VI－２－１０４　訪問エリア

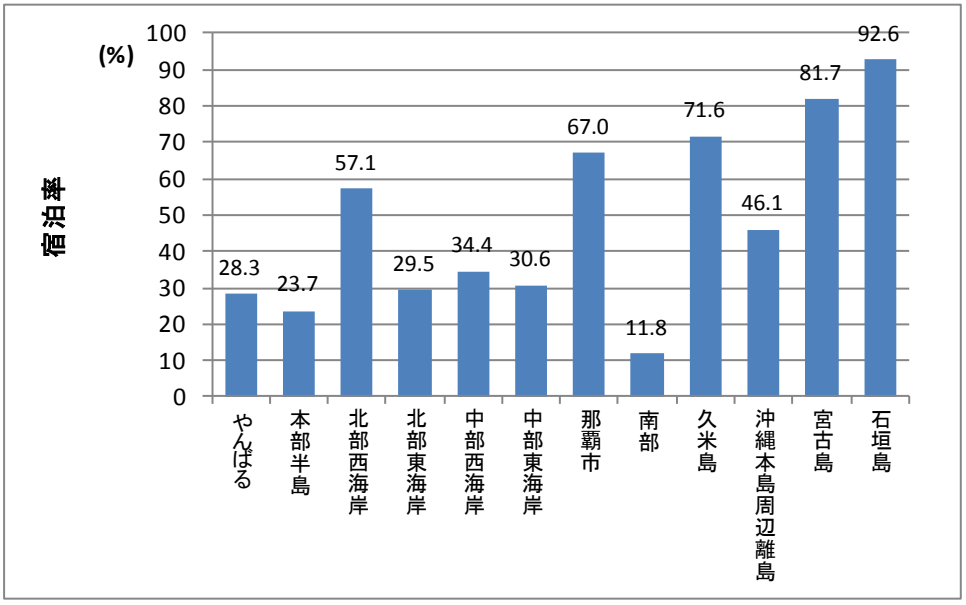


観光客が各エリアに宿泊する割合を図表 VI－２－１０５に、各エリアを訪れた観光客がそのエリアに宿泊する割合を図表 VI－２－１０６に示す。全体では観光客の半分以上が那覇市に宿泊している、次いで北部西海岸が 3 分の 1 を超えている。図表 VI－２－１０４を見ると、観光客の 60%以上は本部半島を訪れるが、宿泊者は 15%以下となる。図表 VI－２－１０６では、各エリアを訪れた観光客がそこで宿泊するかどうかを表したものであるが、本部半島エリアや南部エリアの宿泊率は低く、近隣の北部西海岸エリアや那覇市で宿泊する観光客が多いものと推定される。離島の宿泊率は非常に高く、特に石垣島及びその周辺諸島では 9 割を超える。

図表 VI－２－１０５　宿泊率（沖縄県全体に対して）



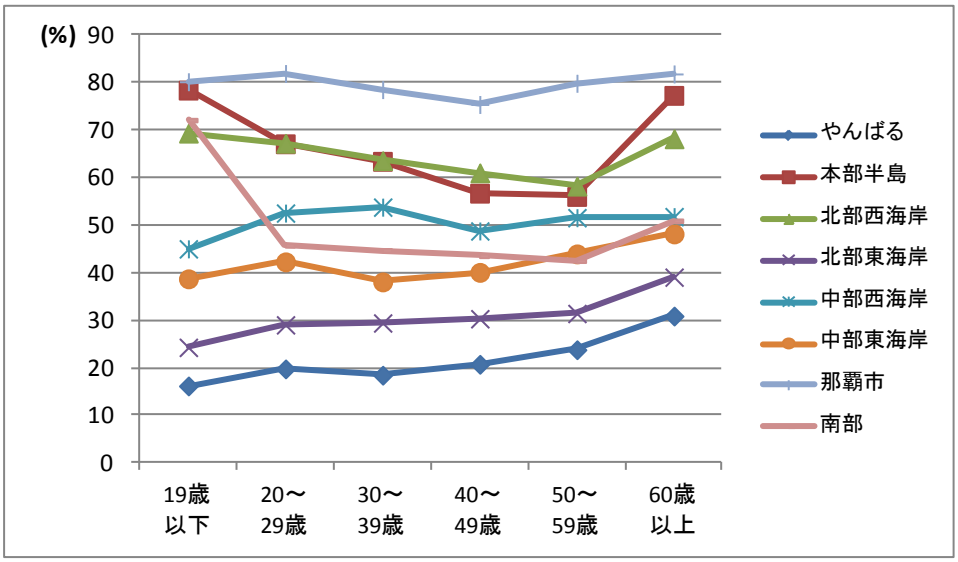
図表 VI－２－１０６　宿泊率（各エリアの訪問者に対して）



（３）　性別・年齢層別訪問エリア

図表 VI－２－１０７は沖縄本島の各エリアの訪問率を、年齢層ごとに算出したものである。本部半島エリアや北部西海岸エリア、南部エリアは 19 歳以下の若者とともに 60 歳以上の訪問率が高い。19 歳以下は、修学旅行の影響と推測されるが、特に南部エリアの訪問率が高い。これらはモバイル空間統計の結果と一致する。やんばるエリアと北部東海岸エリアは、年齢が上がるほど訪問率が高い傾向がある。

図表 VI－２－１０７　年齢層別訪問エリア

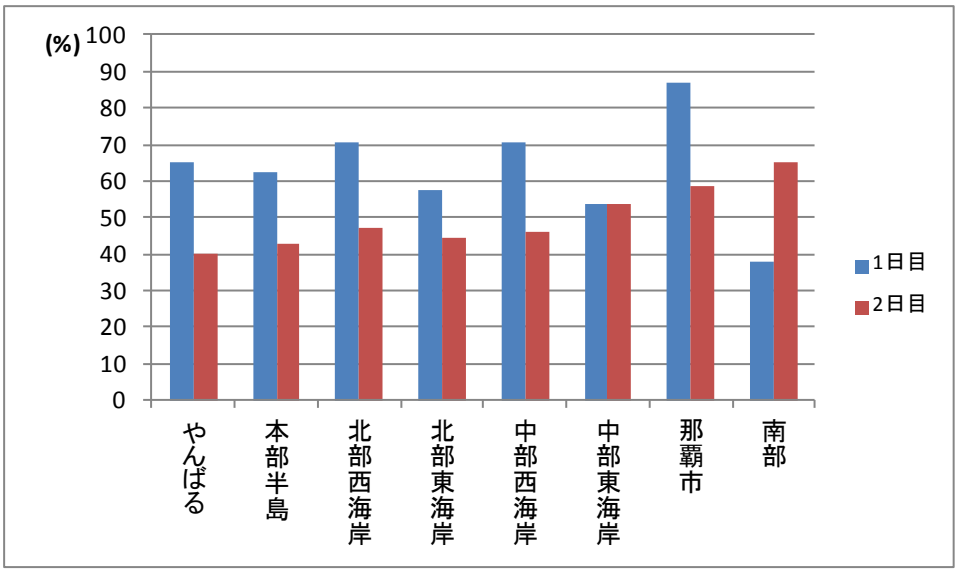


（４）　旅行先と日程

図表 VI－２－１０８から図表 VI－２－１１１は、沖縄本島の各エリアを訪れた人が何日目にそのエリアを訪れたかを割合で示したものである。

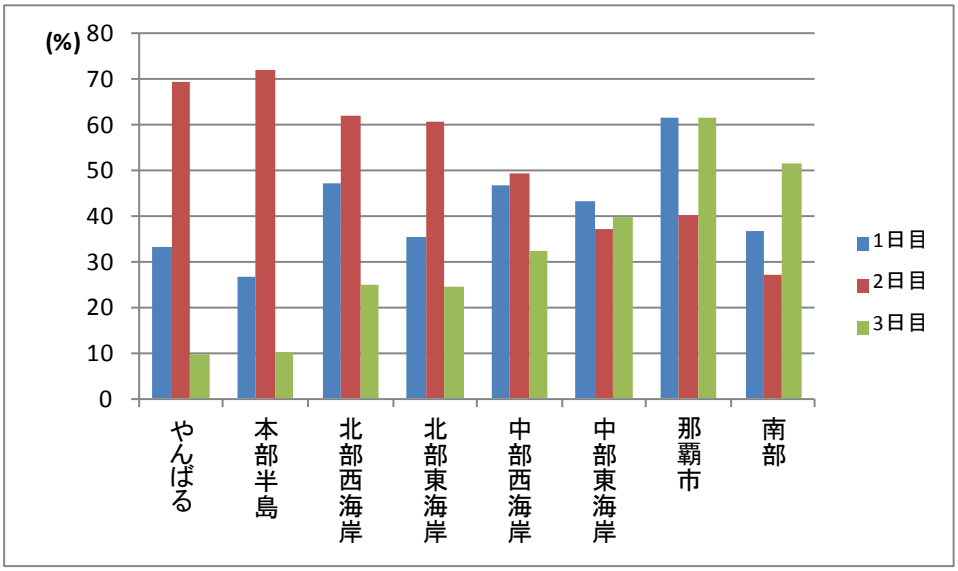
１泊２日の旅程では、１日目に那覇空港から遠方のエリアを含めて広く訪問している。多くのエリアは１日目に訪問しているのに対し、南部地方は２日目の訪問者が多い、宿泊先から那覇空港へ移動する間に訪問するケースが多いものと推測される。

図表 VI－２－１０８　各エリアを訪れた日にち（１泊２日）



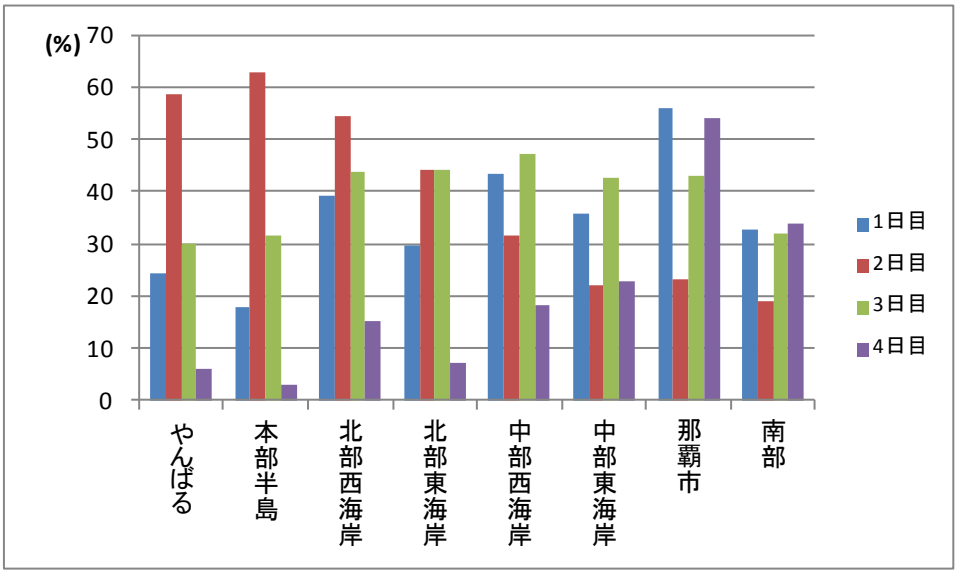
２泊３日になると、２日目が旅行での主な訪問先と推測され、１日目はそれほど訪問先の特徴は見られないが、２日目は那覇市から遠方のエリアの訪問者が多いことがわかる（図表の左側が北部エリアで、右側が南部エリアである）。最終日である３日目は那覇市近郊への訪問者が多い。

図表 Ⅵ－２－１０９　各エリアを訪れた日にち（2 泊 3 日）

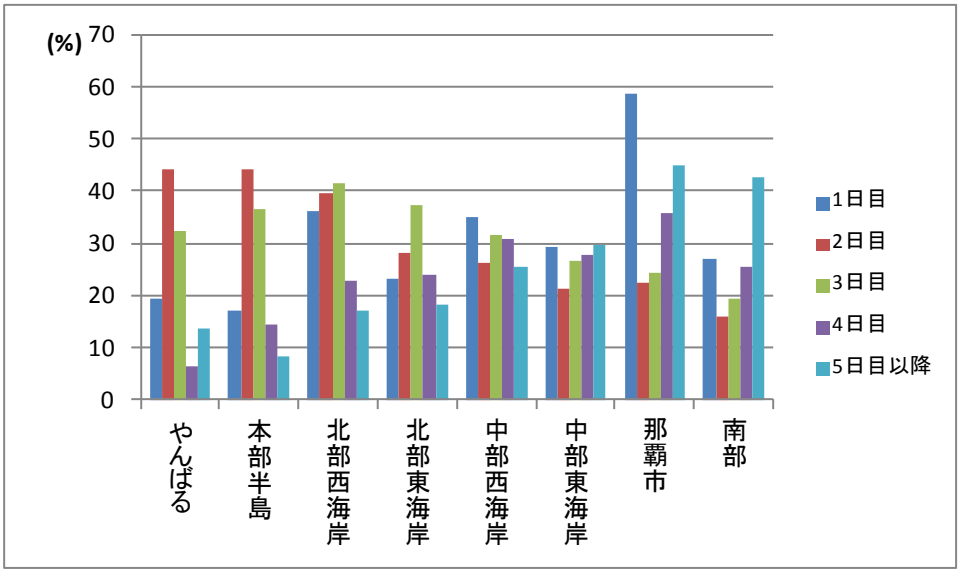


3 泊 4 日以上になると、2 日目に那覇市から遠方のエリアへ訪問する観光客が多く、3 日目以降は北部海岸エリアや中部海岸エリアの訪問者が多い傾向をもつ。特に中部海岸エリアは、2 日目よりも 3 日目，4 日目の訪問者の方が多い。

図表 Ⅵ－２－１１０　各エリアを訪れた日にち（3 泊 4 日）



図表 VI－２－１１１　各エリアを訪れた日にち（4 泊 5 日以上）



（５） 旅行中の訪問エリア

1 回の旅行で訪問したエリアの組み合わせを上位順で示したものが、図表 VI－２－１１２である。1 泊 2 日では、那覇市のみの訪問が突出し、那覇市近郊エリアを含めたものが続く。2 泊 3 日になると、本部半島、北部西海岸を旅程に含めるケースが多く、一度の旅行で訪れるエリアも多くなる。3 泊 4 日になると、石垣島のみの旅行が 6%を超え、沖縄本島を広く回る旅行がそれに続く。4 泊 5 日以上では、石垣島のみを訪れる割合はさらに増加し、沖縄本島で訪れるエリアの範囲もさらに広がる。

以上のように短期の旅行では、那覇市近郊と本部半島、北部西海岸を訪れる観光客が多く、長期の旅行では、石垣島を始めとした離島に長く滞在する旅行と沖縄本島を広く訪れる旅行が多いといえる。

図表 VI－２－１１２　旅行先の組み合わせの上位 10 組

	1 泊 2 日	(%)
1	那覇市	22.9
2	那覇市、南部	6.7
3	中部西海岸、那覇市	5.9
4	中部東海岸、那覇市	5.1
5	本部半島、那覇市	4.7
6	中部東海岸	2.4
7	中部西海岸、那覇市、南部	2.0
8	中部西海岸、中部東海岸、那覇市	2.0
9	本部半島、北部西海岸、那覇市、南部	2.0
10	那覇市、宮古島	1.6
10	本部半島、北部西海岸、中部東海岸、那覇市	1.6

	2 泊 3 日	(%)
1	本部半島、北部西海岸、那覇市	5.1
2	本部半島、北部西海岸、那覇市、南部	4.9
3	石垣島	4.0
4	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、那覇市、南部	3.9
5	本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	3.3
6	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、那覇市	3.2
7	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	3.1
8	那覇市	2.9
9	やんばる、本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	2.5
10	本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市	2.4

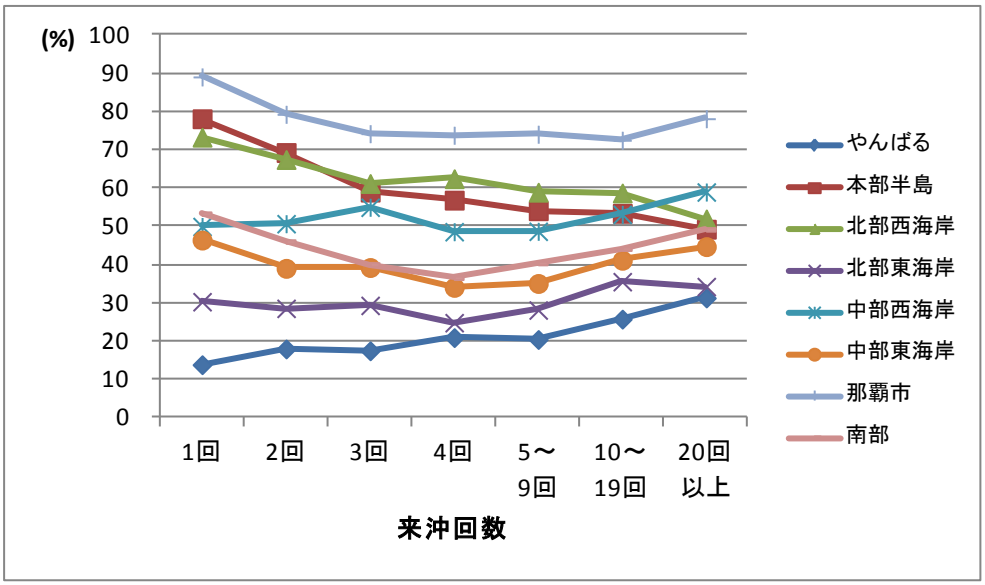
	3 泊 4 日	(%)
1	石垣島	6.8
2	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、那覇市、南部	4.6
3	本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	4.5
4	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、那覇市	4.4
5	本部半島、北部西海岸、那覇市、南部	3.9
6	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	3.6
7	本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	3.6
8	宮古島	2.7
9	本部半島、北部西海岸、那覇市	2.6
10	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市	1.8
10	本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、那覇市、南部	1.8

	4 泊 5 日以上	(%)
1	石垣島	7.2
2	やんばる、本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	5.9
3	本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	5.3
4	やんばる、本部半島、北部西海岸、北部東海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部、久米島、沖縄本島周辺離島、宮古島、石垣島	3.5
5	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、中部東海岸、那覇市、南部	2.7
6	那覇市、石垣島	2.4
7	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、那覇市	1.8
8	宮古島	1.7
9	本部半島、北部西海岸、中部西海岸、那覇市、南部	1.7
10	本部半島、北部西海岸、那覇市	1.7

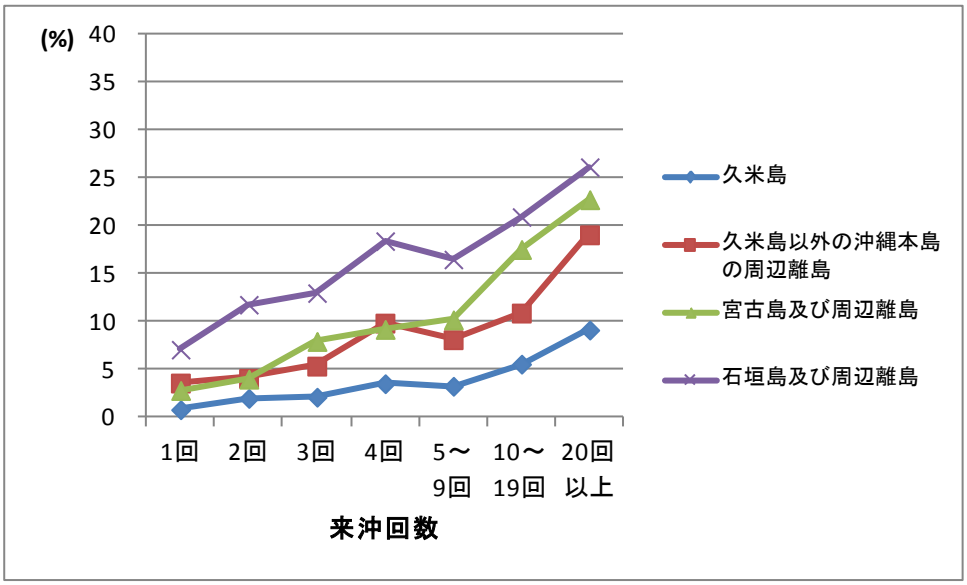
（６） リピーターの訪問エリア

沖縄県の訪問回数と訪問エリアの関係を図表 VI－２－１１３、図表 VI－２－１１４に示す。本部半島エリアと北部西海岸エリアは、来沖回数の少ない観光客の訪問が多い。北部東海岸エリアや、やんばるエリア、離島はリピーターが多いといえる。図表 VI－２－１１５は、各エリアの訪問者の来沖回数の平均を高いもの順に並べたものである。訪問者数が少ないエリアのリピート率は高い傾向があるが、訪問者数の多さを加味すると、中部西海岸、那覇市のリピート率が他のエリアと比較して高い値をとっている。

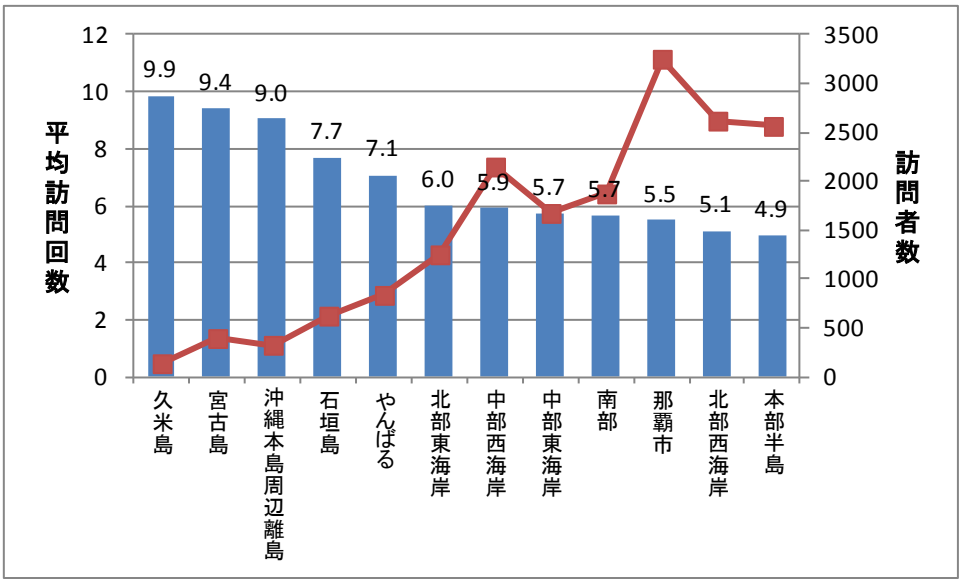
図表 VI－２－１１３　来沖回数と訪問エリア（沖縄本島）



図表 Ⅵ－２－１１４　沖縄県訪問回数と訪問エリア（離島）



図表 Ⅵ－２－１１５　訪問者の平均訪問回数



※平均訪問回数は棒グラフ、訪問者数は折れ線グラフで表している

３． イベント調査

本調査ではモバイル空間統計を用い、イベントの人数を調査した。モバイル空間統計では単純なイベントの来場者数だけでなく、性別・年齢層、居住エリア毎に区分して求めることができるほか、時間による増減も把握することができる。また、複数個所に分かれた会場を同じ手法で調査できるため、会場同士を比較して分析することも可能となる。

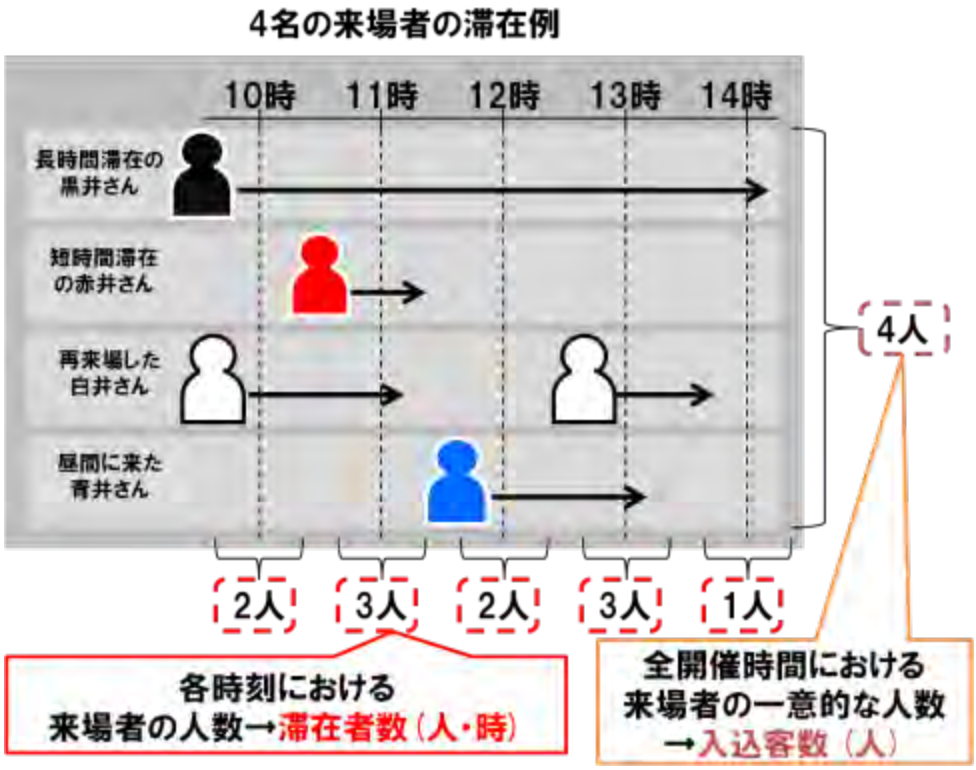
そこで本調査では、沖縄県内で開催された下記のイベントに関わる人数を調査した。

- 世界エイサー大会
- プロ野球キャンプ

調査にあたり、モバイル空間統計を用い、「滞在者数」と「入込客数」という 2 種類の人数を調査した。これらの人数の定義は下記のとおりである。

- 滞在者数 : イベント開催時間帯の各時刻における来場者の人数を表す。例えば図表 VI－３－１の場合において、10 時の段階では黒井・白井が会場にいるため 2 人となる。
- 入込客数 : 前開催時間における来場者を重複せずに集計した人数を表す。例えば図表 VI－３－１の場合において、来場した 4 人はそれぞれイベント会場での来場時刻・滞在時間等が異なるものの、入込客数は 4 人となる。

図表 VI－３－１　人数に関する言葉の定義



本調査で用いるモバイル空間統計はその性質上、特定の地理的範囲内だけの人数だけを推計することはできず、イベントに来場した人数を直接求めることはできない。そこでイベントが開催された日の人数から、イベントがなかった平常日の人数の差分をとり、この人数をイベントに来場した人数とする。

この手法によって求めた人数には、下記の来場者の人数が推計できない。

1. 15 歳未満および 80 歳以上の来場者
2. イベント会場の近隣に住んでいる来場者

そこで世界エイサー大会の調査のみ、アンケートを用いて上記の人数を補完し、イベントの全来場者の人数を推計できるようにした。

３－１． 世界エイサー大会

（１） イベント概要

エイサーは沖縄の伝統的な踊りであり、年間を通じて多くのエイサーのイベントが開催される。世界エイサー大会は県内外から多くのエイサー団が参加する大規模な大会である。

（２） 調査概要

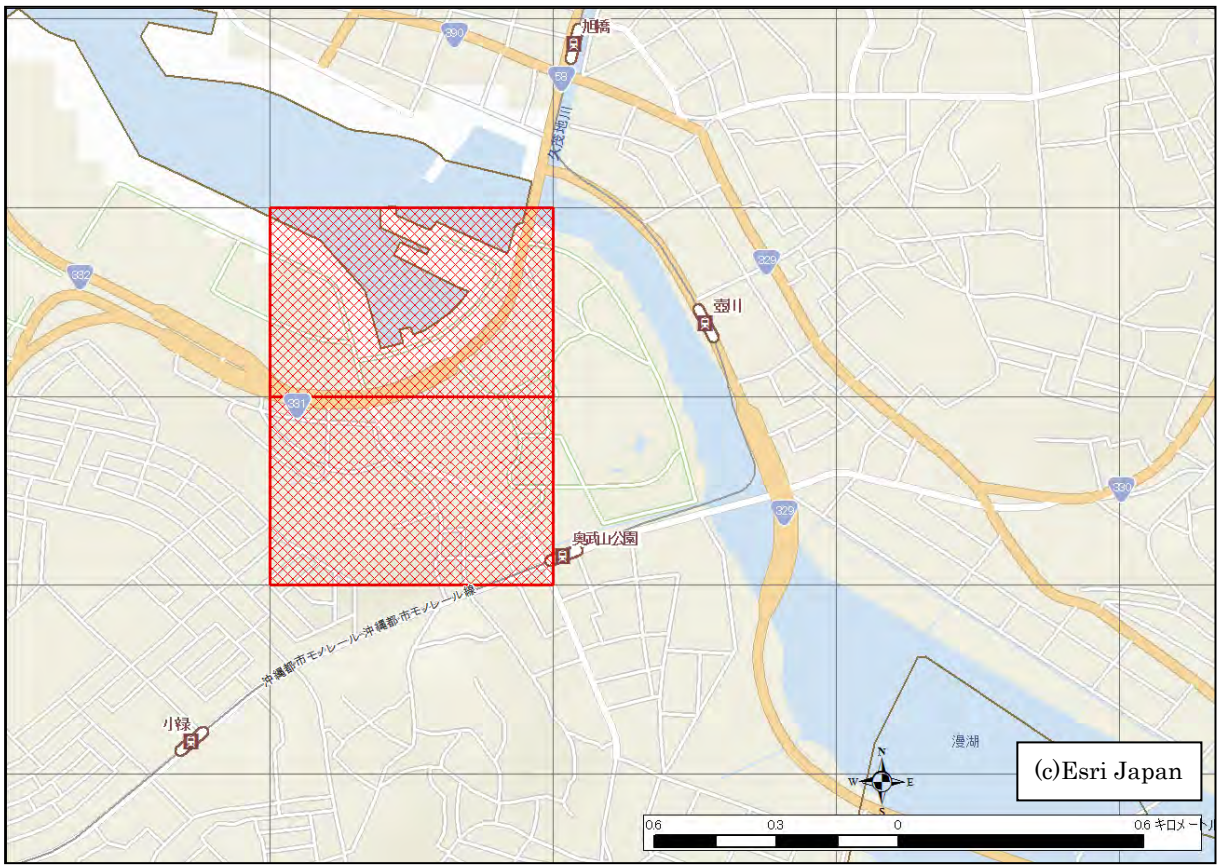
① 調査期間

世界エイサー大会が開催された平成 24 年 10 月 6 日（土）、10 月 7 日（日）を調査期間とし、イベントがなかった 9 月の土曜日・日曜日を平常日とした。

② 調査エリア

世界エイサー大会は、奥武山総合運動公園の西側にある沖縄セルラースタジアム・県立武道館・周辺エリアで実施されたため、公園西側の入込客数・滞在者数を主な調査対象とした。調査エリアは図表 VI－３－２の赤枠内となる。

図表 VI－３－２　世界エイサー大会の調査エリア



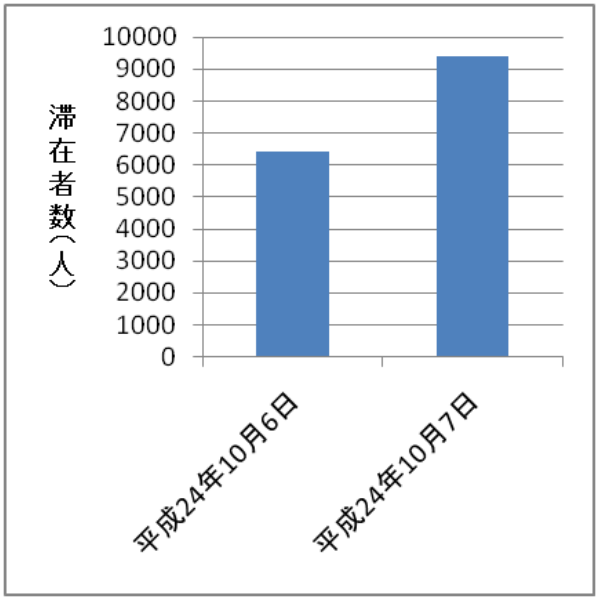
（３） 調査結果

図表 VI－３－３は１日目、２日目のそれぞれの日程の入込客数を表しており、１日目は 5,400 人、２日目は 9,400 人となった。また、沖縄県外からの入込客数は、１日目は 600 人、２日目も 600 人となった。

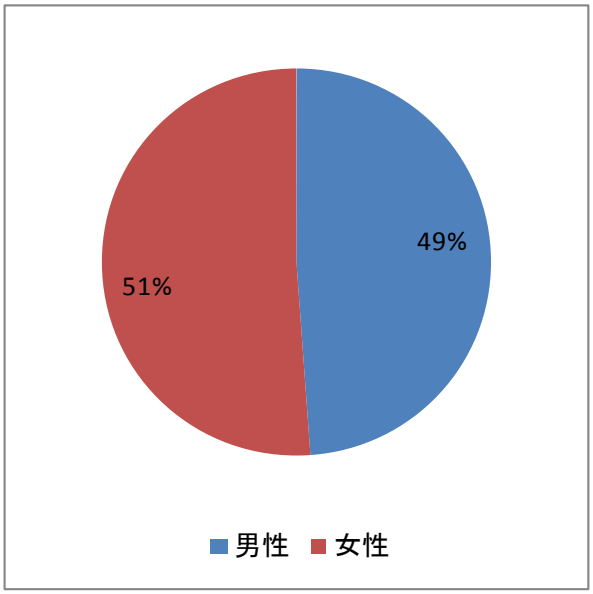
図表 VI－３－４は２日間の入込客数における男女別比率を表しており、男女の比率はほぼ半々になった。図表 VI－３－５は２日間の入込客数における年齢層別比率を表しており、20 代・30 代の比率で全体の 46%を占め、若い年齢層の来場者が多かったことが分かる。

図表 VI－３－６は２日間の入込客数における沖縄県内の居住エリア別入込客数を表している。イベント会場のある那覇市が最も入込客数の多い居住エリアとなった。また、那覇市の南北にある自治体からの入込客数も多いが、那覇市の東にある自治体からの入込客数は比較的少ない。

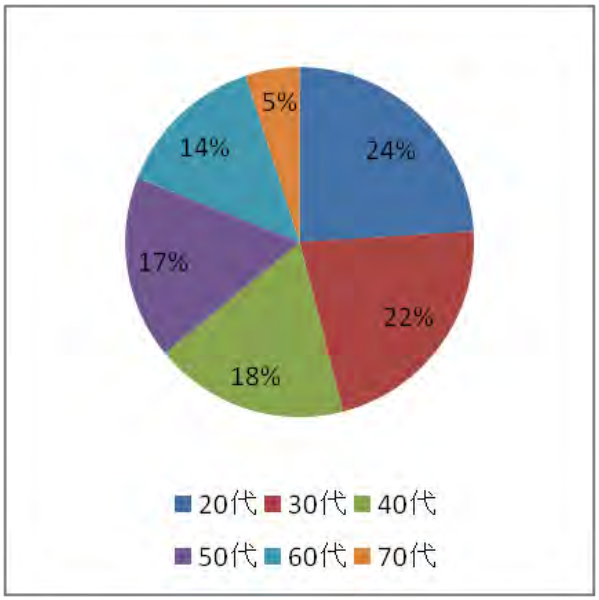
図表 VI－３－３　世界エイサー大会の日別入込客数



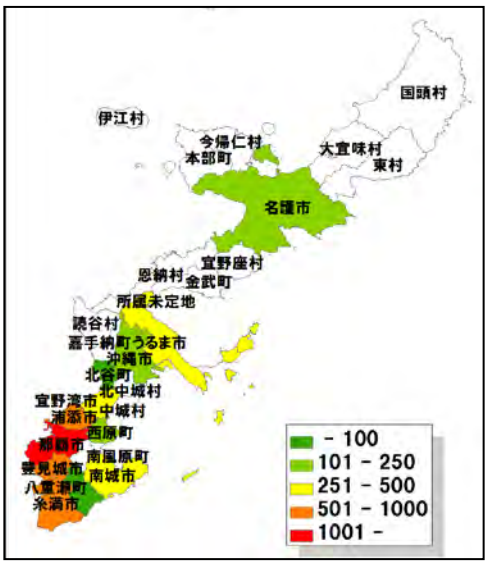
図表 VI－３－４　世界エイサー大会の性別比率



図表 VI－３－５　世界エイサー大会の年齢層別比率



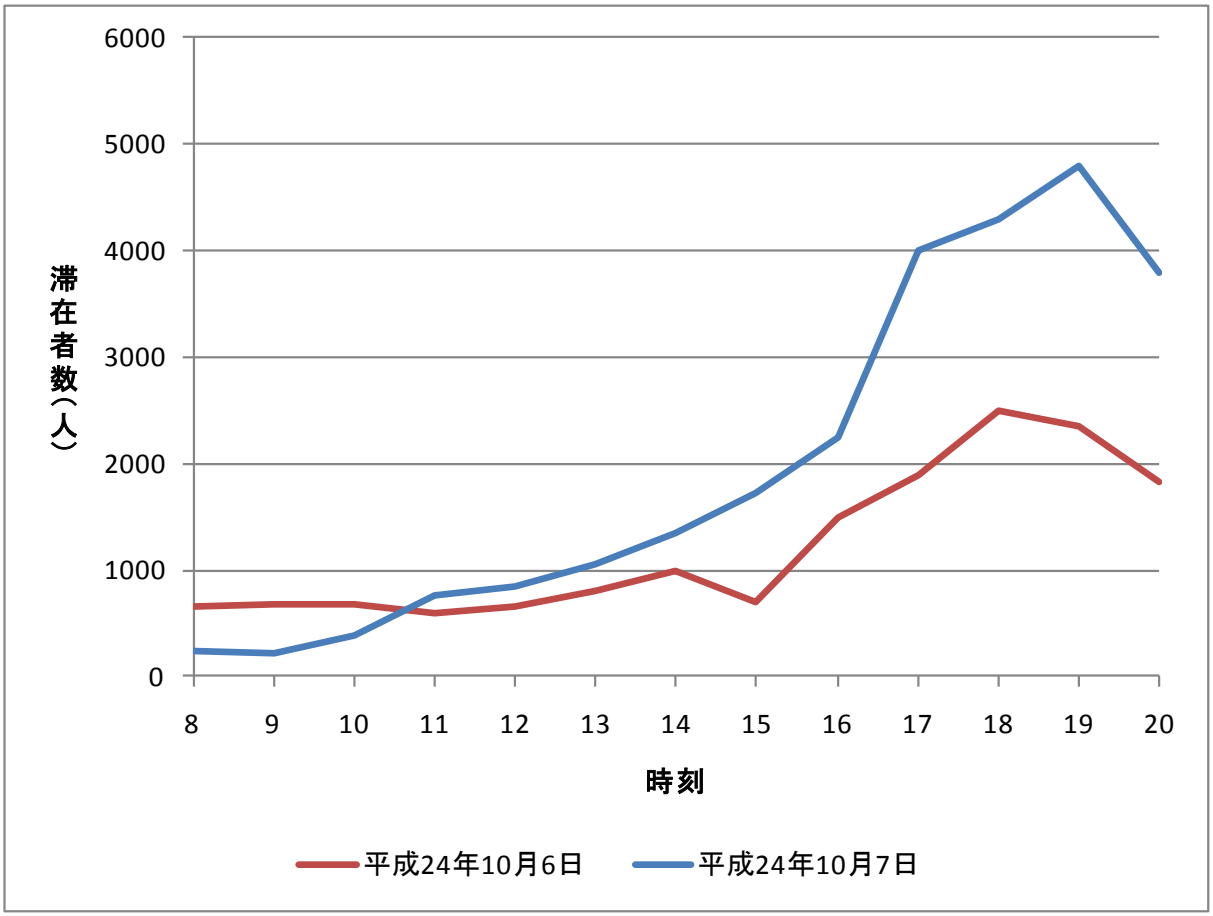
図表 VI－３－６　世界エイサー大会の居住エリア別入込客数



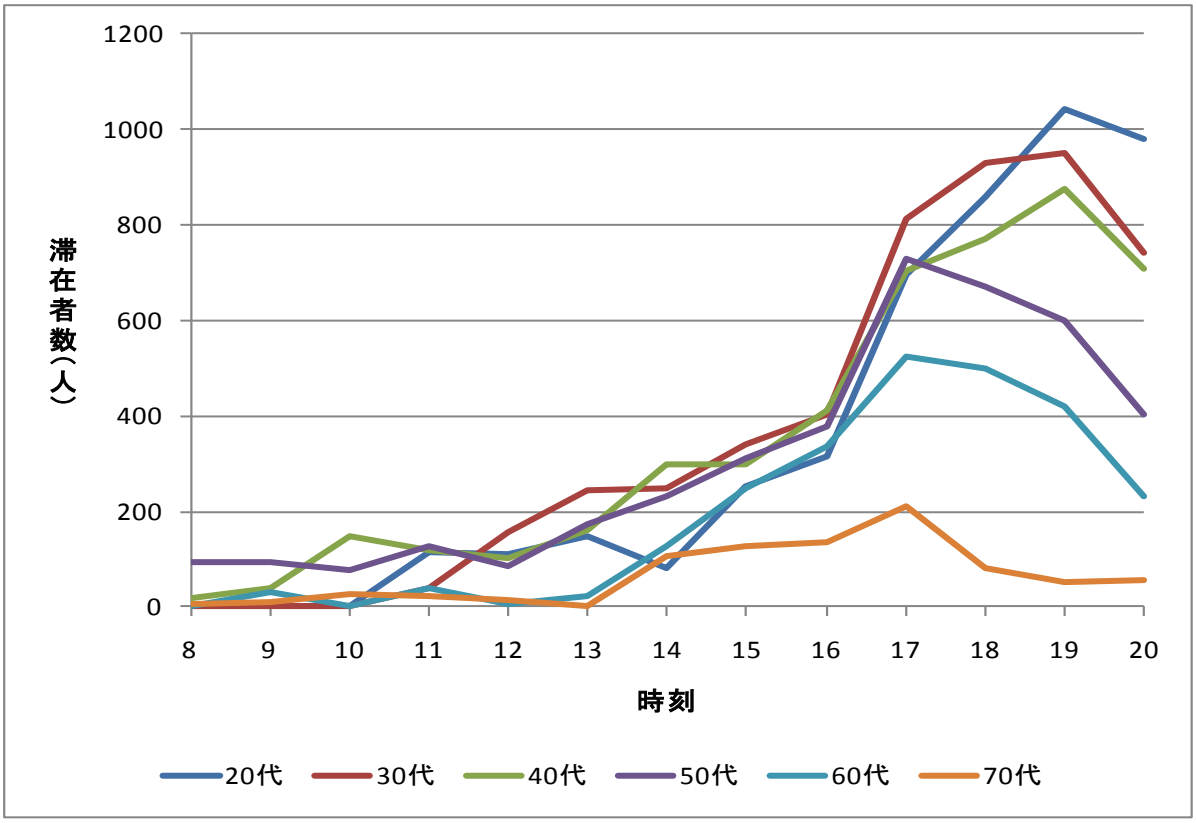
図表 VI－３－７はイベント開催時間帯の滞在者数の推移を示している。1 日目は 18 時台、2 日目は 19 時台に滞在者数はピークとなり、それらの時間帯に最も多くの来場者が会場にいたことが推測される。

図表 VI－３－８は 10 月 7 日の滞在者数を年齢層別に示した結果であり、60 代・70 代といった高齢層は開始時刻からほぼ水平に推移するのに対し、20 代・30 代の若い世代は大きく増加して推移することが読み取れる。

図表 Ⅵ－３－７　世界エイサー大会開催時間帯の滞在者数推移



図表 Ⅵ－３－８　10 月 7 日の世界エイサー大会開催時間帯の年齢層別滞在者数推移



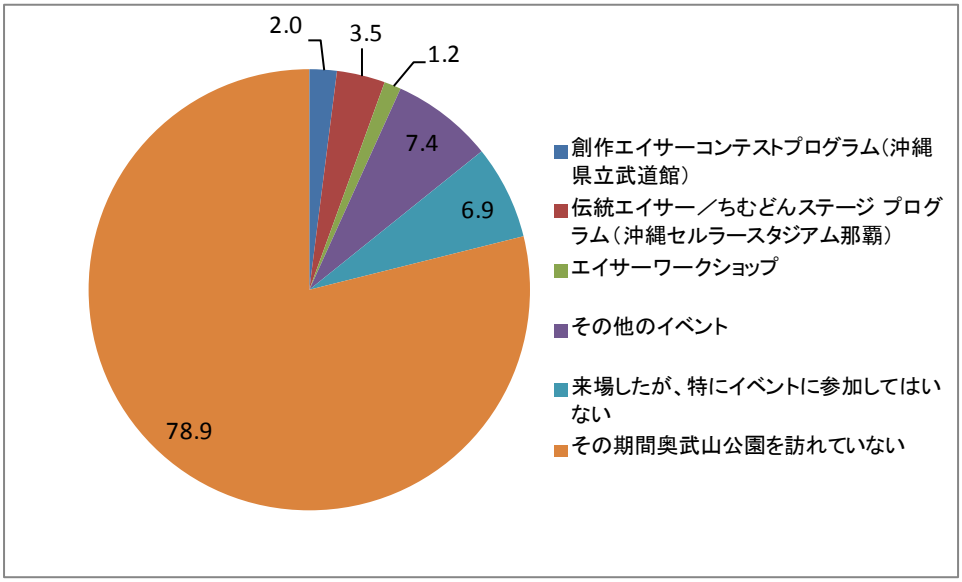
（４）　アンケート結果

前述の通りモバイル空間統計において、世界エイサー大会の参加者数を測定したが、那覇市民に対して、平成 24 年世界エイサー大会の参加率などを把握するため，アンケートを行った。

① 参加率

世界エイサー大会（併設されていたその他のイベントを除く）の那覇市民参加率は、6.7%。最も参加率が高かったイベントは、セルラースタジアムで行われた、「伝統エイサー／ちむどんステージプログラム」であった。

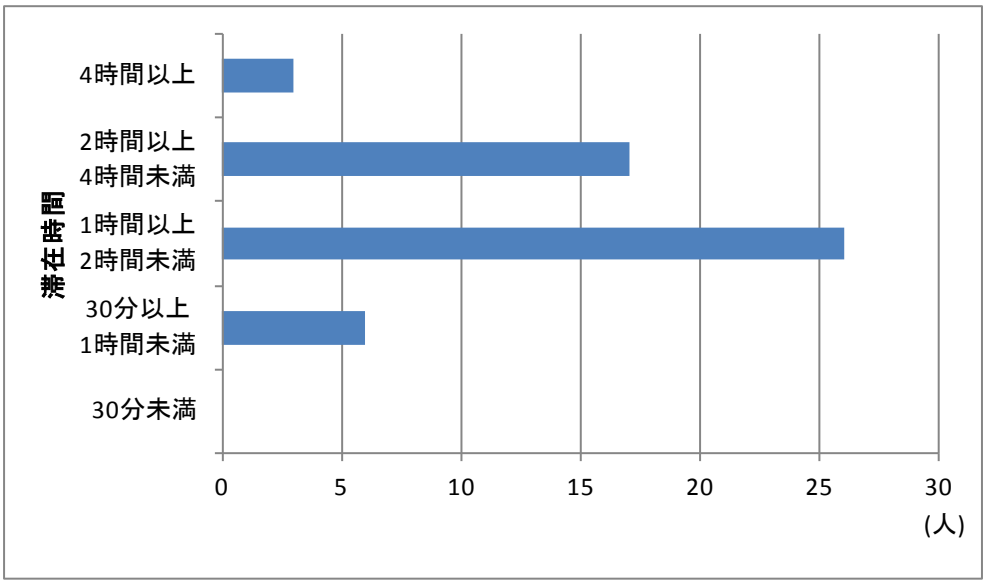
図表 Ⅵ－３－９　世界エイサー大会の参加率



② 滞在時間

滞在時間は、1～2 時間が最も多く、平均滞在時間は 2 時間 3 分である。

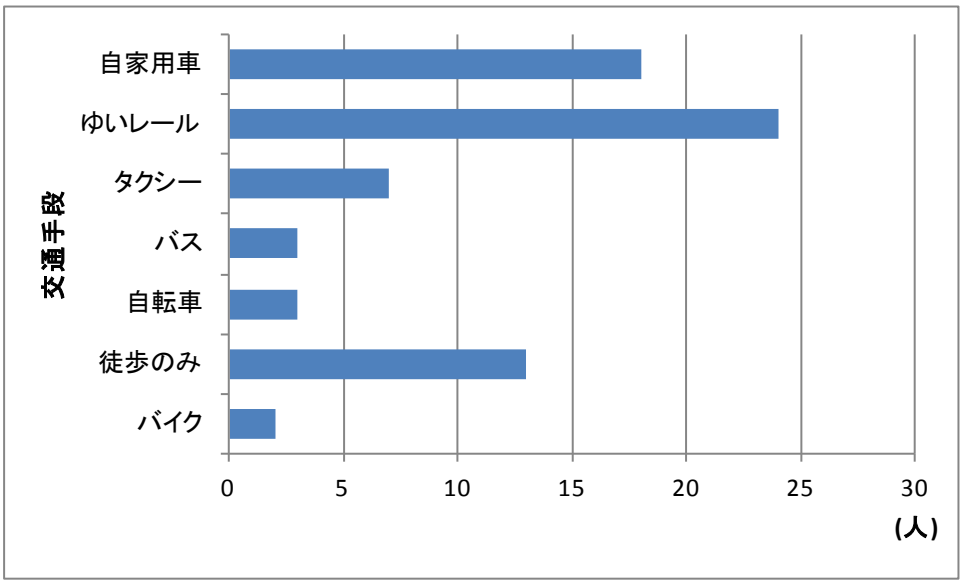
図表 Ⅵ－３－１０　世界エイサー大会での滞在時間



③ 交通手段

交通手段はゆいレールが最も多く、次が自家用車となった。会場周辺に十分な駐車場がないため、自家用車での乗り入れに関する不満の声もあった。

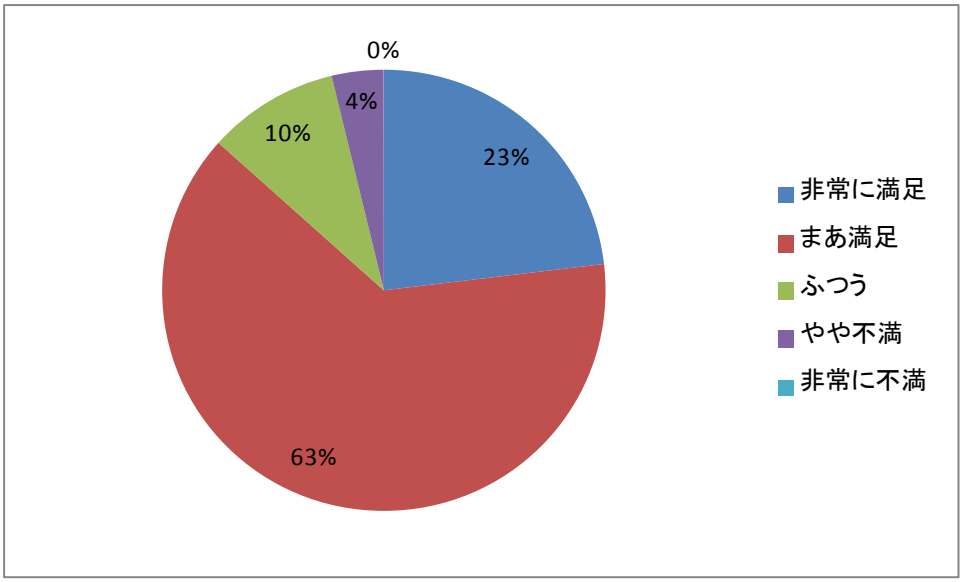
図表 Ⅵ－３－１１　世界エイサー大会での会場への交通手段



④ 満足度

世界エイサー大会に対して、「非常に満足」、「まあ満足」が 89%を占め、参加者の満足度は非常に高い。

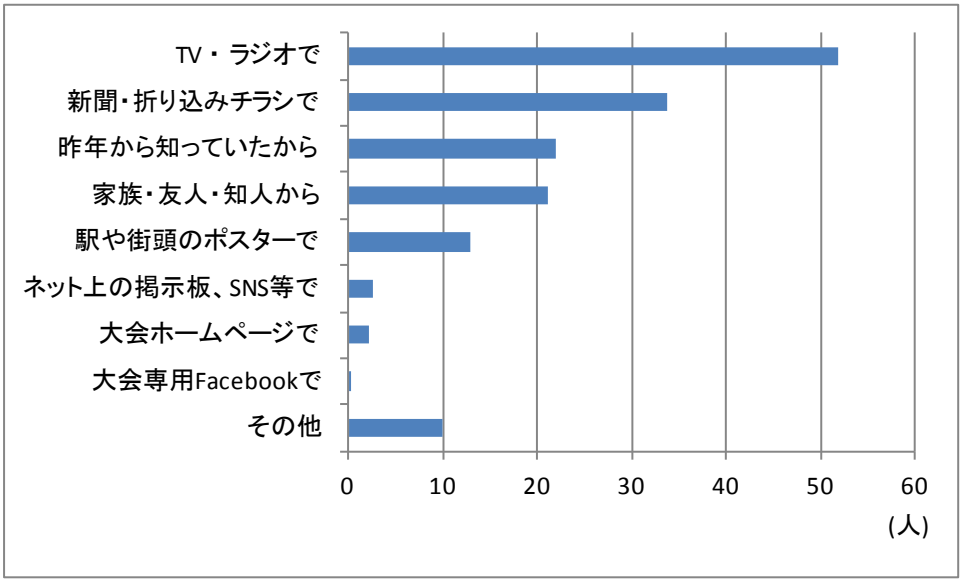
図表 Ⅵ－３－１２　世界エイサー大会の満足度



⑤ 認知度と知った手段

世界エイサー大会の開催を知っていた人の割合は、64%であった。どのように知ったかについては、TV・ラジオ、新聞等のマスメディアが多くを占めた。インターネットで初めて知る人は少なく、内容を詳しく知りたい人が利用しているようである。

図表 Ⅵ－３－１３　世界エイサー大会をどのように知ったか



３－２．　プロ野球キャンプ

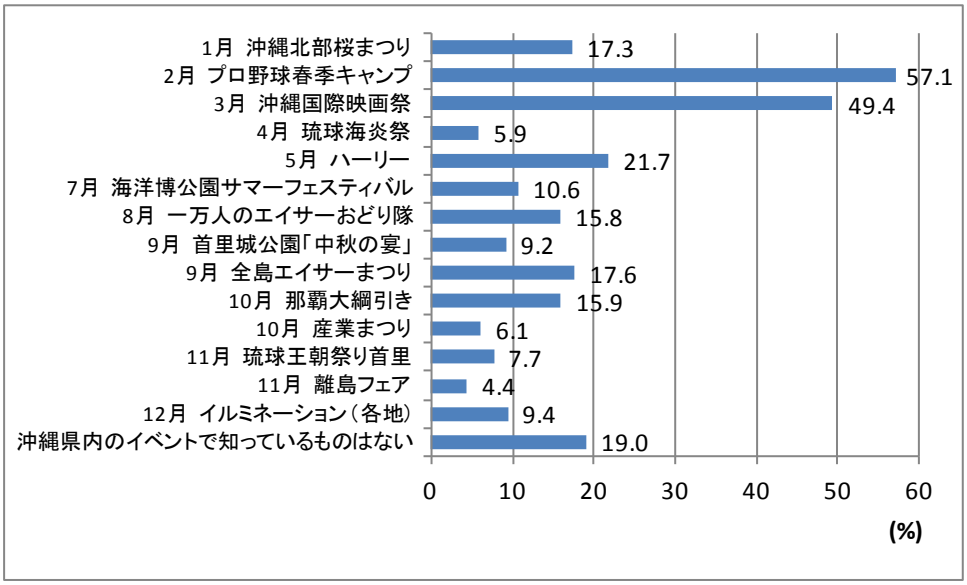
（１）　イベント概要

下図は、県内の主要イベントに対する県外居住者の認知度を示したアンケート結果である。年間各種ある県内イベントの中で、プロ野球春季キャンプは最も認知度が高く、5 割を超えている。実際に来沖者が参加したイベントを図表 VI－３－１５に示しているが、最も参加率が高いイベントもやはりプロ野球キャンプである。

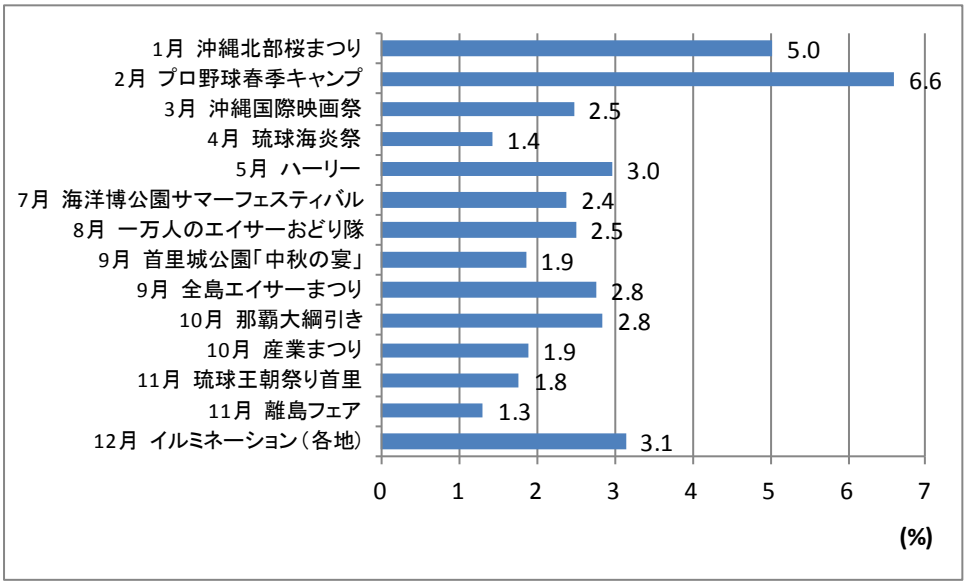
プロ野球の各球団は公式戦の開催されていない期間に本拠地を離れ、全体練習や自主トレーニング等を実施している。沖縄では 2 月に入ると、日韓の 15 球団が訪れ、キャンプを開始する。

そこで本調査では、プロ野球キャンプを訪れる来場者の人数を調査した。

図表 VI－３－１４　沖縄県イベントの認知度



図表 VI－３－１５　沖縄県イベントの参加率



（２） 調査概要

① 調査球団

平成 25 年に沖縄でプロ野球キャンプを実施する日本の球団は 9 球団であるが、そのうち 2 月上旬に沖縄本島で行われた、東京ヤクルトスワローズ・横浜 DeNA ベイスターズ・中日ドラゴンズ、阪神タイガース、北海道日本ハムファイターズの 5 球団を調査対象とした。

② 調査期間

プロ野球キャンプは 2 月の 1 ヶ月間にわたって実施されているが、その中でも観光客が多くなると推測された 3 連休である、2 月 9 日（土）・10 日（日）・11 日（月・祝）の 3 日間を調査期間とした。

また平常日として、プロ野球キャンプの実施前であり、かつ正月・冬休みの期間ではない 1 月の土曜日・日曜日を対象とした。

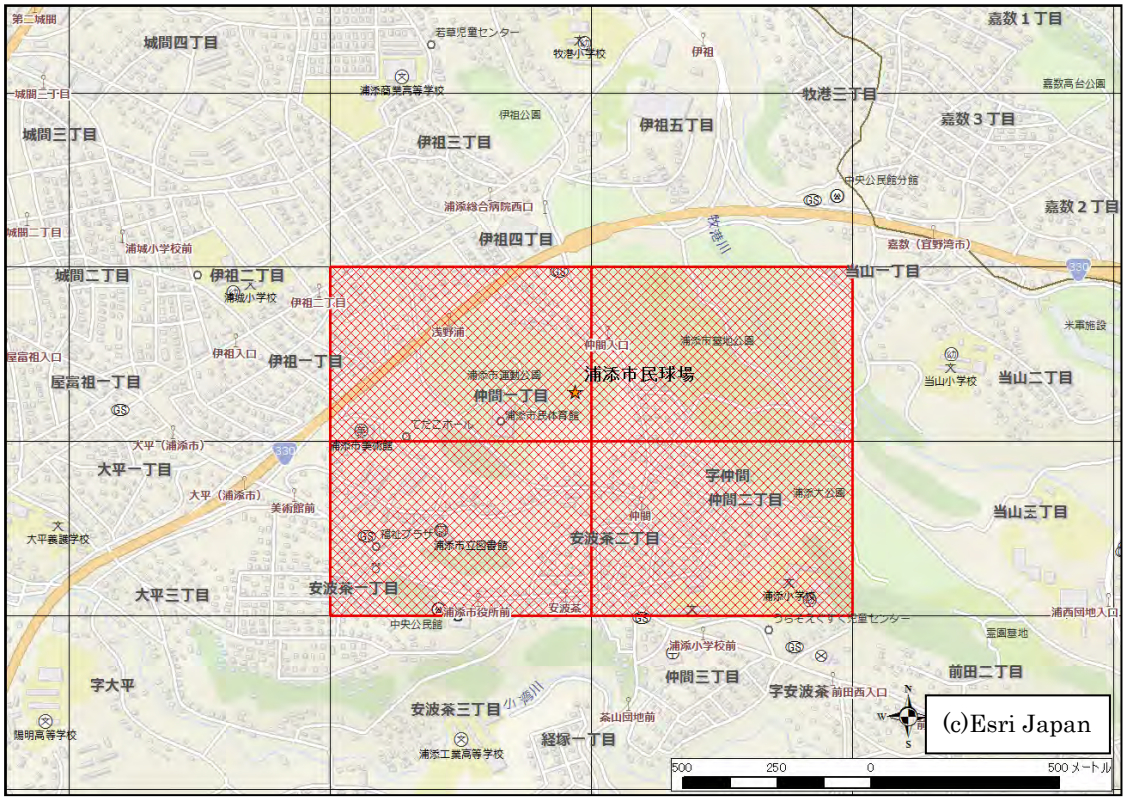
③ 調査エリア

各球団がキャンプ地とする野球場の周辺を調査エリアとした。

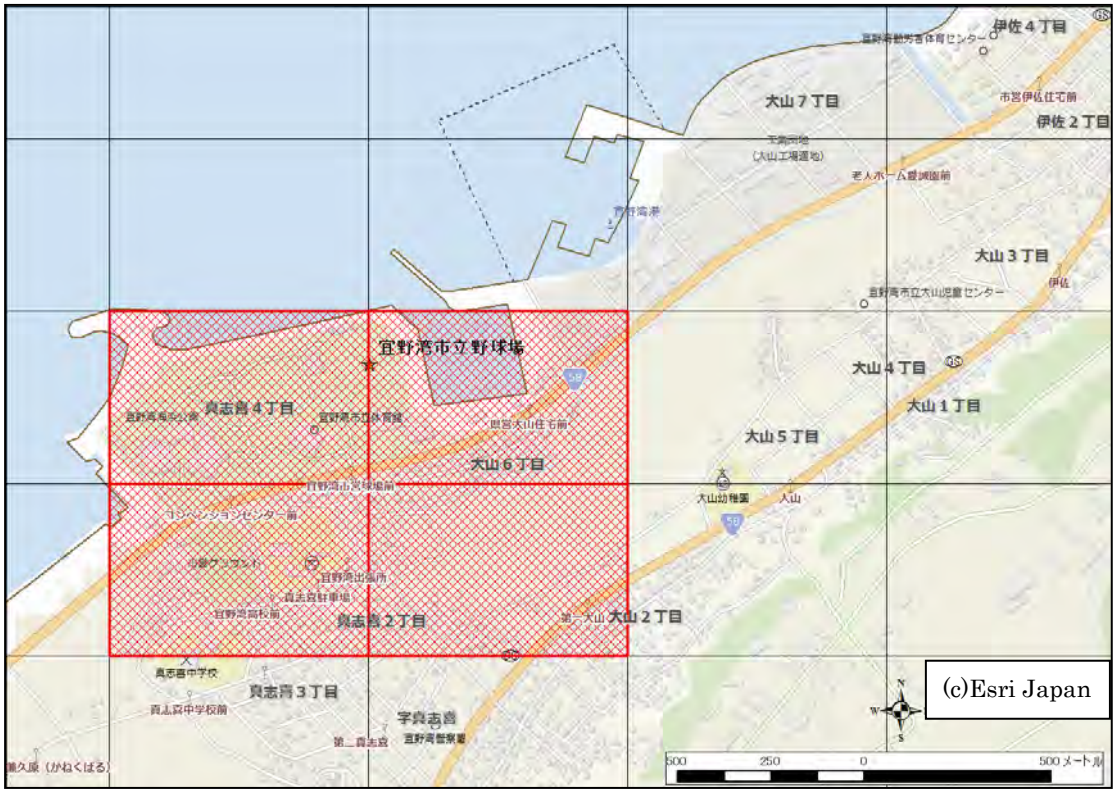
図表 Ⅵ－３－１６　プロ野球キャンプの調査対象チームおよびその球場

調査対象チーム名	球場名
東京ヤクルトスワローズ	浦添市民球場
横浜 DeNA ベイスターズ	宜野湾市立野球場
中日ドラゴンズ（1 軍）	北谷公園野球場
阪神タイガース（1 軍）	宜野座村野球場
北海道日本ハムファイターズ（1 軍）	名護市営野球場

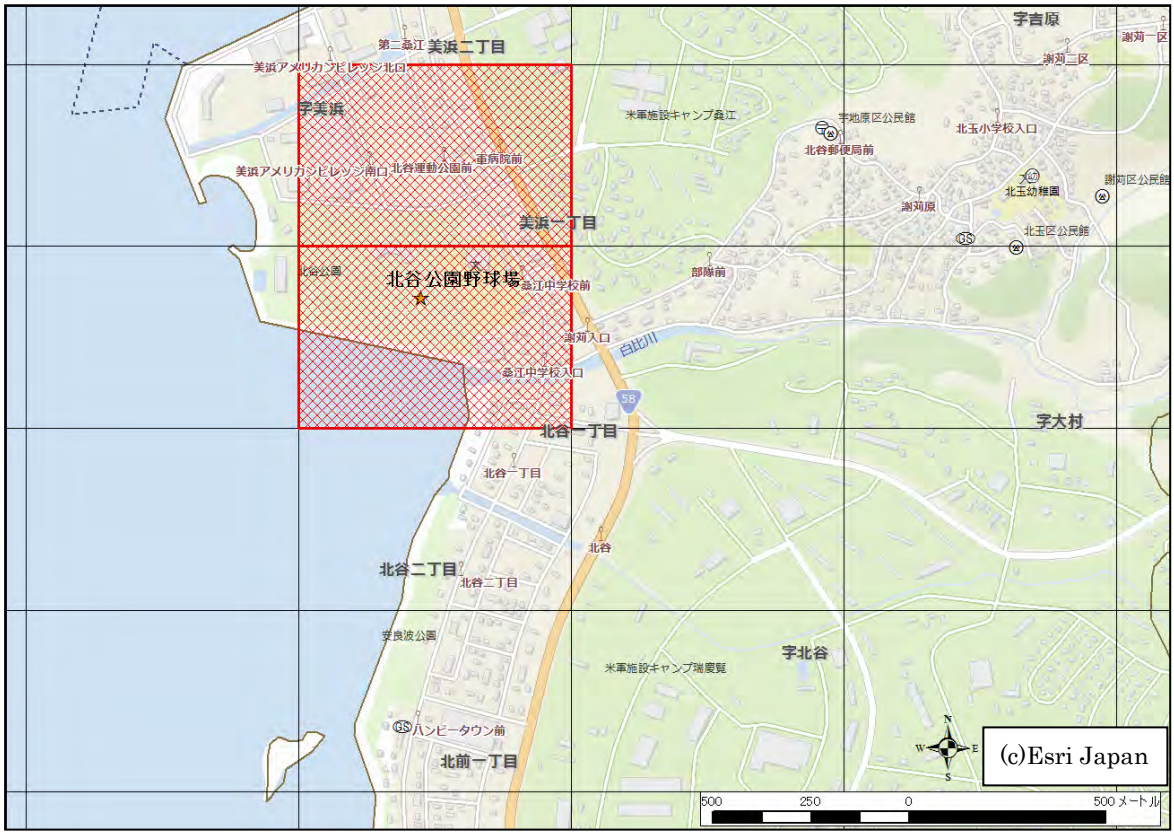
図表 Ⅵ－３－１７　浦添市民球場の調査エリア



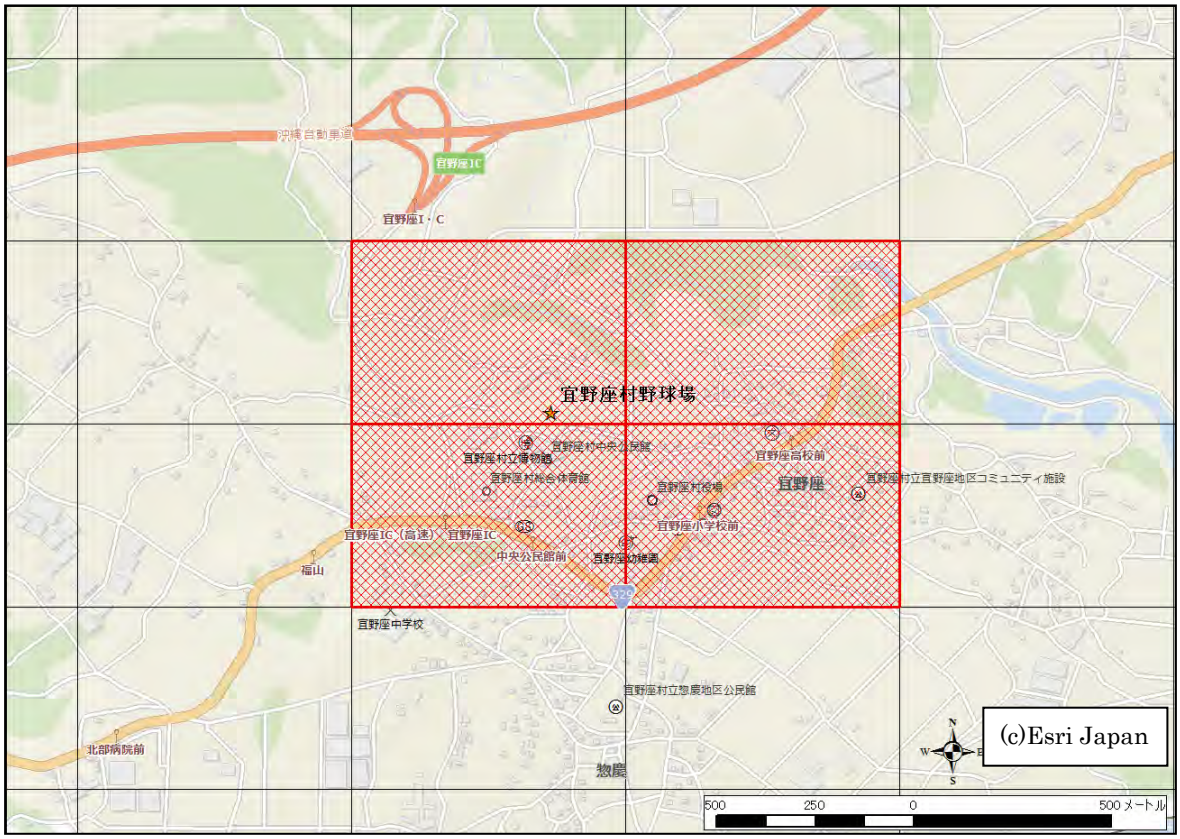
図表 Ⅵ－３－１８　宜野湾市立野球場の調査エリア



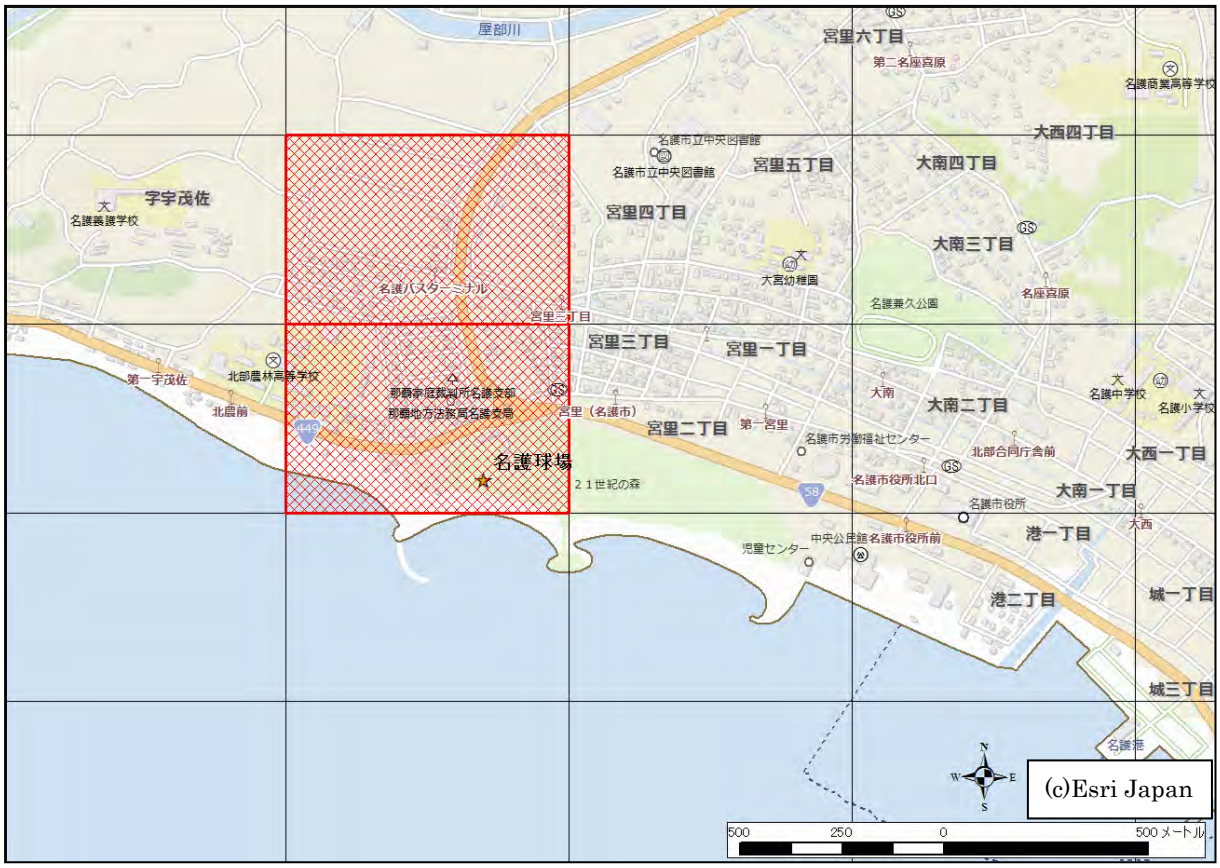
図表 Ⅵ－３－１９　北谷公園野球場の調査エリア



図表 Ⅵ－３－２０　宜野座村野球場の調査エリア



図表 VI－３－２１　名護市営球場の調査エリア



（３）　調査結果

３日間の入込客数の合計を比較すると、最も多かったのは計 8,200 人の阪神タイガースだった。

２月 11 日（月）の横浜 DeNA ベイスターズは、モバイル空間統計のプライバシー保護処理により推計値を取得できなかった。以降では、入込客数上位 3 球団の中日ドラゴンズ，阪神タイガース，北海道日本ハムファイターズの 3 球団の詳細調査結果を示す。

図表 VI－３－２２　プロ野球キャンプの入込客数

調査対象チーム名	２月９日（土）	２月 10 日（日）	２月 11 日（月）	計
東京ヤクルトスワローズ	400 人	500 人	600 人	1,500 人
横浜 DeNA ベイスターズ	2,000 人	1,000 人	－	3,000 人
中日ドラゴンズ	1,100 人	1,900 人	2,100 人	5,100 人
阪神タイガース	3,100 人	2,200 人	2,900 人	8,200 人
北海道日本ハムファイターズ	1,400 人	4,800 人	700 人	6,900 人

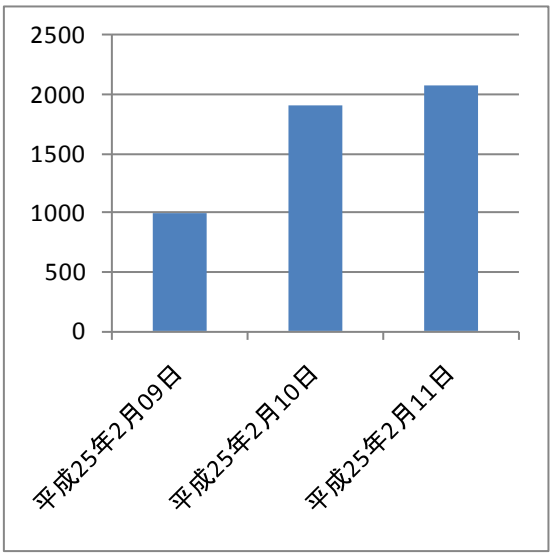
① 北谷公園野球場　（中日ドラゴンズ）

図表 VI－３－２３からは、２月９日（土）に比べ、２月 10 日（日）・２月 11 日（月）の入込

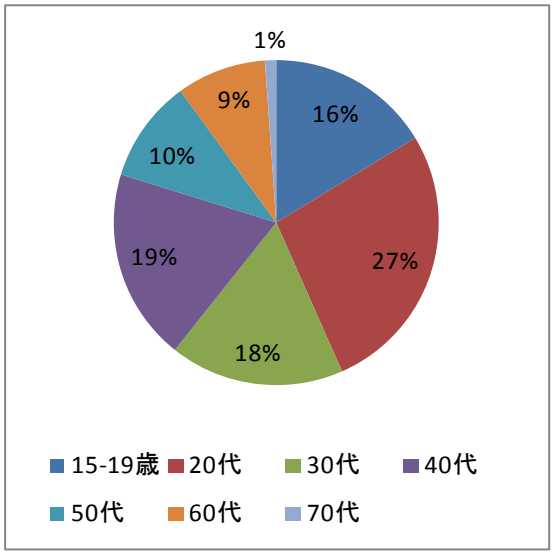
客数がやや多くなったことが読み取れる。なお，2 月 11 日（月）は 13 時より韓国サムスンライオンズとの練習試合があったが，試合開始直後に雨天中止となった。

図表 VI－３－２４より、入込客数は男性の方がやや多いことが分かる。また図表 VI－３－２５からは、15 歳～19 歳・20 代・30 代が全体のおよそ 3 分の 2 を占めており、若い世代の入込客数が多いことがうかがえる。図表 VI－３－２６の居住エリア別の入込客数において、1 位は愛知県となっている。これは、中日ドラゴンズの本拠地がナゴヤドームであり，愛知県からの訪問者が多くなったためと推測される。

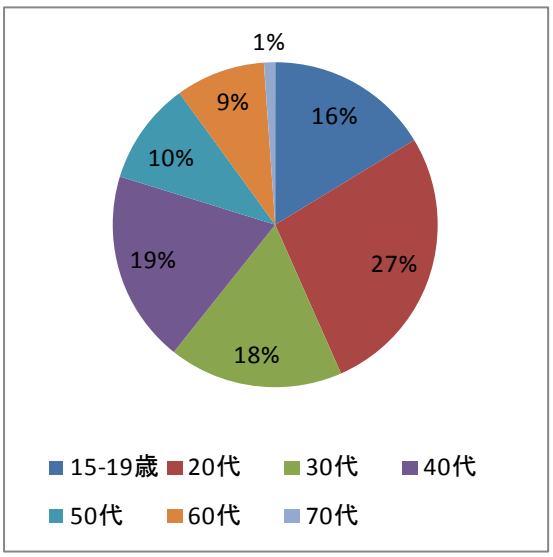
図表 VI－３－２３　北谷公園野球場の日別入込客数



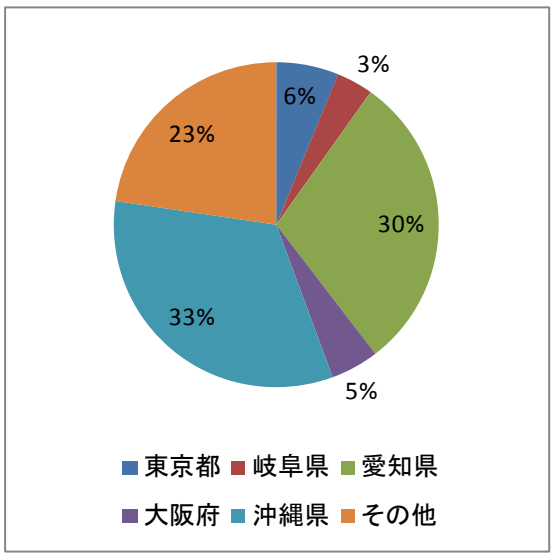
図表 VI－３－２４　北谷公園野球場の男女別比率



図表 VI－３－２５　北谷公園野球場の年齢層別比率



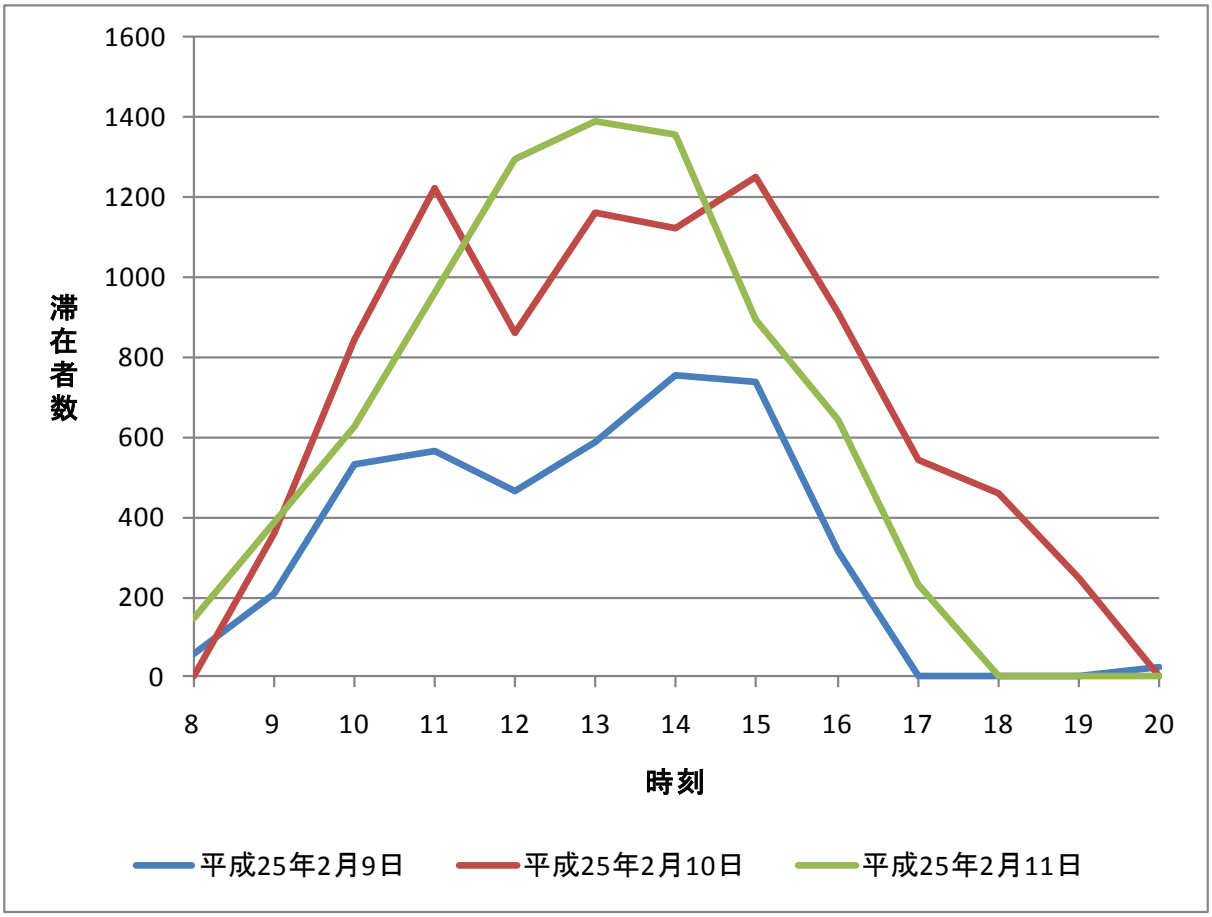
図表 VI－３－２６　北谷公園野球場の都道府県別比率



図表 VI－３－２７に着目すると、2 月 9 日（土）の滞在者数のピークは 14 時～15 時頃であり、やや遅い時間帯となった。2 月 10 日（日）は昼間の時間帯に増減を繰り返ししている。2 月 11 日（月）の滞在者数のピークは 13 時となった。

なお、北谷公園野球場の近隣には大規模商業施設であるアメリカンビレッジがあり、これが滞在者数の推計に影響を与えた可能性がある。

図表 VI－３－２７　北谷公園野球場の調査エリアの滞在者数推移



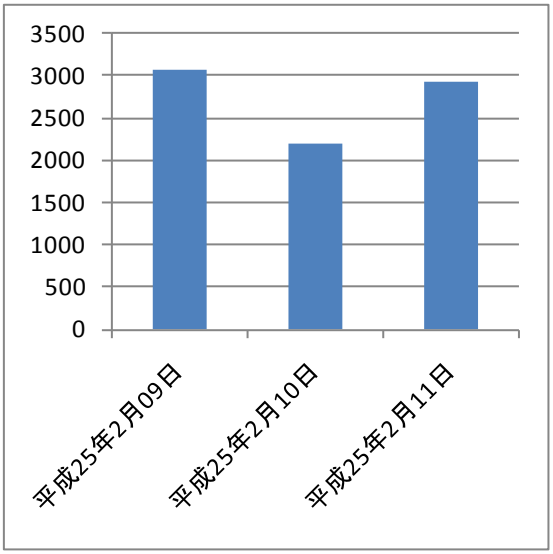
② 宜野座村野球場　（阪神タイガース）

図表 VI－３－２８の日別入込客数において、2 月 10 日（日）に入込客数が 3 日間のなかでやや少ないが、2 月 10 日（日）に名護球場において北海道日本ハムファイターズ対阪神タイガースの練習試合があったことが要因として考えられる。2 月 11 日（月）には韓国 LG ツインズとの練習試合があったものの、練習試合のなかった 2 月 9 日（土）との入込客数の差はほとんどなかった。

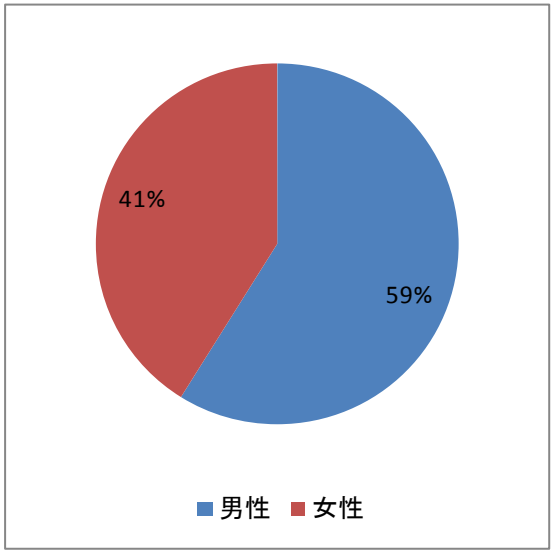
図表 VI－３－２９によると、女性よりも男性の入込客数の方が多い。図表 VI－３－３０からは、40 代・30 代の年齢層で入込客数が多いことが分かる。

図表 VI－３－３１の居住エリア別の入込客数では、1 位の沖縄県に続き、2 位は大阪府、3 位は兵庫県となっている。これは、阪神タイガースの本拠地が阪神甲子園球場であることが要因の一つとして考えられる。

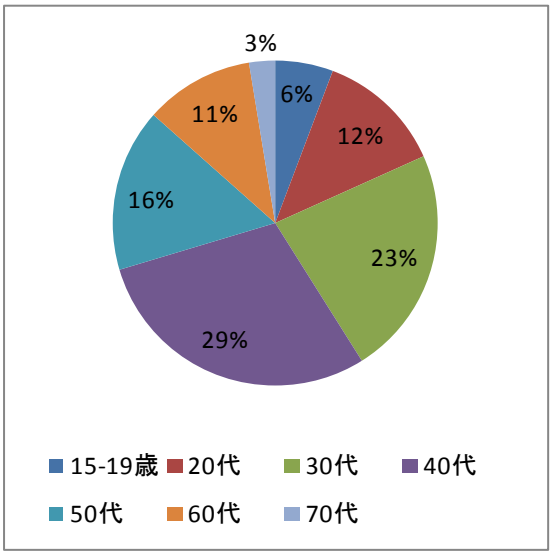
図表 VI－３－２８　宜野座村野球場の日別入込客数



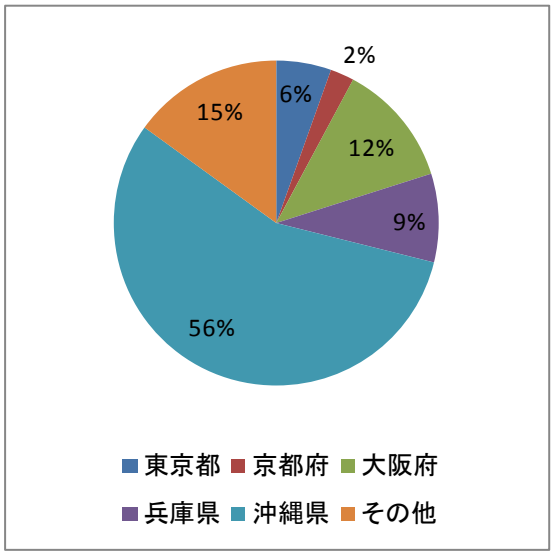
図表 VI－３－２９　宜野座村野球場の男女別比率



図表 VI－３－３０　宜野座村野球場の年齢層別比率

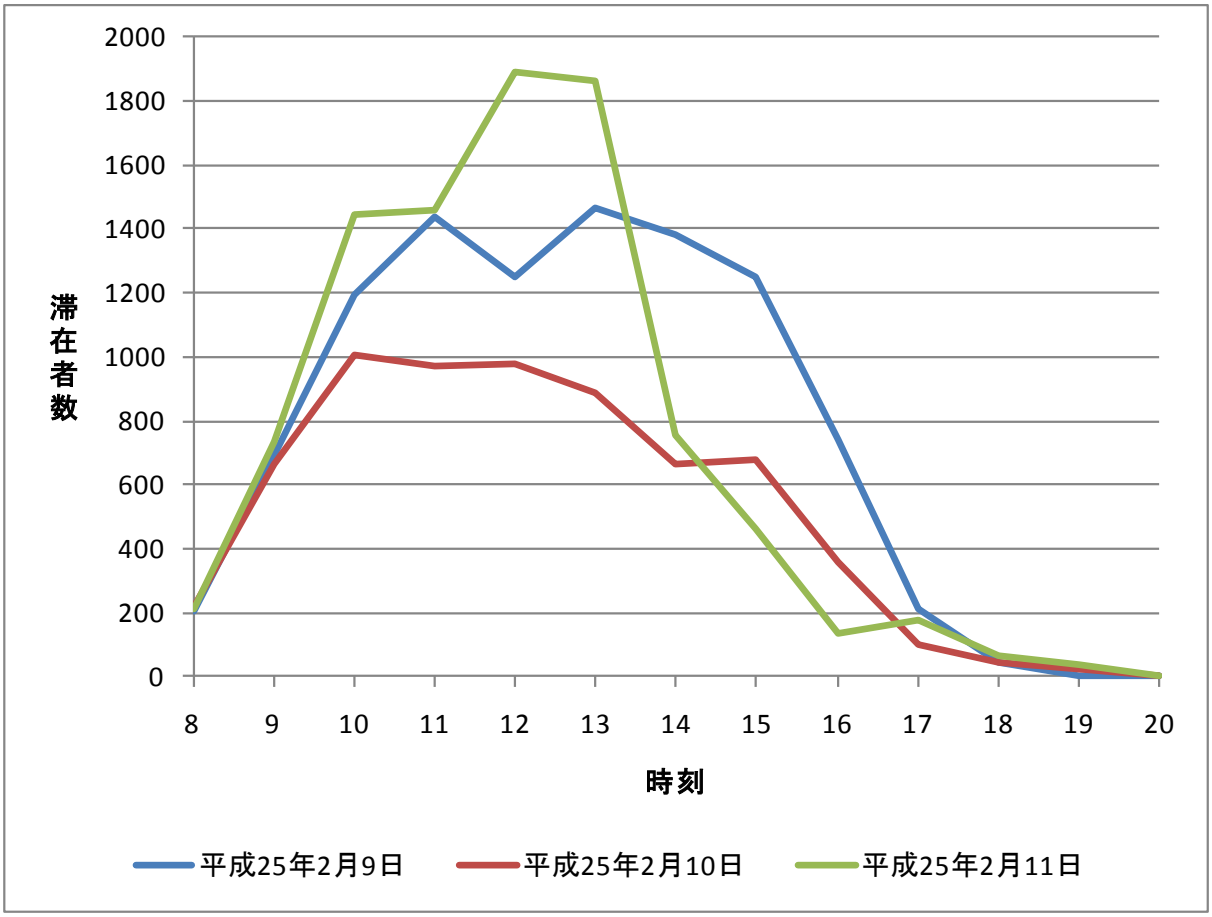


図表 VI－３－３１　宜野座村野球場の都道府県別比率



図表 VI－３－３２から、3 日間の滞在者数のピークは、2 月 11 日（月）の 12～13 時頃で約 1,900 人だった。2 月 11 日（月）は 2 月 9 日（土）と比較して入込客数の差がほとんどないにも関わらず、ピーク時の滞在者数が約 500 人も多かった。これは 2 月 11 日（月）13 時から実施された練習試合が影響した可能性がある。2 月 10 日（日）の滞在者数が他の日に比べてやや少ないのは、名護球場での練習試合の影響であると考えられる。

図表 VI－３－３２　宜野座村野球場の調査エリアの滞在者数推移



③ 名護球場　（北海道日本ハムファイターズ）

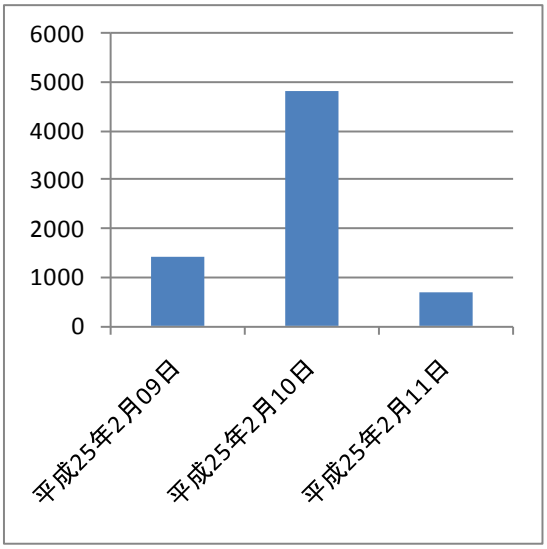
図表 VI－３－３３からは、3 日間のうち 2 月 10 日（日）は入込客数が大きく増加していることが分かる。これは前述したように、名護球場において北海道日本ハムファイターズ対阪神タイガースの練習試合があり、その練習試合を目的として来場した人数が多いためと考えられる。居住エリア別の入込客数の上位に大阪府が入っていることから、阪神タイガースに興味を持つ来場者数も多かったものと推測される。

2 月 11 日（月）には韓国ハンファ・イーグルスとの練習試合があったが、開始当初から霧雨があり、途中でさらに天候が悪化したことによって試合が打ち切られたため、2 月 10 日（日）の入込客数程には増加しなかったと推測される。

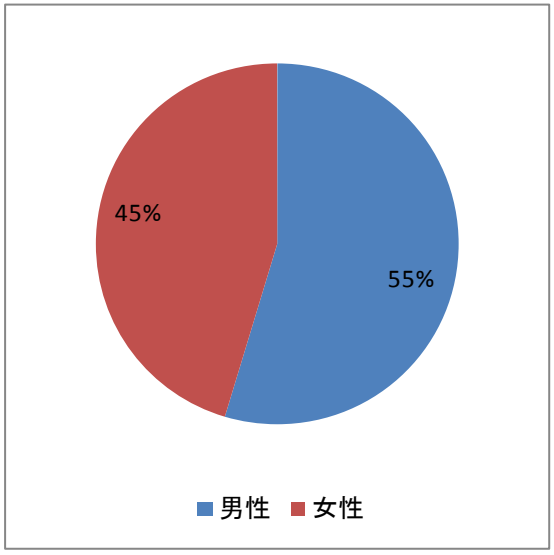
図表 VI－３－３４からは男性の入込客数がやや多いことが分かる。図表 VI－３－３５からは、年齢層別では 40 代の入込客数が全体の 27%となり、最も多くなったことが分かった。

居住エリア別の入込客数では、1 位の沖縄県に続き、2 位は北海道となっている。これは、日本ハムは北海道の札幌ドームを本拠地としており、北海道在住のファンが多いためと考えられる。また東京都・千葉県からの入込客数が多いのは、東京ドームを準本拠地、千葉県にあるファイターズスタジアムを二軍の本拠地としていることが一つの要因として考えられる。

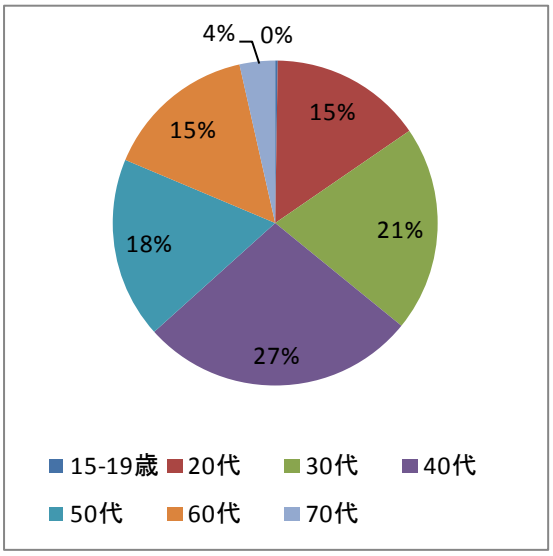
図表 VI－３－３３　名護市営球場の日別入込客数



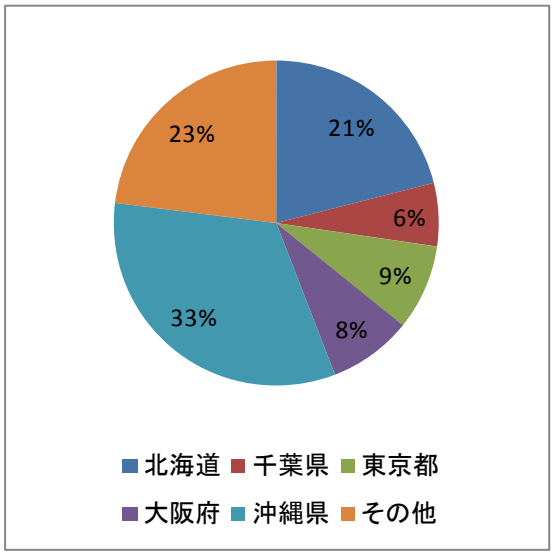
図表 VI－３－３４　名護市営球場の男女別比率



図表 VI－３－３５　名護市営球場の年齢層別比率

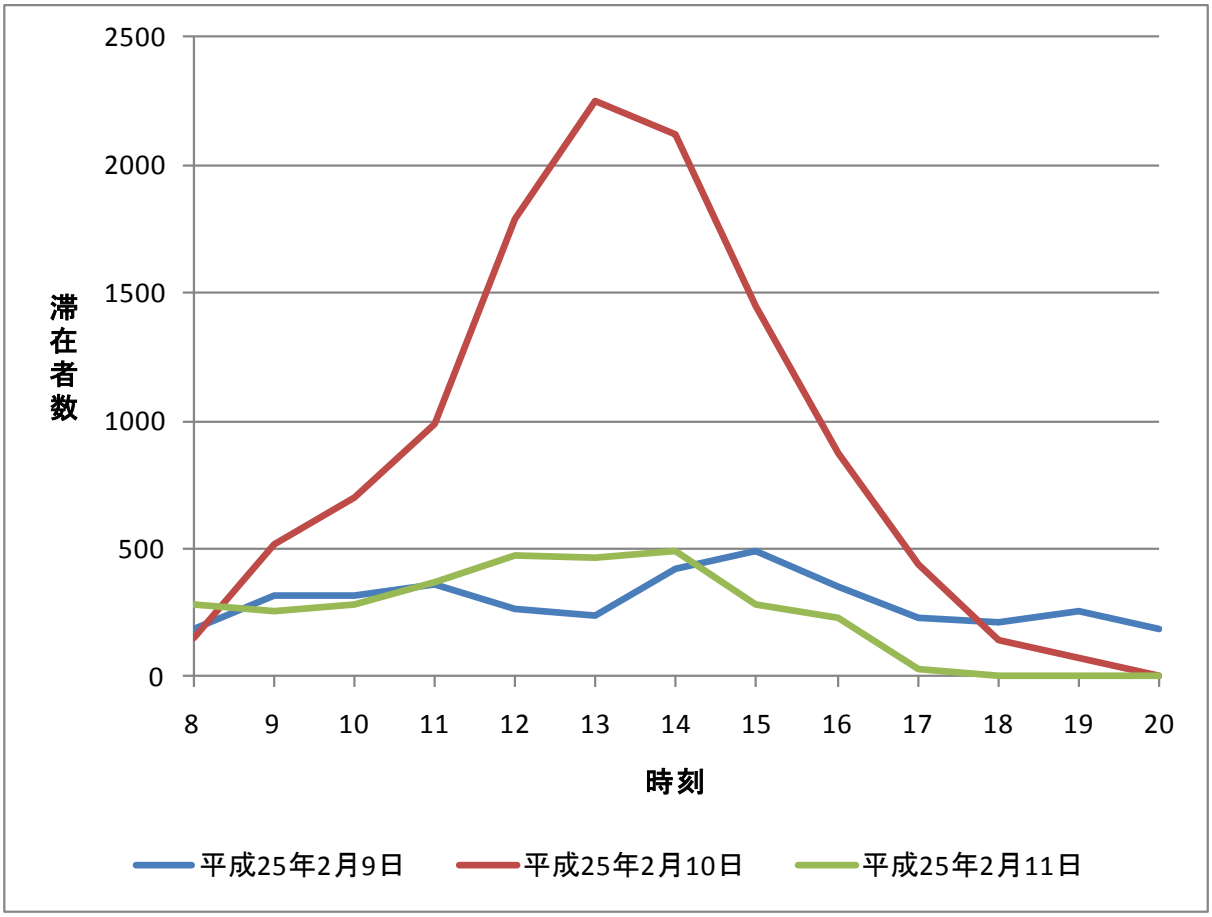


図表 VI－３－３６　名護市営球場の都道府県別比率



図表 VI－３－３７の滞在者数推移に着目すると、2 月 10 日（日）は 13 時・14 時をピークとして滞在者数が大きく増加しており、練習試合が 12 時 30 分に開始したためと推測される。なお 2 月 9 日（土）は、19 時より「北海道日本ハムファイターズ・ファンの集い」というイベントがあった。

図表 Ⅵ－３－３７　名護市営球場の調査エリアの滞在者数推移



４． 小結

本調査では、沖縄を訪れる観光客に対し、いつ、どこに、どの程度の人数がいるかに着目し、携帯電話の仕組みを利用したモバイル空間統計とプレミアパネルを使った調査・分析を行った。

● 観光客数調査

観光客数に関しては、沖縄県全域の観光客数を 10 月と 1 月の 2 回に分けて調査した。年齢層別にみると、10 月の平日は 15～19 歳の観光客が最も多く、休日や 1 月との比較からも修学旅行生の影響が大きく出ていることがわかった。居住エリア別で見ると、10 月は南関東からの観光客が最も多いが、1 月は東京都が最も多く、季節による変動も認められた。また、10 月は平日と休日観光客数の差が大きいのに対し、1 月ではその差は小さくなっている。ここでも修学旅行生の影響が一つの要因となっていると考えられる。

広域圏の調査では、モバイル空間統計とアンケートは良く似た傾向を示すことが確認できた。15～19 歳は本部半島、北部西海岸、南部エリアで多く、多くのエリアでは年齢が上がるほど観光客は少なくなるが、本部半島、北部西海岸、南部、離島エリアでは 60 代以上の観光客が多かった。

市町村の調査では、モバイル空間統計で推計可能な時間単位での観光客の増減に注目し、昼増加して夜減少する地域、昼減少して夜増加する地域、昼・夜の増減が少ない地域に分類した。これらの分類により、観光客数の時間変化が、観光施設や宿泊施設の充実度を把握する一つの指標となる可能性を示した。

プレミアパネルを使ったアンケート調査では、旅行日程に応じた訪問エリアを調査し、那覇市近郊は初日と旅行終盤、那覇市から離れた北部エリアは 2 日目がピークとなり、中部エリアは 3 日目以降も訪問者が多いことがわかった。訪問エリアの組み合わせを見ると、短期の旅行では那覇市近郊エリアや本部半島、北部西海岸エリアの観光客が多いのに対し、長期の旅行では、離島や沖縄本島全域にわたった旅行が多いことが分かった。

● イベント調査

イベントが沖縄観光にどのように影響しているのかを定量的に把握するため、世界エイサー大会とプロ野球キャンプを対象に調査した。

世界エイサー大会の入込客数は 1 日目が 5,400 人、2 日目が 9,400 人となり、2 日目の方が多かった。またエイサーという沖縄の伝統文化のイベントであるが、20・30 代の若い世代が多かった。

プロ野球キャンプでは、滞在者数の時間変化から練習試合や天候が観光客数に大きな影響を与えることがわかった。また、居住エリア別の人数によると、各球団の本拠地が存在する都道府県から多く来沖していることが明らかになった。県内では年間に各種イベントが開催されるが、プロ野球キャンプが沖縄観光を活性化する重要なイベントであることも確認できた。

これまでの調査手法で把握することは難しかった、時間、曜日、季節、居住エリア等に応じたきめ細かい観光客数を、モバイル空間統計を活用し調査することで、より戦略的で効果の高い施策の実施につなげることが可能になると考えられる。

モバイル空間統計の留意点

本調査で活用したモバイル空間統計は、携帯電話サービスを行う際に発生する運用データを統計処理して推計した人口統計であるため、以下のような留意点がある。

a. 推計対象の違い

- モバイル空間統計は、集計対象エリア内に観測される全ての人口であるため、その数値には、エリア内において何らかの目的（居住、通勤、通学、買物など）をもって滞留している人口のみならず、集計対象エリア内における道路やモノレールなどを移動中の人口も一定の割合で含まれる。
- そのため、幹線道路やモノレール駅が存在し交通量が多いエリアのモバイル空間統計には、一定量の移動中の人口が含まれているという点について留意が必要である。

b. 人口の拡大処理による影響

- モバイル空間統計は、携帯電話の運用データをもとにしており、居住エリア（都道府県）別・年齢層別の携帯電話契約率を考慮し、実際に存在した人口を推計している。
- 70 代以上や 10 代以下の年齢層は、もともと契約率が低く、また、居住エリアによって契約率に偏りがあることから誤差が生じやすい。本報告書では 15 歳から 79 歳までの人口を対象としている。

c. 基地局エリアから集計エリアへの変換の影響

- モバイル空間統計は、基地局単位で人口分布を算出している。そのため基地局の密度が低い地域、すなわち人口の少ない郊外部などでは、地理的解像度（集計エリア単位）を細かくすると誤差が生じやすい。

d. プライバシー保護処理による影響

- モバイル空間統計は、プライバシー保護の観点から、集計人数が少ない場合には人口をゼロとするなどの秘匿処理がなされている。そのため、地理的解像度の細かい推計や人口密度の低い地域での推計、あるいは細かい個人属性での推計を行う場合には秘匿処理による誤差が生じやすい。

その他のモバイル空間統計の詳細については、以下の URL を参照。

http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/disclosure/mobile_spatial_statistics/index.html

本調査で利用したモバイル空間統計は、戦略的リピーター事業のみで活用し、その他の目的での利用や第三者への提供は行わない。